

鹿児島県の漁具漁法図集

一本釣
立縄
延縄
曳縄

昭和62年3月

鹿児島県

は じ め に

この漁具漁法図集は、県下の沿岸で操業されている一本釣・延縄・曳縄漁業等について、水産業改良普及員の方々が調査してとりまとめたものです。

最近では漁船装備の近代化、情報網の発達、漁業資材の開発などにより漁具・漁法も改善されており、県といたしましてもこれらの導入・改良等の普及指導に積極的に取り組んでいるところです。

漁具・漁法は漁獲対象魚種及び漁場環境等や地域によっても異っていますが、本書は県下の釣漁業の記録であるとともに、今後更に普及並びに創意工夫に当たっての参考資料になれば幸いと存じます。

最後に、調査にあたり種々御協力を頂きました多くの方々に対し深く御礼申し上げます。

昭和 62 年 3 月

鹿児島県水産振興課長 志 賀 正 昭

目 次

〔一本釣〕

1. タイ一本釣	(里村漁協)	2
2. "	(野間池漁協)	4
3. "	(かいえい漁協)	6
4. "	(鹿児島市漁協)	8
5. タイかぶし釣	(阿久根市漁協)	10
6. "	(平良漁協)	12
7. タイたぐり釣	(阿久根市漁協)	14
8. "	(山川町漁協)	16
9. キダイ一本釣	(串木野市漁協)	18
10. イトヨリ一本釣	(串木野市漁協)	20
11. "	(笠沙町漁協)	22
12. イサキ一本釣	(東町漁協)	24
13. "	(野間池漁協)	26
14. イサキ一本釣(夜焚)	(長浜漁協)	28
15. ブリヒラス一本釣(活餌)	(野間池漁協)	30
16. カマス一本釣	(笠沙町漁協)	32
17. サバー一本釣(昼釣り)	(かいえい漁協)	34
18. キホター一本釣	(野間池漁協)	36
19. キンメ一本釣	(野間池漁協)	38
20. 瀬物一本釣	(串木野市漁協)	40
21. "	(かいえい漁協)	42
22. "	(大和村漁協)	44
23. ホター一本釣	(瀬戸内漁協)	46
24. ヒラメ一本釣	(阿久根市漁協)	48
25. イカー一本釣(夏イカ)	(阿久根市漁協)	50
26. タコ釣	(東町漁協)	52
27. フグひっかけ釣	(かいえい漁協)	54
28. キダイ一本釣	(上屋久町漁協)	56
29. サバー一本釣	(上屋久町漁協)	58

〔立縄〕

1. カジキビン玉流し釣	(笠沙町漁協)	61
2. ハガツオ立縄釣	(佐多岬漁協)	63

〔延縄立延縄〕

1. マタイ延縄	(秋目漁協)	66
2. "	(佐多岬漁協)	68
3. "	(鹿児島市漁協)	70
4. "	(串木野市島平漁協)	72
5. レンコ・アコダイ延縄	(市来町漁協)	74
6. "	(串木野市島平漁協)	76
7. アラカブ延縄	(黒之浜漁協)	78
8. ブリ延縄	(野間池漁協)	80
9. ハモ延縄	(東町漁協)	82
10. "	(串木野市島平漁協)	84
11. トラフグ延縄	(阿久根市漁協)	86
12. "	(志布志漁協)	88
13. 深海立延縄	(瀬戸内漁協)	90

〔曳縄〕

1. ブリ・ヒラス・ゴム曳縄	(西之表市漁協)	93
2. ブリ・ヒラス・曳縄	(里村漁協)	95
3. "	(西之表市漁協)	97
4. ブリ・テンテン曳縄	(里村漁協)	99
5. サワラ曳縄	(江口漁協)	101
6. "	(喜界島漁協)	103
7. サゴシ曳縄	(笠沙町漁協)	105
8. "	(志布志漁協)	107
9. ヨコワ曳縄	(笠沙町漁協)	109
10. シビ曳縄	(名瀬漁協)	111
11. シャンボ曳縄	(西之表市漁協)	113
12. "	(名瀬市漁協)	115
13. "	(瀬戸内漁協)	117
14. カジキ曳縄	(喜界島漁協)	119
15. ヒラメ曳縄	(市来町漁協)	121
16. タチウオ曳縄	(錦江漁協)	123
17. "	(串木野市島平漁協)	125
18. 甲イカ曳縄	(野間池漁協)	127
19. メチカ曳縄	(上屋久町漁協)	129

一 本 釣

タイ一本釣漁業

- 1 資料提供 里村漁業協同組合
2 調査担当 西薩水産業改良普及所（上甌村駐在）
3 漁船規模及び乗組員 3 t 40 Ps 1～2人

4 漁法

(1) 操 刻 = 冬 夜間（11時～夜明まで）
夏 9時～夜明まで

(2) 漁 法 = 掛り釣＝錨掛り

(3) 船と瀬の位置 = 瀬上

(4) その他（操業方法等）

- 魚探で瀬を探し山あてで位置を確認し、潮上から船を流し反応のあった所に船をもってくる。
- 漁具を底まで着け、1ヒロ、2ヒロ、3ヒロと異った3組の漁具を入れる。
- 潮のかわりめがよく喰う。月の日は良くない。
- 8月は釣れない。
- 9月はカンパチがくる。

5 漁 期 1月～12月（最盛期4月～6月）

6 漁場

- (1) 水 深 = 30～40 m
(2) 底 質 = 天然礁
(3) 漁場の選定 = 魚探山当

7 餌 料

種 類	掛 餌	
	キビナゴ	ミズイカ
大きさ 量	1尾掛け 背 け	切 身

8 主 な 漁 獲 物 タイ（1～2 kg）
カンパチ（1～1.3 kg）

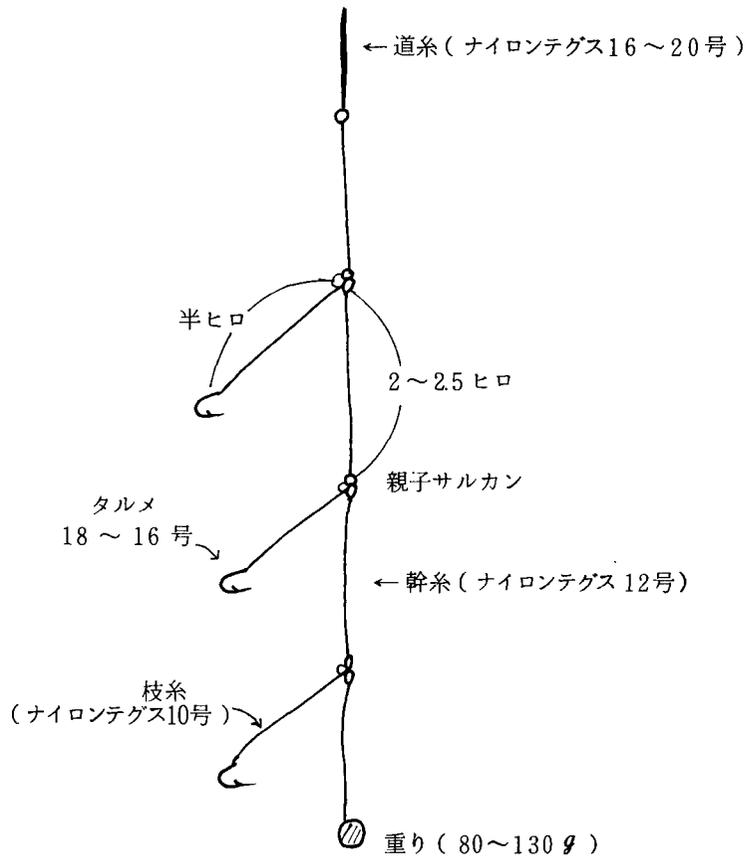
9 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 集魚灯 水上灯=4ヶ×1,000W

11. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
道糸	ナイロン	16~20号 50ヒロ	1	
幹糸	〃	12号 4~10ヒロ	1	
枝糸	〃	10号 0.5ヒロ	3	枝間2~2.5ヒロ
釣針	鋼	タルメ釣 16~18号	3	
重り	鉛	80~130g	1	

12. 漁具図又は操業図



タイ一本釣漁業

1. 資料提供 野間池漁業協同組合
2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 3.54 t 35 Ps 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ 夕間ヅメ
(2) 漁法 = 流し釣=風帆
(3) 船と瀬の位置 = 瀬上
(4) その他(操業方法等)
○ 道具が垂直になるように、船を絶えず動かす。
○ 底につけたあと、10ヒロ位あげたり下げたりをくり返す。

5. 漁期 2月～4月(最盛期2月～4月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 60 m～70 m
(2) 底質 = 天然礁・人工礁
(3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	掛餌
種類	冷凍エビ
大きさ量	5～6 cm

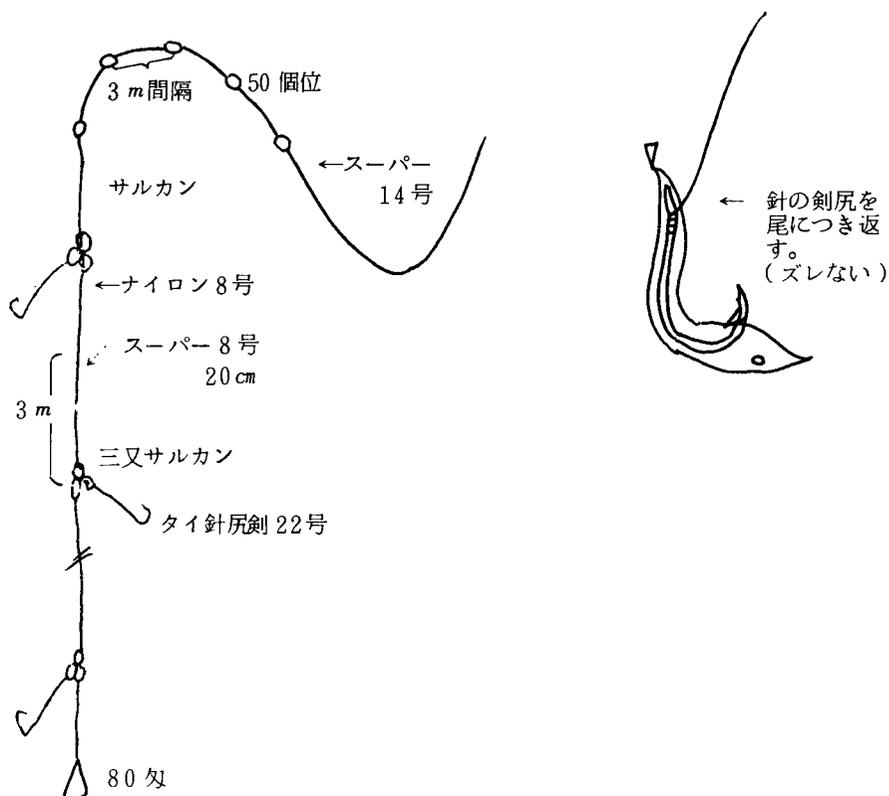
8. 主な漁獲物 タイ(ブリ)

9. 漁獲物の処理 活漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	スーパ-	14号 150 m	1本	
幹 糸	ナイロン	8号 15 m	1本	
技 糸	スーパ-	8号 20 cm	5本	技間 3 m
釣 針	鋼	タイ針尻剣 22号	5本	.
重 り	鉄 玉	80 匁	1ヶ	
び し	鉛		50個	(道糸の下半分はビシヨマ)

11. 漁具図又は操業図



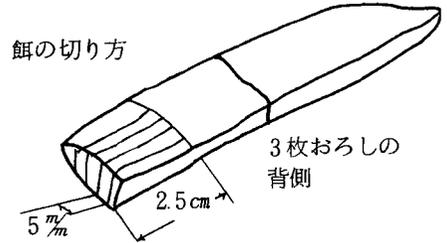
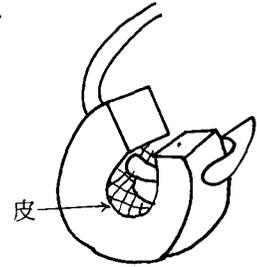
タイ一本釣漁業

1. 資料提供 かいえい漁業協同組合
 2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 2.9 t 25 Ps 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ, 午前
 (2) 漁法 = 流し釣=風帆
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬上
 (4) その他(操業方法)

道具を海底から2ヒロ半上げてしゃくるしゃくりと、当りを5回位繰り返したら道具を上げて、ポイントの上までさかのぼる。



5. 漁期 9月～11月(最盛期9月～10月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 50 m～150 m
 (2) 底質 = 天然礁
 (3) 漁場の選定 = 魚探, ロラン, 山当

7. 餌料

	掛 餌	撒 餌
種類	サンマ	タレ
大きさ量	2.5 cm × 0.5 cm	刻む

8. 主な漁獲物 タイ

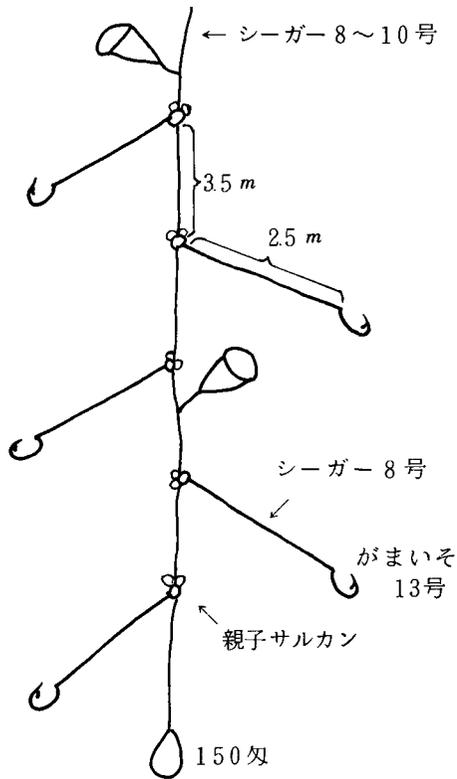
9. 漁獲物の処理 活魚, 水氷

10月以降のみ活魚(水温が高いと死ぬ)

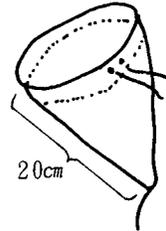
10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	シーガー	8 ~ 10 号 200 m	1 本	
幹 糸	シーガー	8 ~ 10 号 18	1 本	
技 糸	シーガー	8 号 2.5 m	5 本	技間 3.5 m
釣 針	鋼	がまかつ 13号	5 本	がまいそ
重 り	鉛	150 匁	1 ケ	.
かぶし袋	傘 地	直径 15 cm の円錐型	2 個	

11. 漁具図 又は 操業図



まき餌袋



コウモリ傘地
(黒)

(まき餌が少しずつ出るように袋の口をしぼって(しばらず)投入する。)

タ イ 一 本 釣 漁 業

1. 資 料 提 供 鹿 児 島 市 漁 業 協 同 組 合
 2. 調 査 担 当 鹿 児 島 水 産 業 改 良 普 及 所
 3. 漁 船 規 模 及 び 乗 組 員 1.96 t 45 Ps 1人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝 間 ツ メ , 夕 間 ツ メ , 潮 変 り 前 後
 (2) 漁 法 = 流 し 釣 = 風 帆
 (3) 船 と 瀬 の 位 置 = 瀬 上
 (4) そ の 他 (操 業 方 法 等)

- マダイの生活水深はその時の潮・風などにより下層か中層か一定しない。
- 魚探，山当てで瀬と魚群を見定め漁具を入れる。
- 船を流している時，最初に当りのあったところにもどる。
- 釣れる魚が大型から小型に変わったら別の漁場が変わる。

5. 漁 期 1月～12月（最盛期2月～4月）

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 4月～10月 15 m～50 m
 12月～2月 100 m～100 m
 (2) 底 質 = 天然礁，人工礁（瀬附近の潮上）
 (3) 漁場の選定 = 魚探，山当

7. 餌 料

	掛 餌
種 類	エ ビ
大 き さ 量	7 cm

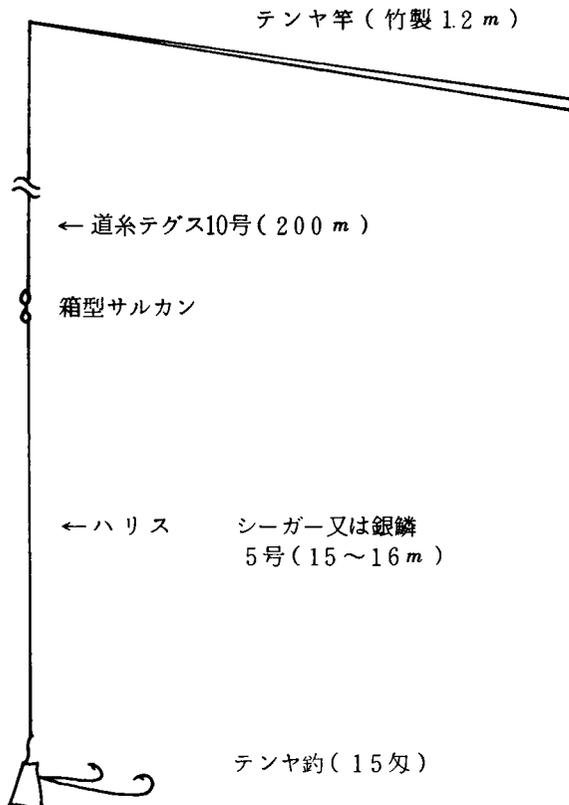
8. 主 な 漁 獲 物 マ ダ イ

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
道糸	テグス	10号 200m	1本	
幹糸	(ハリス) シーガー	5号 15~16m	1本	毎日とりかえる 入り鯛は6号
釣針	鉛・鋼	2本 掛 てんや 15 匁 とめ針 1本	1ケ	
テナヤ竿	竹	1.2m	2本	1本は予備

11. 漁具図又は操業図



タイかぶし釣漁業

1. 資 料 提 供 阿久根市漁業協同組合
2. 調 査 担 当 北薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4t 50Ps 3人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝間ヅメ, 午前, 午後, 夕間ヅメ
(2) 漁 法 = 掛り釣=錨掛り
(3) 船と瀬の位置 = 瀬上
(4) その他(操業方法)

。 3～5トンの小型動力船に3人～5人乗り組み, 漁場に着くとまず用意したカブシ餌(包丁で細かく刻んだもの)に海水を混ぜ, 軟らかくしてハンカチで包む。この場合, 釣元のテグスは8字にたばねておもりでおさえるようにして包み投入する。海底から15～20m(10ヒロ～15ヒロ)位引揚げて, 強く道糸を引くとハンカチの結び目ごとけ, カブシ餌と釣餌がでる。

あらかじめ準備した竹ベラに道糸をかけ, これが終ると前と同じ操作で別の道具を投入する。このようにして1人で2道具を使用する。

5. 漁 期 12月～5月(最盛期3月～5月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 70～100m
(2) 底 質 = 天然礁, 人工礁
(3) 漁場の選定 = 魚探

7. 餌 料

	掛 餌	撒 餌
種 類	キビナゴ	キビナゴ
大 小 量	8 cm 1 尾	5 kg

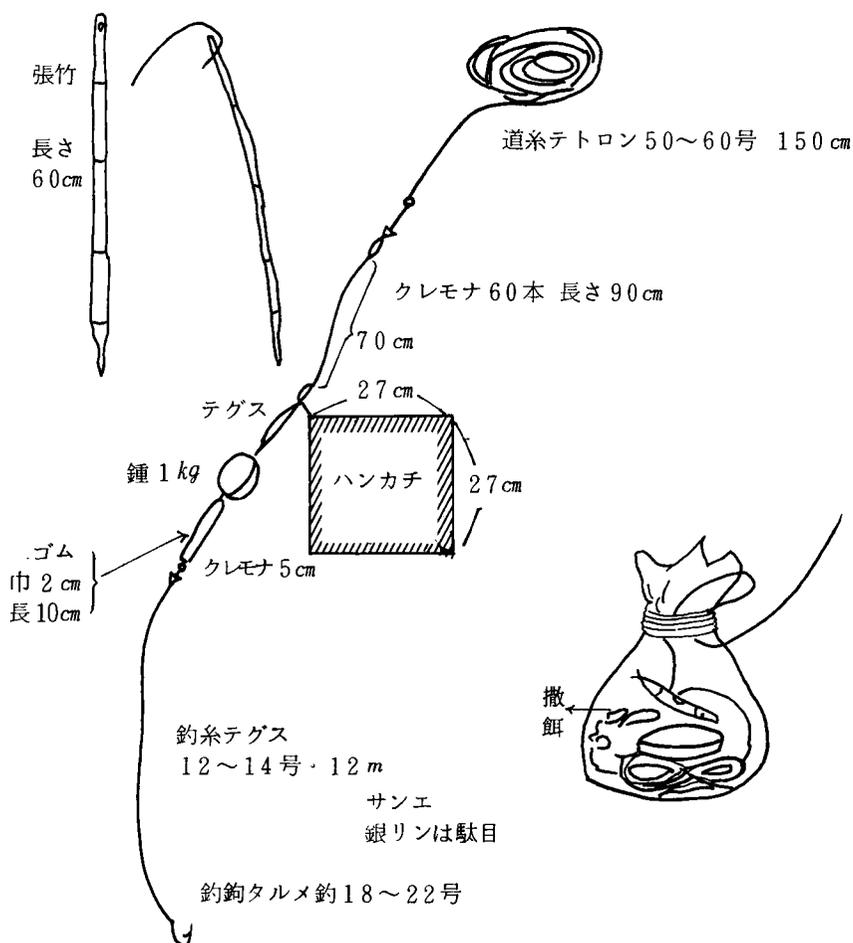
8. 主 な 漁 獲 物 タイ, ブリ, ヒラス

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	テトロン	50～60号 150 m	1	
幹 糸	クレモナ	60本 90 cm	1	
技 糸	ナイロン	12～14号 12 m	1	
釣 針	鋼	タルメ釣 18,～22号	1	
重 り	鉛	1 kg	1	
ハンカチ	帆布	27 cm 角	1	

11. 漁具図又は操業図



タイ かぶし 釣 漁 業

1. 資 料 提 供 平 良 漁 業 協 同 組 合
2. 調 査 担 当 西 薩 水 産 業 改 良 普 及 所 (上 甌 村 駐 在)
3. 漁 船 規 模 及 び 乗 組 員 3 ~ 5 t P s 1 ~ 2 人
4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午 前, 午 後, 夕 間 ズ ム
- (2) 漁 法 = 掛 り 釣 = 錨 掛 り
- (3) 船 と 瀬 の 位 置 = 瀬 上
- (4) その他 (操業方法等)
 - 魚 探 で 瀬 を 探 し 山 あ て て 位 置 を 確 認 し, 潮 上 か ら 船 を 流 し 反 応 の あ っ た 所 に 船 を も っ て く る。
 - 漁 場 に 着 い た ら 用 意 し た か ぶ し 餌 (包 丁 で 細 か く き ざ ん だ も の) に 海 水 を 混 ぜ, 軟 ら か く し て ハ ン カ チ で 包 む。こ の 場 合, 釣 元 の テ グ ス は 8 字 に た ば ね て お も り で お さ え る よ う に し て 包 み 投 入 す る。
 - 海 底 か ら 10 ~ 20 ヒ ロ 位 引 揚 げ て 強 く 道 糸 を 引 く と, ハ ン カ チ の 結 び 目 が と け て か ぶ し 餌 と 釣 餌 が 出 る。3 ヒ ロ 位 引 上 げ る。あ ら か じ め 準 備 し た 竹 ベ ラ に 道 糸 を かけ, 別 の 道 具 を 前 と 同 じ 操 作 で 投 入 す る。こ の よ う に し て 1 人 で 2 道 具 を 使 用 す る。

5. 漁 期 2 月 ~ 5 月

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 80 m ~ 90 m
- (2) 底 質 = 天 然 礁
- (3) 漁 場 の 選 定 = 魚 探

7. 餌 料

	掛 餌	撒 餌
種 類	キビナゴ	キビナゴ
大 き さ 量	1 尾 掛 け	細 か く き ざ む

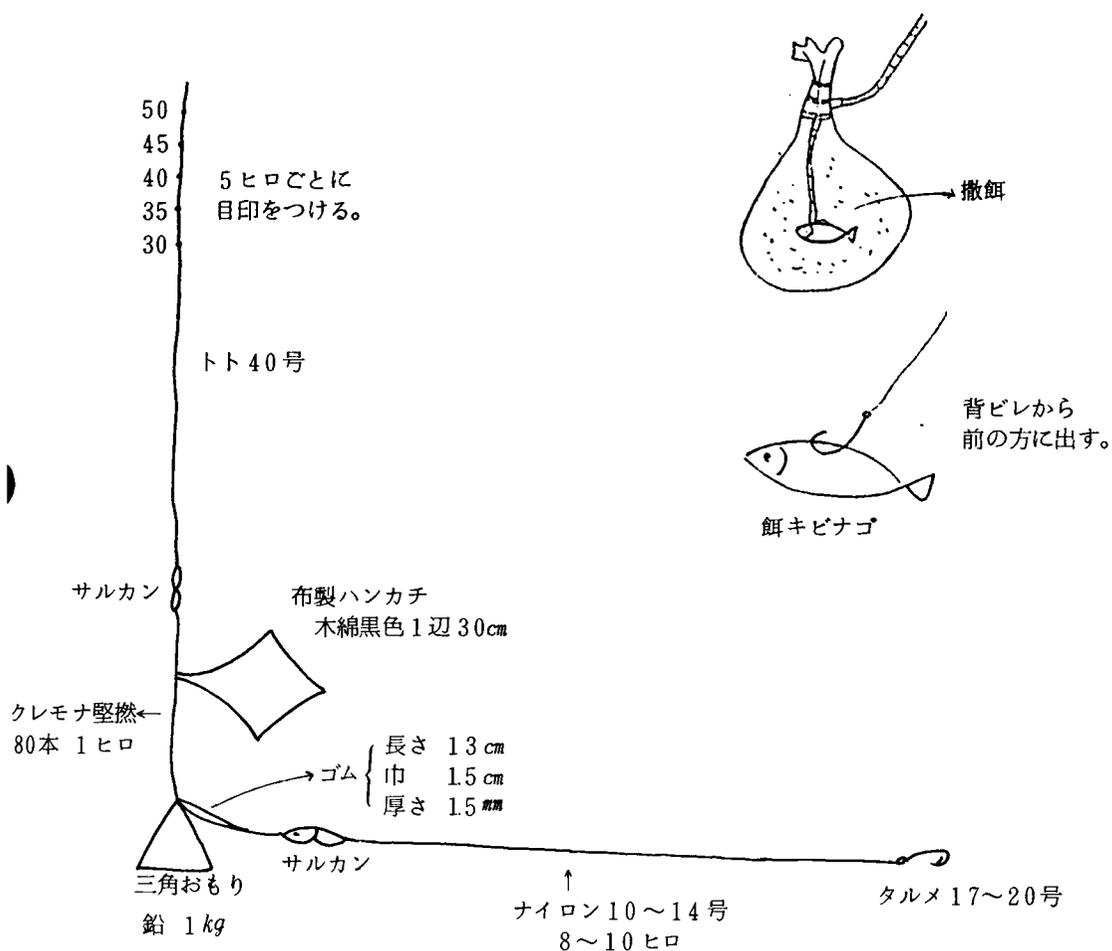
8. 主 な 漁 獲 物 タイ, ブリ, ヒラス

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	ナイロン	トト40号 100 m	1	
幹 糸	クレモナ 堅 燃	80本 1ヒロ	1	
技 糸	ナイロン	10~14号 8~10ヒロ	1	
釣 針	鋼	タルメ 17~20号	1	
重 り	鉛	1 kg	1	
ハンカチ	木綿(黒色)	30cm/1辺	1	

11. 漁具図又は操業図



タイたぐり釣（シーアンカー利用）漁業

1. 資 料 提 供 阿久根市漁業協同組合
2. 調 査 担 当 北薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 2.5 t 40 Ps 1人
4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝間ヅメ，午前，午後，夕間ヅメ
- (2) 漁 法 = 流し釣＝シーアンカー
- (3) 船と瀬の位置 = 瀬の中
- (4) その他（操業方法等）

- 魚探で反応を探り，シーアンカーを船尾から流して漁具を入れて，潮流れるする。
- 1人で2～3個の漁具を使用，漁具の入れ方は魚探反応を見て，瀬の際で漁具を入れ，10～15 mたぐり，これを繰り返す。
- 対象魚が底にいる場合は喰いつくが，15 m位の所で喰う事もある。
- 海底に近い反応がタイが揚がる率が多い。
- 漁具の途中にビシ（鉛）が打ってあるので，漁具の先が海底についたか，どうか，分るのが肝心である。
- 瀬から離れたらシーアンカーを揚げて元の位置に移動する。

5. 漁 期 1月～12月（最盛期10月～6月）

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 20 m～150 m（50 m～100 mが好漁場）
- (2) 底 質 = 天然礁，人工礁
- (3) 漁場の選定 = 魚 探

7. 餌 料

	掛 餌
種 類	アカエビ
大 小 量	5 cm 1～2尾掛け

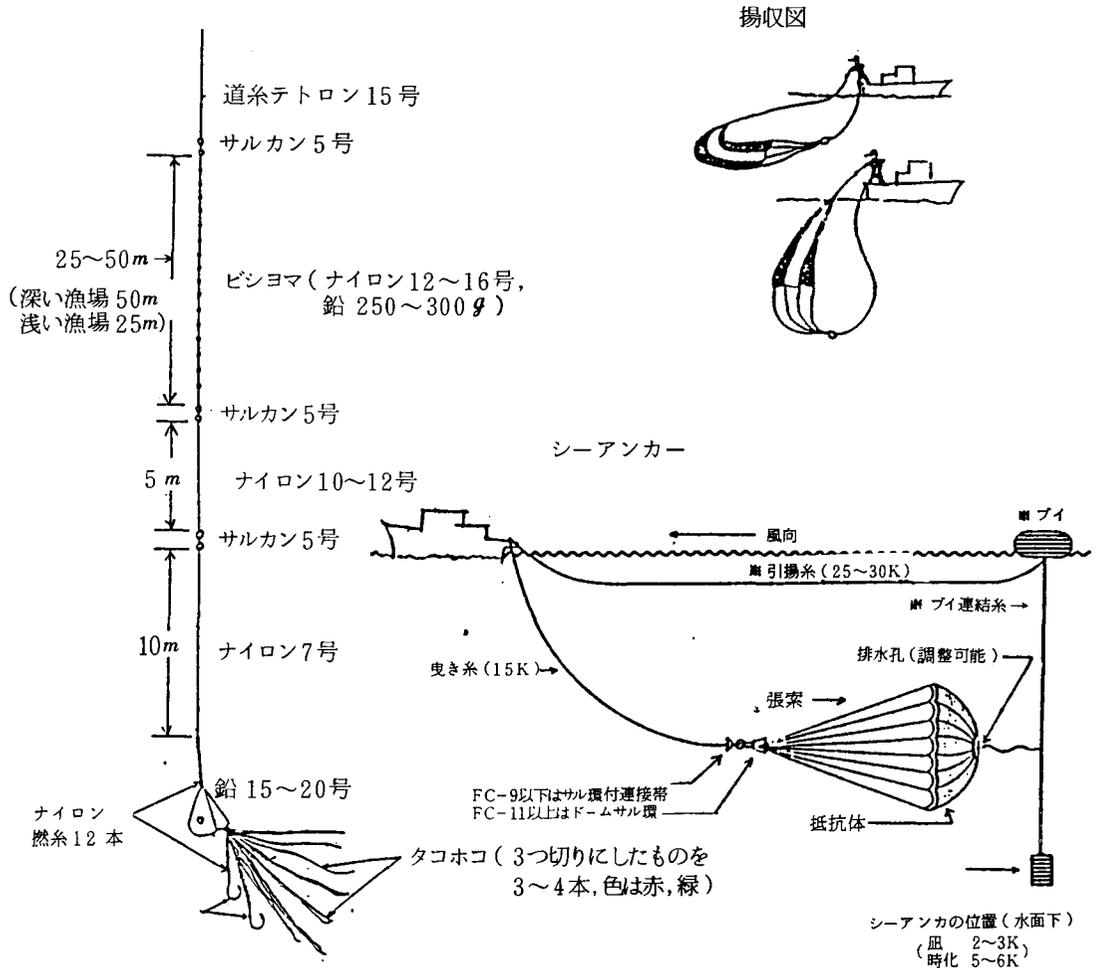
8. 主 な 漁 獲 物 タイ，アラカブ，ヒラス

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	テトロン	15 号	1	
幹 糸	ナイロン	12~16号 25~50 m	1	ビシヨマ鉛 250~300 g
	ナイロン	10~12号 5 m 7 号 10 m	1	
先 糸	ナイロン 燃 糸	12 本	1	
釣 針	鋼	タイ釣 16~17号	2	
重 り	鉛	15~20号	1	

11. 漁具図又は操業図



タイたぐり漁業

1. 資料提供 山川町漁業協同組合
 2. 調査担当 鹿児島水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 3 t 40 Ps 2人

4. 漁 法

- (1) 操業時刻 = 午前, 午後
 (2) 漁 法 = 流し釣 = 風 帆
 掛り釣 = 錨掛り

(3) 船と瀬の位置 = 瀬上, 瀬の中

(4) その他(操業方法等)

- 魚探で魚群をさぐり, かかり釣 あるいはとも帆を使って流し釣で
 周日操業。帰港は日没頃になる。

5. 漁 期 11月～6月(最盛期 3月～4月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 50 m～140 m (50～70 mのところが多い)
 (2) 底 質 = 天然礁
 (3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌 料

	掛 餌	
種 類	活エビ	ゴカイ
大 小 量	5～7 cm	10 cm

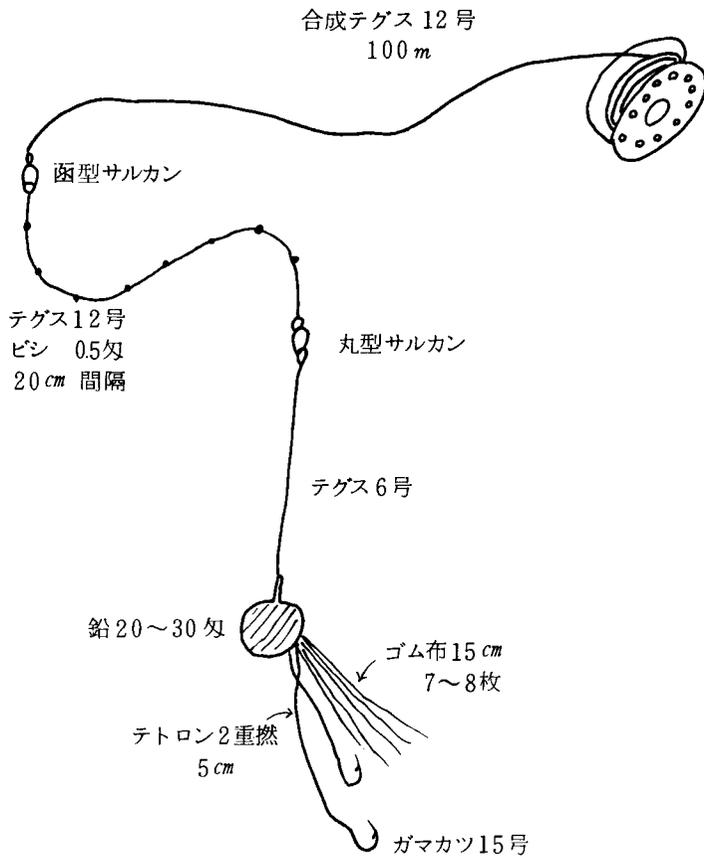
8. 主 な 漁 獲 物 タイのほかヒラス, アラ, プリ

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	合 成 テグス	12 号	100 ~ 150 m	
幹 糸	〃	12号ビシ0.5号 20 cm打	30 m	
先 糸	〃	6 号	10 m	
釣 針	鉛・鋼	鯛玉(メッキ) 20~30号		
		ガ マ カ ツ 15~16号		

11. 漁具図又は操業図



キダイ一本釣漁業

1. 資料提供 串木野市漁業協同組合
2. 調査担当 西薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 17t 20Ps 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 午前, 午後
(2) 漁法 = 流し釣 = 風帆
(3) 船と瀬の位置 = 瀬上
(4) その他(操業方法等)
○ 魚探で探し, 山あてにより確認
○ 風に向かってゴーヘイをくり返して操業する。
○ 漁具を入れ, オモリが底についたら 15 m たぐり上げる。
その後シャクリをくり返す。
○ アタリがあったら糸をのぼし, また次のあたりをまつ。
○ 4~5尾かかったら引き上げる。

5. 漁期 1月~12月(最盛期 8月~12月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 100 m ~ 150 m
(2) 底質 = 天然礁のきわ(貝殻まじりの砂)
(3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌料

	掛餌
種類	アミ
大きさ量	2尾掛

8. 主な漁獲物 キダイ, アマダイ

9. 漁獲物の処理 氷漬

10. 揚 繩 機 等

種 類

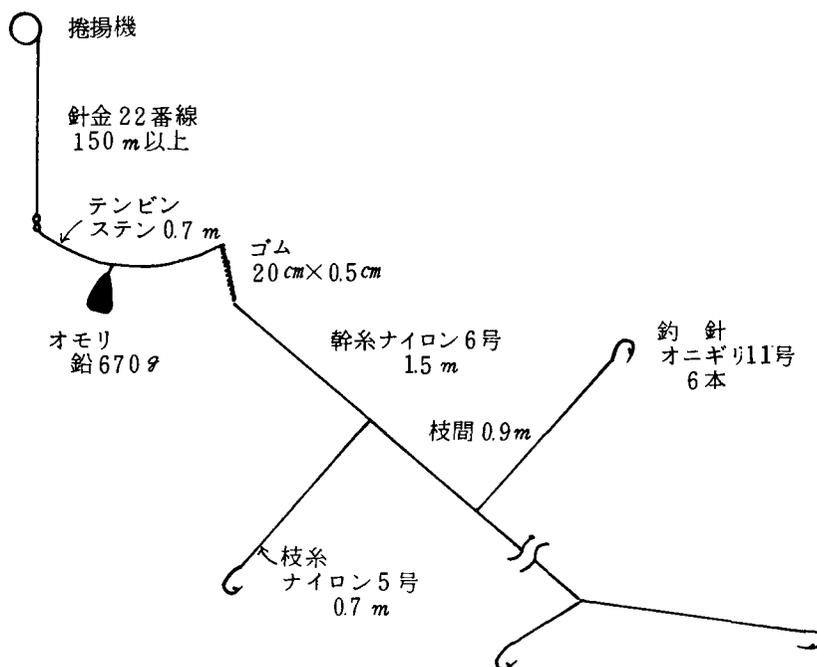
(手動式)

※ 近いうちに電動式釣機を設置する予定

11. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格・寸 法	数 量	備 考
道 糸	針 金	22 番 線	150 m 以上	・
幹 糸	ナイロン	6 号	5 m	
枝 糸	〃	5 号	0.7 m	枝間 0.9 m
釣 針	オニギリ	11 号	6 本	
重 り	鉛	560 ~ 670 g	1 個	
テンビン	針 金 ス テ ン	φ 1.2 ~ 1.5 長さ 0.7 ~ 0.7 m	1 本	
緩衝ゴム	ゴ ム	チューブ幅 5 m \ m	0.2 m	

12. 漁具図又は操業図



イトヨリ一本釣漁業

1. 資料提供 串木野市漁業協同組合
2. 調査担当 西薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 1. ~ 15 t 15 ~ 20 Ps 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 午前
(2) 漁法 = 流し釣 = 風帆
(3) その他(操業方法等)

。 山あて及びロランで位置を確認し，風に向かって船を流しつつ，漁具を投入する。オモリが底についたらシャクリをくり返す。

あたりがあったらその都度手動もしくは自動釣機で揚縄する。

5. 漁期 1月~12月(最盛期 7月~10月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 30 m ~ 100 m
(2) 底質 = その他(泥砂)
(3) 漁場の選定 = ロラン, 山当

7. 餌料

	掛餌
種類	沖アミ
大きさ量	1尾掛け

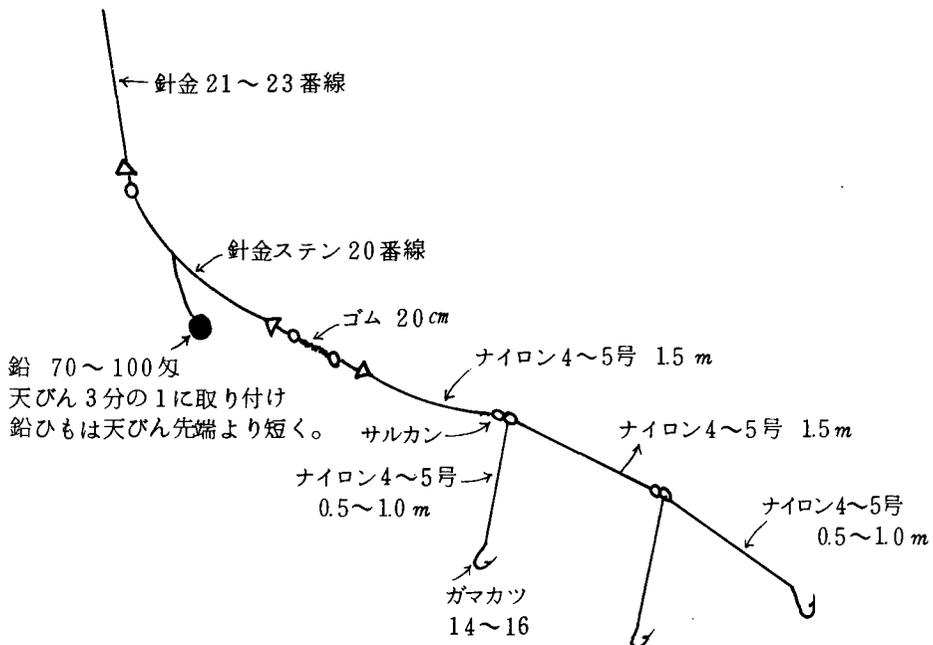
8. 主な漁獲物 イトヨリ, エソ

9. 漁獲物の処理 水氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格・寸 法	数 量	備 考
道 糸	針 金	21 ~ 23 番 線	100 ~ 200 m	
幹 糸	ナイロン	4 ~ 5 号	4.5 m	
技 糸	ナイロン	4 ~ 5 号	0.5 ~ 1.0 m	技間 1.5 m
釣 針	鋼	ガマカツ 14~16号	3 本	
重 り	鉛	260 ~ 380 g	1 個	
片天びん	針金ステン	φ 1.2 ~ 1.5 m/m 長さ 0.6 ~ 0.7 m	1 本	
スプリング	ゴ ム	0.2 m	1 個	

11. 漁具図又は操業図



イトヨリ一本釣漁業

1. 資料提供 笠沙町漁業協同組合
2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 0.55t外20Ps 1人

4. 漁法

(1) 操業時刻 = 午前, 午後

(2) 漁法 = 流し釣

(3) その他(操業方法等)

道具を底につけ, 2~3回重りで底をたたくようにし泥をまきあげにさせる。

当りは, 明確でないのでわずかな当りで当て掛けする。

5. 漁期 4月~10月(最盛期 7月~9月)

6. 漁場

(1) 水深 = 50m~80m

(2) 底質 = 砂

(3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	掛 餌	
種類	オキアミ	シバエビ
大きさ量	3 CM	3 CM

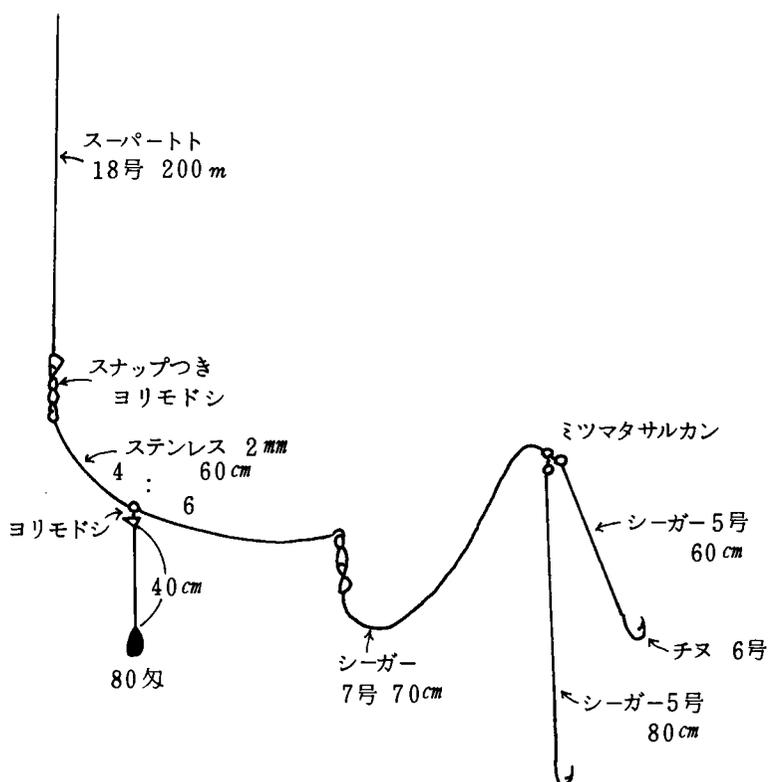
8. 主な漁獲物 イトヨリ, レンコダイ, エソ, アマダイ

9. 漁獲物の処理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	スーパートト	18号 200 m	1	
幹 糸	シーガー	7号 70 cm	1	
技 糸	シーガー	5号 60 cm, 80 cm	各1本	
釣 針	鋼	チヌ釣 6号	2	
重 り	鉛	80 匁	1	

11. 漁具図又は操業図



イサキ一本釣漁業

1. 資料提供 東町漁業協同組合
2. 調査担当 北薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 3.0 t 50 Ps 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ, 午前, 午後
(2) 漁法 = 流し釣 = 風帆
(3) 船と瀬の位置 = 瀬上
(4) その他(操業方法等)

○魚探で瀬・魚群を探し, 潮上から風帆を立てて船を流しながら操業する。

○漁具を入れたら, 底についたことを確かめ1ヒロ~2ヒロ引き上げてあたりを待つ。

5. 漁期 1月~12月(最盛期 5月~8月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 20 m ~ 50 m
(2) 底質 = 天然礁, 人工礁
(3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌料

	撒餌
種類	沖アミ
大きさ量	カブシ袋1杯

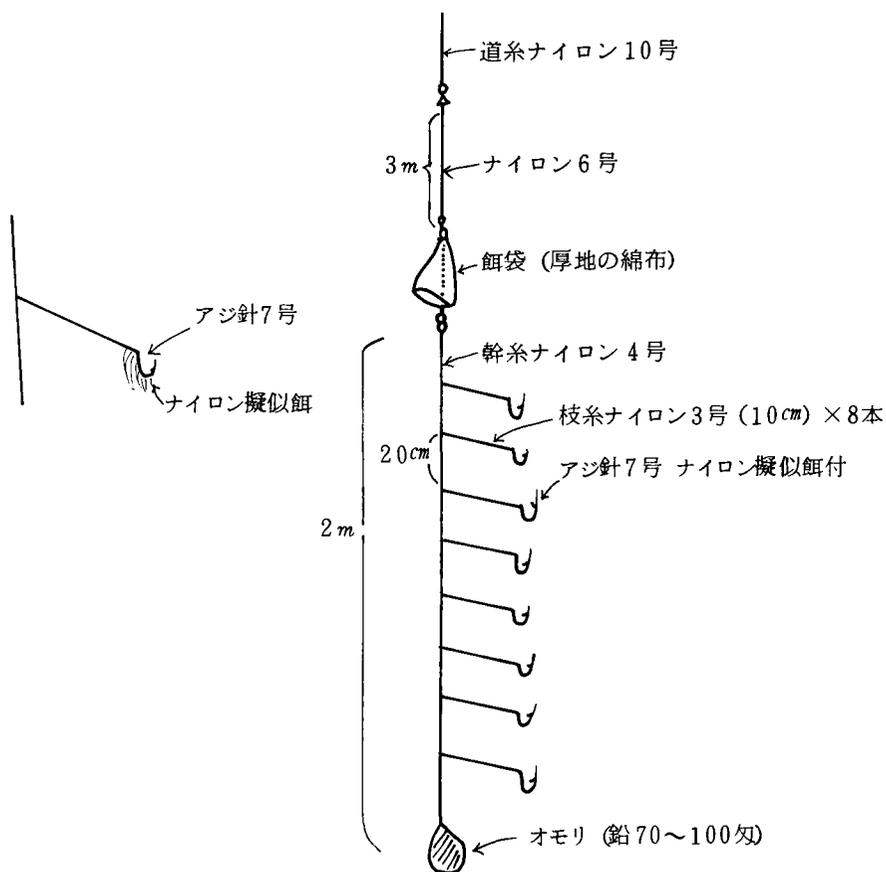
8. 主な漁獲物 イサキ, アジ

9. 漁獲物の処理 活漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	ナイロン	10 号	1	
幹 糸	ナイロン	6号 3m 4号 2m	1	
枝 糸	ナイロン	3号 10cm	8	枝間 20cm
釣 針	鋼	アジ針 7号	8	
重 り	鉛	70~100匁	1	
餌 袋	厚地の綿布	径10cm、長15cm円錐	1	

11. 漁 具 図 又 は 操 業 図



イ サ キ 一 本 釣 漁 業

1. 資 料 提 供 野 間 池 漁 業 協 同 組 合
 2. 調 査 担 当 南 薩 水 産 業 改 良 普 及 所
 3. 漁 船 規 模 及 び 乗 組 員 3.5 t 40 Ps 1 人
 4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午 前, 午 後, 夜 間 夏 (7 時 ~ 5 時)
 (2) 漁 法 = 掛 り 釣 = 錨 掛 り
 (3) 船 と 瀬 の 位 置 = 瀬 上
 (4) そ の 他 (操 業 方 法 等)
- 魚 探 で 瀬 を 探 し, 山 あ て で 位 置 を 確 認 し, 潮 上 か ら 船 を 流 し, 反 応 の あ っ た 所 に 船 を も っ て く る。
 - 漁 具 を 入 れ た ら 3 K 位 た ぐ り あ げ, 魚 の タ ナ を 探 す。
 - あ た り が あ っ た ら そ の 所 (道 糸) に 印 を し て, 次 に は 5 K 位 深 く い れ シャ ク リ な が ら あ げ る。

5. 漁 期 1 月 ~ 1 2 月 (最 盛 期 9 月 ~ 1 0 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 30 m ~ 90 m
 (2) 底 質 = 天 然 礁, 人 工 礁
 (3) 漁 場 の 選 定 = 魚 探

7. 餌 料

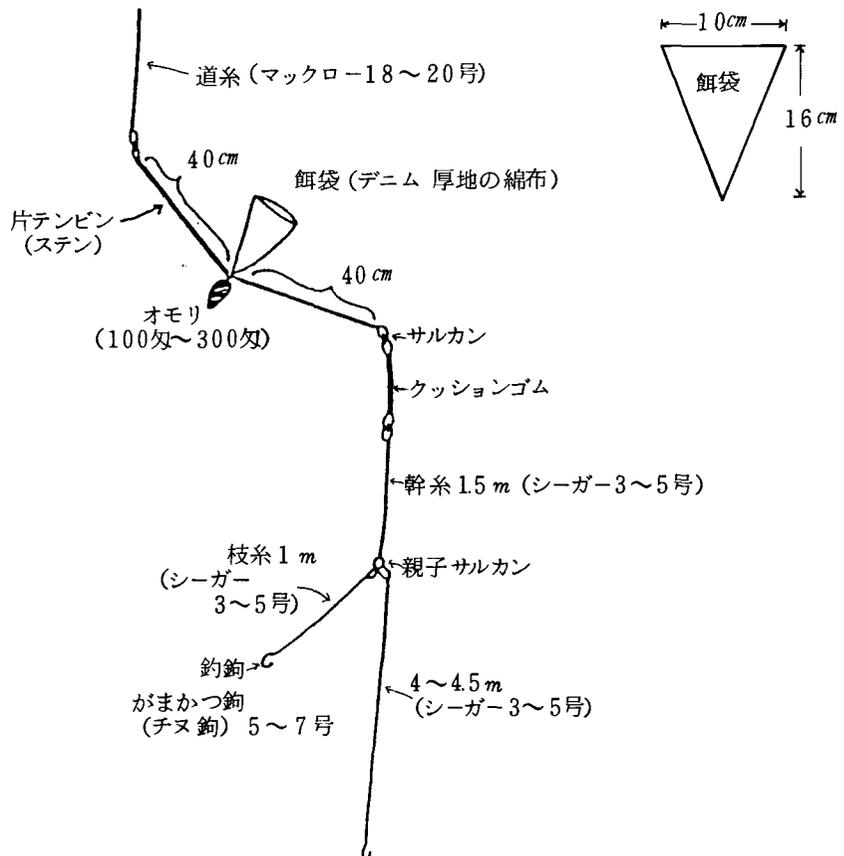
	掛 餌	撒 餌
種 類	沖 ア ミ	ア ミ と パ ン 粉
大 き さ 量	1 尾 掛 け	カ プ シ 袋 1 杯

8. 主 な 漁 獲 物 イ サ キ, ア ジ
 9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷
 10. 集 魚 灯 水 中 灯 = 2 ケ × 100 W (夏)

11. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	マックロー	18 ~ 20 号	1	
幹 糸	シーガー	3 ~ 5 号 1.5 m	1	
枝 糸	シーガー	3 ~ 5 号 1 ~ 4.5 m	2 ~ 3	
釣 針	鋼	がまかつ鉤 チヌ鉤 5 ~ 7 号	2 ~ 3	金色がよい
重 り	鉄	100 ~ 300 匁	1	
片手 テンビン	ス テ ン	16 番線 70 ~ 80 m	1	
クッションゴム		丸 型 5 m / m 40 cm	1	
餌 袋	厚地の綿布	径 10 cm, 長 16 cm 円錐	1	

12. 漁 具 図



イサキ（夜焚）一本釣漁業

1. 資料提供 長浜漁業協同組合
 2. 調査担当 西薩水産業改良普及所（上甕村駐在）
 3. 漁船規模及び乗組員 5 t 70 Ps 2人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 夜間（夕方～朝）
 (2) 漁法 = 掛り釣＝錨掛り
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬の中
 (4) その他（操業方法等）
- 魚探で魚群を探し潮流をみて 潮上にかかり船を反応のあった所につ
け、道具を入れる。
 - 船の移動が少ないように、できるだけ重い錨を入れる。
 - 漁具を底まで着け、反応の位置まで漁具をたぐり撒き餌が籠から出る
よう一度たぐり2～3ひろ道具をあげる。瀬の所では、魚は必ず潮上
にいる。
 - 水深70 mの所では30 m位魚を浮かせて釣る。大きい魚は上に浮い
てくる。

5. 漁期 2月～8月（最盛期 4月～6月）

6. 漁場

- (1) 水深 = 24 m～70 m
 (2) 底質 = 天然礁 その他（砂浜石ころ）
 (3) 漁場の選定 = 魚探，山当
 (4) その他 = 礁のまわり，平たい礁がよい。

7. 餌料

	掛 餌	撒 餌
種 類	オキアミ	アミ
大きさ 量	1尾掛け	籠 1 杯

8. 主な漁獲物 イサキ，タイ

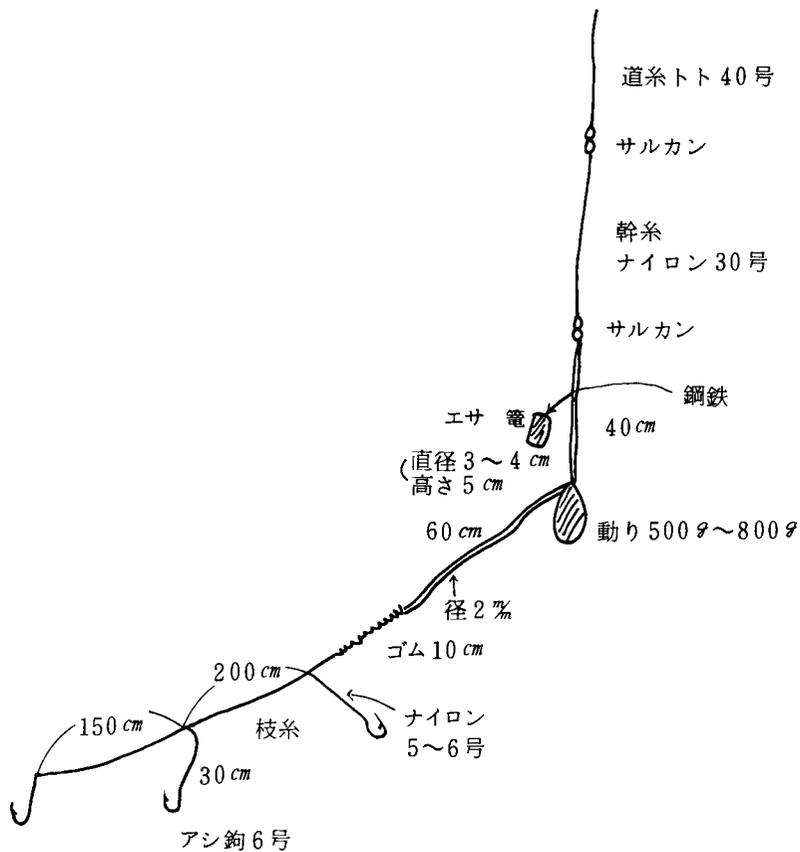
9. 漁獲物の処理 活漁

10. 集魚灯 水上灯 = 2ヶ × 2 KW

11. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
道糸	ナイロン	トト40号 100 m	1	
幹糸	ナイロン	30号	1	
枝糸	ナイロン	5~6号 30 cm	2	枝間150~200 cm
釣針	鋼	アジ鉤 6号	3	
重り	鉛	500~800 g	1	
テンビン	鋼鉄	直径 2 mm	1	
まき餌籠	プラスチック	直径 3~4 cm	1	

12. 漁具図又は操業図



ブリ・ヒラス（活餌）一本釣漁業

1. 資料提供 野間池漁業協同組合
2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.75 t 70 Ps 3人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 午前, 午後
(2) 漁法 = 流し釣 = 風帆
(3) 船と瀬の位置 = 瀬上
(4) その他（操業方法等）

- まず、餌のアジをギジ餌で釣ってから漁場へ向かう（6時～9時ぐらいまで）
- 活アジは背鰭の根元にかける。
- 重りをいったん底につけてから、3ヒロたぐり、そこで誘う。

5. 漁期 8月中～12月（最盛期 10月～11月中）

6. 漁場

- (1) 水深 = 50～80 m
(2) 底質 = 天然礁
(3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	掛餌
種類	アジ
大きさ量	10 cm

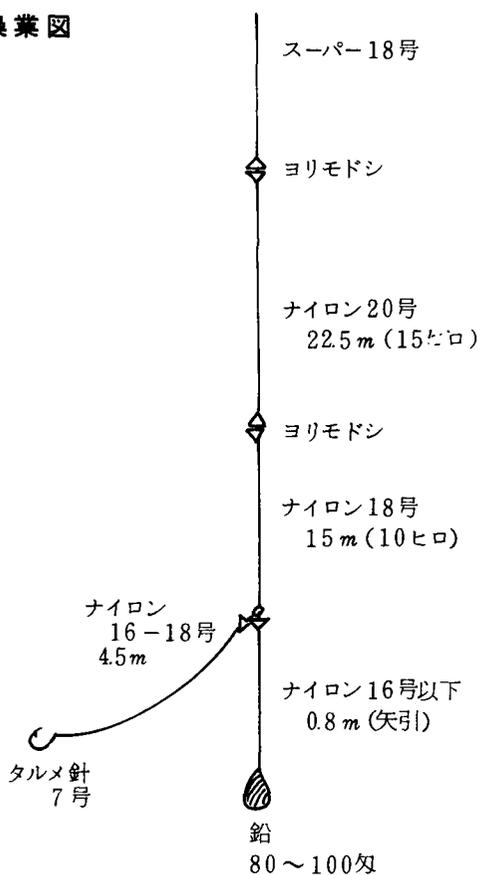
8. 主な漁獲物 ブリ, ヒラス

9. 漁獲物の処理 活漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	スーパ-	18 号	1	全長で 100 ~ 120 m
	ナイロン	20号 22.5 m	1	
	ナイロン	18号 15.0 m	1	
技 糸	ナイロン	16号~18号 4.5 m	1	
釣 針	鋼	タルメ針 7号	1	
重 り	鉛	80 ~ 100 匁	1	
キ ラ セ	ナイロン	16号 0.8 m	1	16号以下で良い

11. 漁具図又は操業図



カマス一本釣漁業

1. 資料提供 笠沙町漁業協同組合
 2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 0.55 t 外 20 P s 1 人

4. 漁 法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ 午前
 (2) 漁 法 = 掛り釣 = 錨掛り
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬上, 瀬の中, 瀬下
 (4) その他 (操業方法等)
 底につけてから 3 ~ 5 ヒロあげる
 餌は頭上からたてにかける
 大きい場合は半分に切る



5. 漁 期 4 月 ~ 9 月 (最盛期 4 月 ~ 5 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 10 m ~ 40 m
 (2) 底 質 = 天然礁, 人工礁
 (3) 漁場の選定 = 魚 探 山 当

7. 餌 料

	掛 餌
種 類	キビナゴ
大き 量	7 cm

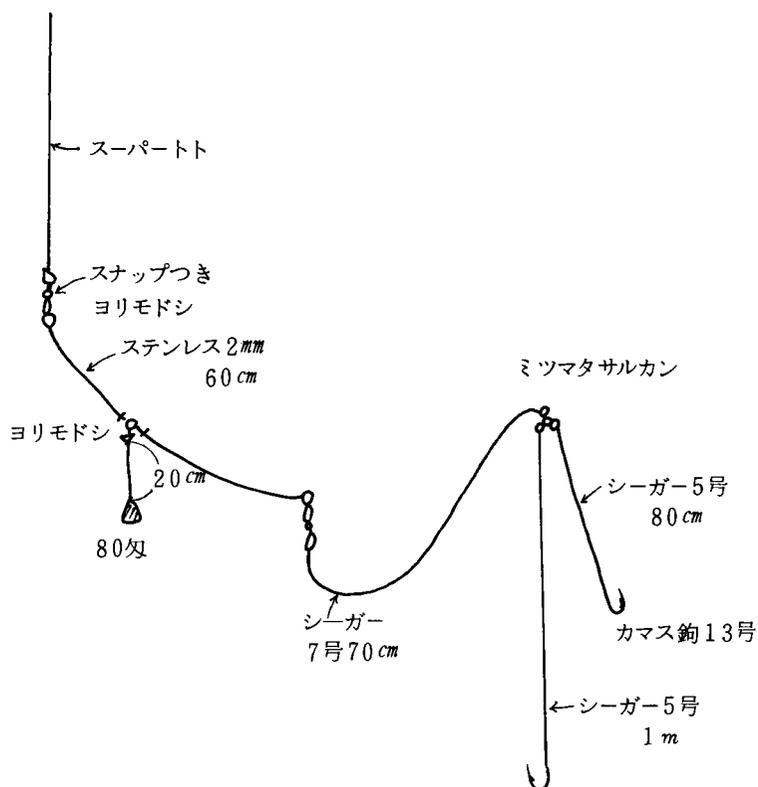
8. 主 な 漁 獲 物 カマス, エソ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名称	材 質	規格・寸法	数量	備 考
道 糸	スーパートト	18号 100 m	1	
幹 糸	シーガー	7号 70 cm	1	
枝 糸	シーガー	5号 80 cm 1 m	各1本	
釣 針	鋼	カマス鉤 13号	2	
重 り	鉛	80 匁	1	
テンビン	ス テ ン	$\phi 2 \frac{7}{8} \text{mm}$ 長さ 60 cm	1	前4, 後6の割合

11. 漁具図又は操業図



サバ（昼釣）一本釣漁業

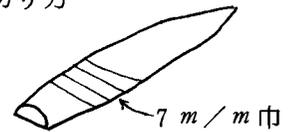
1. 資料提供 かいえい漁業協同組合
 2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 2.9 t 25 Ps 1人
 4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 午前，午後
 (2) 漁法 = 流し釣＝風帆
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬上
 (4) その他（操業方法等）

魚探反応に直接道具を入れる エサの切り方

しゃくって、当りを待ち、当りがなければ片手（矢引き）引上げてまたしゃくる。これを繰り返して上にあげていく。

魚がいても多く食いつかせるためにすぐに上げない。



5. 漁期 6月～12月（最盛期 7月）
 （竹島周辺は6～9月中旬，かいえい近海は9～12月）

6. 漁場

- (1) 水深 = 60 m～140 m
 (2) 底質 = 天然礁
 (3) 漁場の選定 = 魚探，ロラン，山当

7. 餌料

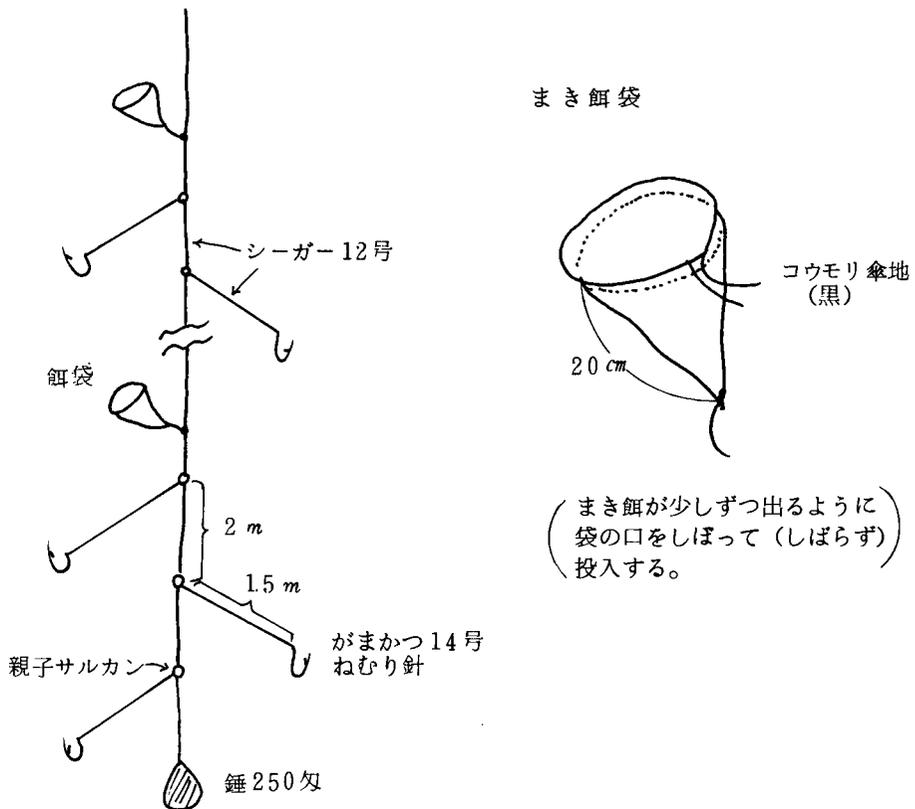
	掛 餌	撒 餌
種 類	サ ン マ	タ レ
大 小 量	3枚おろし を7 m / m 幅に切る。	刻 む

8. 主な漁獲物 サバ（大アジも混じる）
 9. 漁獲物の処理 活間に活かしておいて市場に出すときクビ折れにする。

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	シーガー	12号 200 m	1本	
幹 糸	シーガー	12号 26 m	1本	(2 m × 12本) + 2 m
枝 糸	シーガー	12号 1.5 m	12本	枝間 2 m
釣 針	鋼	がまかつ 14号	12本	ねむり針
重 り	鉛	250 匁	1本	丸 形
かぶし袋	傘 地	直径12 ~ 13 cm 円錐型	2個	

11. 漁具図又は操業図



キホタ一本釣漁業

1. 資料提供 野間池漁業協同組合
 2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 4.97 t 90 Ps 5人

4. 漁 法

- (1) 操業時刻 = 午前, 午後
 (2) 漁 法 = 流し釣=風帆
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬上
 (4) その他(操業方法等)

- 道具は餌釣, 擬餌釣を兼ね各2つずつ用いる。潮, 時期, 漁場などによりどちらにかかるかわからない。
- 魚探にあらわれる魚群の水深の上層に道具をおとす。
- 道具はしゃくるように動かし, 喰いがなければ7~10 mたぐり, 再び元に戻す。

1 航海 2 泊3日くらい

5. 漁 期 5月~8月(最盛期 7月~8月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 50 m~80 m
 (2) 底 質 = 天然礁
 (3) 漁場の選定 = 魚 探

7. 餌 料

	掛 餌	撒 餌
種 類	オキアミ	シオアミ
大きさ 量	5 cm	アンドンビシ一杯

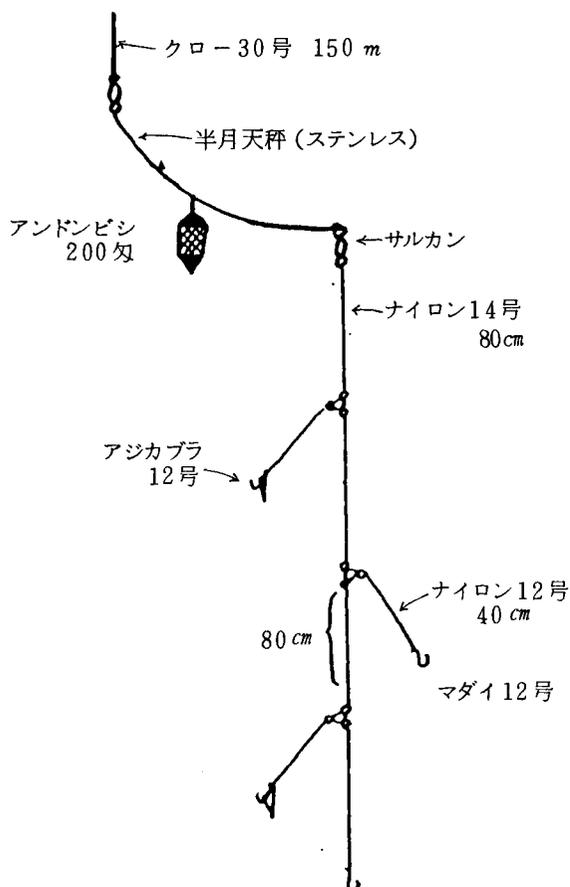
8. 主 な 漁 獲 物 キホタ, ムロアジ, ヒラアジ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	ク ロ ー	30号 150 m	1	0.8 m × 3
幹 糸	ナイロン	14号 2.4 m	1	0.8 m × 3
枝 糸	〃	12号 40 cm	4	枝間 80 cm
釣 針	鋼	マ ダ イ 12号	2	
		ア ジ カ ブ ラ 12号	2	
重 り	鉛	ア ン ド ン ビ シ 200 匁	1	

11. 漁 具 図 又 は 操 業 図



キンメ一本釣漁業

1. 資料提供 野間池漁業協同組合
2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.97 t 90 Ps 5人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 午前, 午後
(2) 漁法 = 流し釣 = 風帆
(3) 船と瀬の位置 = 瀬上
(4) その他(操業方法等)

1 航海 2 ~ 3 日

1人よりも, 4 ~ 5人で一斉に底で釣るのがよい
日中ぼちぼち釣れるが, 日没前が特に喰いが良い。

5. 漁期 5月 ~ 8月(最盛期 6月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 120 m ~ 130 m
(2) 底質 = 天然礁, その他(瀬と瀬の間の砂)
(3) 漁場の選定 = 魚探

7. 餌料

	掛餌
種類	キビナゴ
大きさ量	8 cm

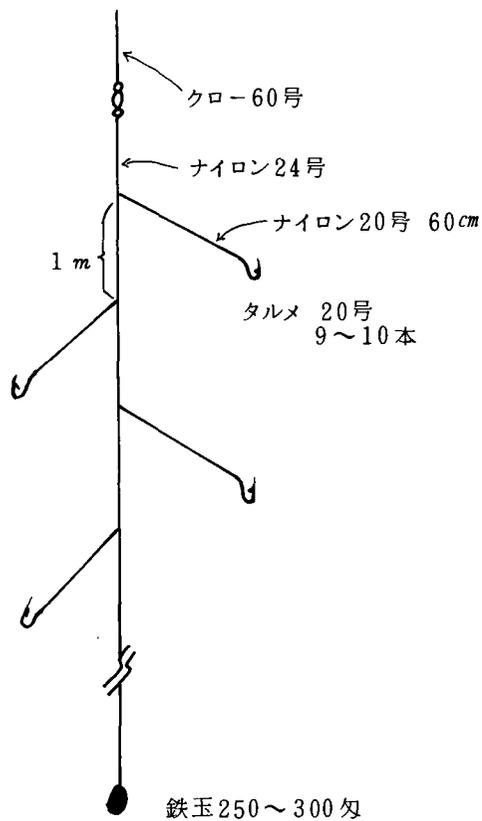
8. 主な漁獲物 キンメ

9. 漁獲物の処理 水氷

10. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
道糸	クロー	60号 300m	1	
幹糸	ナイロン	24号	1	
技糸	ナイロン	20号 60cm	9~10本	技間 1m
釣針	鋼	タルメ 20号	〃	
重り	鉄	250 ~ 300 匁	1	

11. 漁具図又は操業図



瀬 物 一 本 釣 漁 業

1. 資 料 提 供 串 木 野 市 漁 業 協 同 組 合
 2. 調 査 担 当 西 薩 水 産 業 改 良 普 及 所
 3. 漁 船 規 模 及 び 乗 組 員 9.1 t 120 Ps 5 人
 4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝 方 から 夕 方 ま で
 (2) 漁 法 = 流 し 釣 = 風 帆
 (3) 船 と 瀬 の 位 置 = 瀬 上 , 瀬 の 中 , 瀬 下
 (4) そ の 他 (操 業 方 法 等)

- ロラン (A , C) 及 び 魚 探 で 位 置 を 確 認 す る と と も に , 魚 群 よ り 潮 上 に 釣 具 を 投 縄 し , 底 に つ い た ら カ プ シ を 撒 く た め に し ゃ くり な が ら 魚 の 喰 い を 待 つ 。
- 釣 果 が な い 時 は た だ ち に 移 動 し て , ロラン ・ 魚 探 で 魚 群 を 捜 索 す る 。

5. 漁 期 1 月 ~ 12 月 (最 盛 期 7 月 ~ 9 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 90 m ~ 300 m (魚 種 ・ 漁 場 に よ り 異 な る が , 概 ね 160 m 前 後 の 操 業 が 多 い)
 (2) 底 質 = 天 然 礁
 (3) 漁 場 の 選 定 = 魚 探 , ロラン

7. 餌 料

種 類	掛		餌		撒 餌
	冷凍ソーダカツオ	冷凍若イカ	冷凍ヒラサバ		
大 小 量	切身 1 cm × 5 cm × 10 cm	切身 cm cm 1 cm × 5 × 6	切身 cm cm 1 cm × 5 × 10		冷凍のものを ミンチする

8. 主 な 漁 獲 物 (主 体) チビキ , ホタ , イナゴ
 (混 り) カンパチ , タルメ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷 , 氷 漬
 釣りあげた魚は夕方まで水氷で処理しておき , 夕方氷漬 (箱詰) とする。

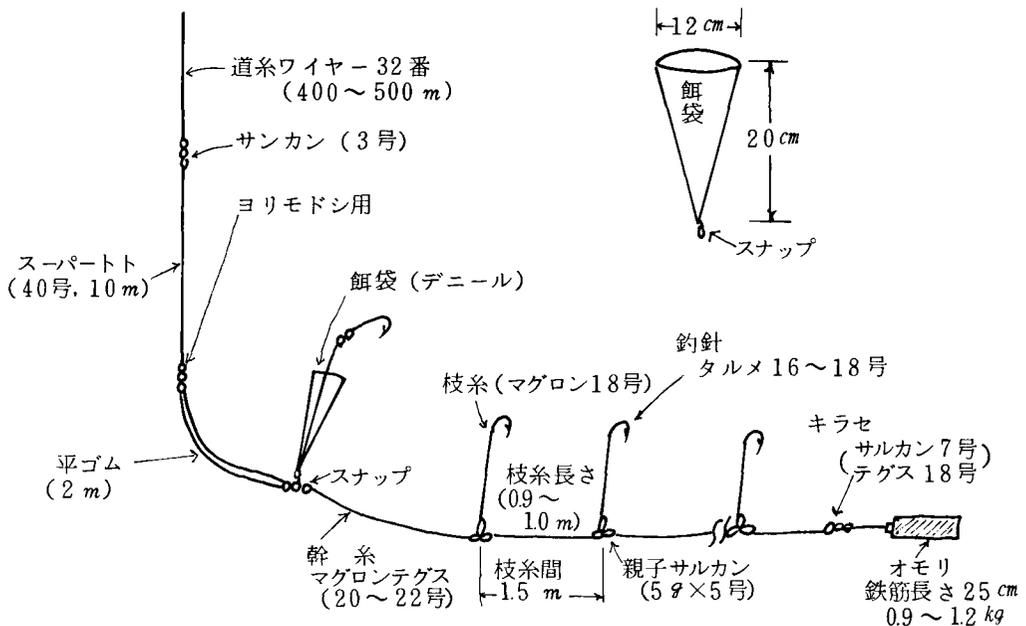
10. 揚 繩 機 等

種類 型式 回転数
 電動 不明 60回転 / 1分
 自動ストップ = 有・

11. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規格・寸法	数 量	備 考
道 糸	ワ イ ヤ	32 番	400 ~ 500 m	1 人 当 り
幹 糸	マグロンテグス	20 ~ 22 号	1.5 m × 9 本	
枝 糸	〃	18 号	1.0 m × 9 本	枝 間 1.5 m
釣 針	鋼	タルメ針 16 ~ 18 号	9 本	
重 り	鉄 筋	φ 3 cm × 25 cm	1 本	
道 糸	スーパートト	40 号 × 10 m	1 本	
クッション ゴ ム	平 ゴ ム	2 m	1 本	
餌 袋	デ ニ ール	12 cm × 20 cm	1 袋	

12. 漁具図又は操業図



※ 魚種によって、枝糸・釣針を替える。(常時準備している)

瀬物一本釣漁業

1. 資 料 提 供 かいえい漁業協同組合
 2. 調 査 担 当 南薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 9.8 t 70 Ps 6 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝間ヅメ, 午前, 午後, 夕間ヅメ
 (2) 漁 法 = 流し釣 = 風 帆
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬 上
 (4) その他(操業方法等)

各人が, 片舷から一済に道具を入れて, 釣り上げと漁具投入をくり返す。釣り上げには自動釣機を用いる。

5. 漁 期 1 月 ~ 12 月 (最盛期 4 月 ~ 9 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 80 m ~ 300 m
 (2) 底 質 = 天 然 礁
 (3) 漁場の選定 = 魚探, ロラン

7. 餌 料

	掛 餌	撒 餌
種 類	サ ン マ	タ レ ク チ
大 き さ 量	3 枚おろしの 3 ~ 5 枚切り	ミ ン チ

8. 主 な 漁 獲 物 ホタ, イナゴ, チビキ, ムツ, タルメ

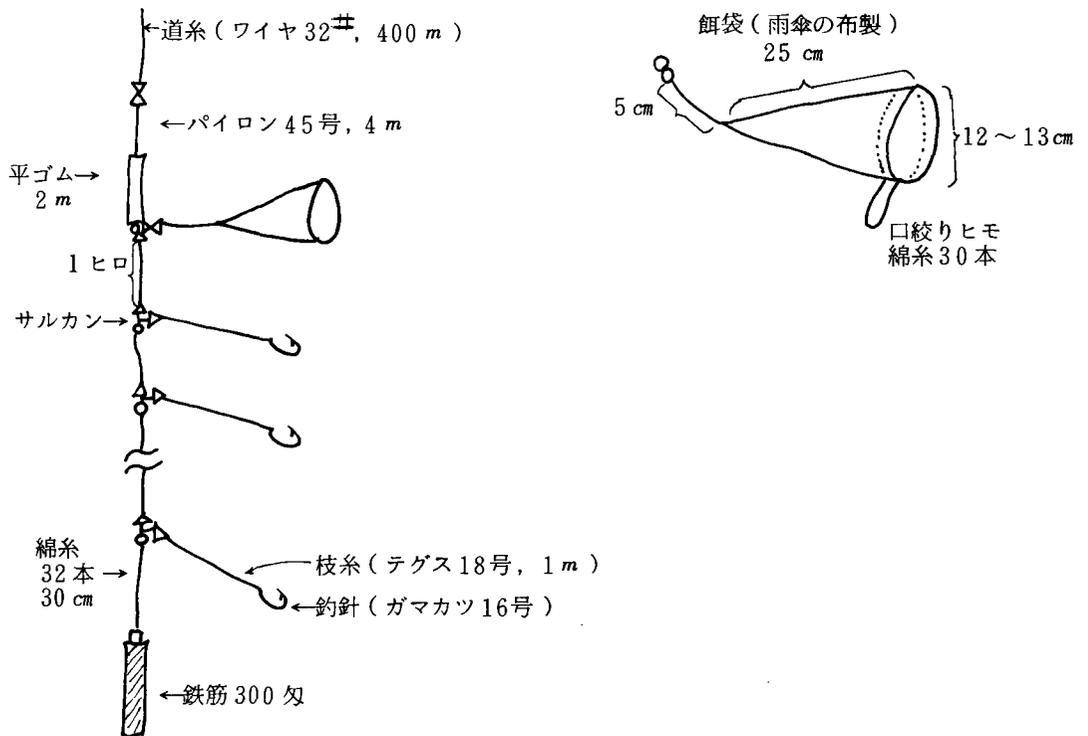
9. 漁 獲 物 の 処 理 = 水 氷

10. 集魚灯 ミニライト=単3 2ケ

11. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	
道系	ワイヤ	32番 400m	1本	
幹系	パイロン (又はヤマロン)	45号 15~16号 4m	1本	
枝系	テグス	18号 1m	10本	枝間 1.5m
釣針	ガマカツ	16号	10本	
重り	鉄筋	300匁		

12. 漁具図又は操業図



瀬物一本釣漁業

1. 資料提供 大和村漁業協同組合
2. 調査担当 奄美水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 3.9 t 40Ps 1人
4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ, 午前, 午後, 夕間ヅメ
- (2) 漁法 = 掛け釣=錨掛け
- (3) 船と瀬の位置 = その他(潮の状況しだい)
- (4) その他(操業方法等)

AM6. 漁場まで4~6時間その日の汐の流れや魚の食い付状態をみて対象魚種をチビキにするかホタにするか判断する。普通昼間操業するが目標数量200kgに達しない場合夜間操業をする。日によっては17~18時間操業する場合がある。

5. 漁期 1月~12月

6. 漁場

- (1) 水深 = ホタ140m~200m チビキ300~400m
- (2) 底質 = 天然礁
- (3) 漁場の選定 = 魚探

7. 餌料

	掛 餌					撒 餌		
	サバ	イカ	カツオ	ホタルイカ	ウルメ	イカの頭	サバの切身	ぬかを練ったもの
種類								
大きさ 量	切身	切身	切身	一尾	小一尾	ガブシ袋1杯		

8. 主な漁獲物 ホタ, チビキ

9. 漁獲物の処理 氷漬

10. 揚縄機等

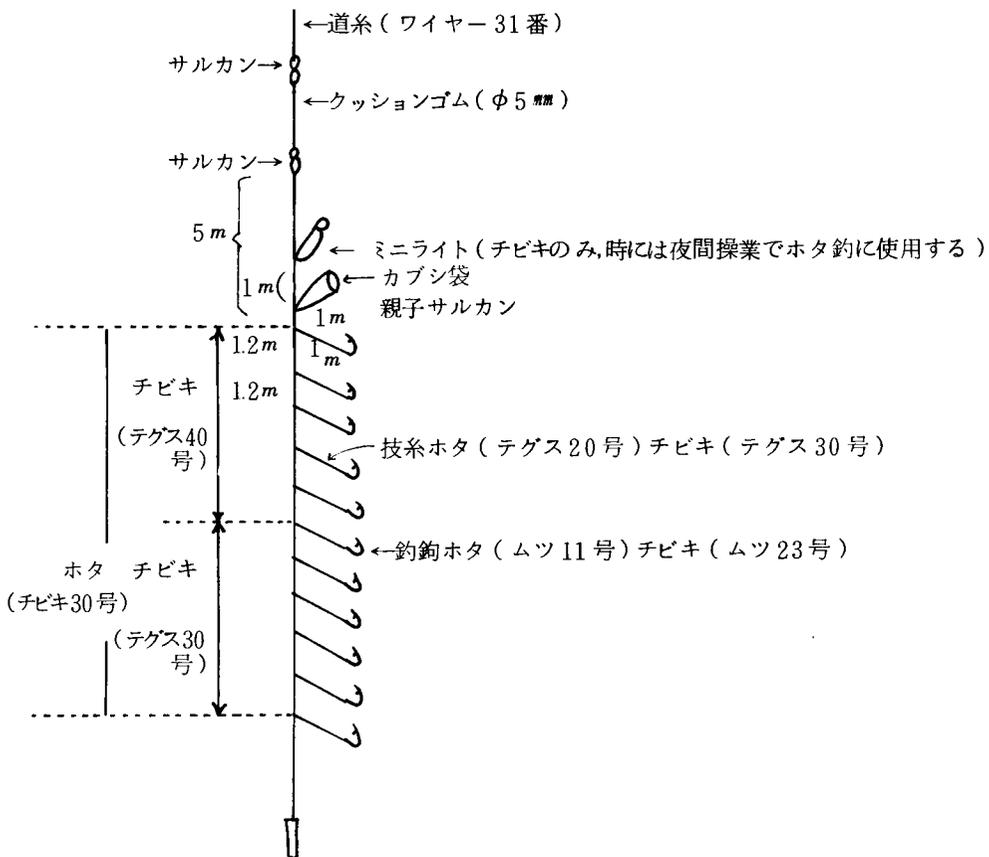
種類	型式	回転数
電動	リパー 深海NK3AF	60~100
自動ストップ = 無		

11. 集 魚 灯 ミニライト = 単 3 2 ケ

12. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 系	ワ イ ヤ ー	3 1 番	1	
幹 系	ナイロンテグス	30号(40号 $\frac{1}{2}$ 30号 $\frac{1}{2}$)	1	
技 系	ナイロンテグス	20号(30号) 1 m	10	枝間 1.2 m
釣 針	ム ツ 針	17号(23号)	10~12	
重 り	鉄 筋	1.3kg(1.8kg)	1	
クッションゴム		丸ゴム ϕ 5 mm	5 m	

13. 漁 具 図 又 は 操 業 図



ホ タ 一 本 釣 漁 業

1. 資 料 提 供 瀬戸内漁業協同組合
 2. 調 査 担 当 奄美水産業改良普及所 (瀬戸内駐在)
 3. 漁船規模及び乗組員 3.0 t 25 Ps 1 人
 4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午後, 夕間ヅメ, 夜間 (6 時 ~ 18 時)
 (2) 漁 法 = 流し釣 = 風帆
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬 上
 (4) その他 (操業方法等)

あらかじめ漁場を決定し, ロランで走る。その後魚探により反応を確認し, 操業に入る。反応がない時や, 釣れていてもサメが来ると周辺の漁場探索をして操業する。瀬上でも釣れるが比較的型が小さい。潮がわり時瀬下で釣れると型が良く大漁することが多い。2 晩 1 航海ぐらいで, 100 kg 以上のときは地元外出荷をしている。

5. 漁 期 1 月 ~ 12 月 (最盛期 5 月 ~ 6 月)
 6. 漁 場 ウンバル (与路島と徳之島の間) が主漁場となっている。
 (1) 水 深 = 130 m ~ 200 m
 (これより浅場でもよく釣れるがすぐにサメが来る)
 (2) 底 質 = 天 然 礁
 (3) 漁 場 の 選 定 = 魚 探, ロラン, 山当

7. 餌 料

	掛 餌	撤 餌
種 類	オキアミ	アミ + 米ヌカ

8. 主 な 漁 獲 物 ホ タ (アオダイ)
 9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 揚 繩 機 等

種 類

電 動

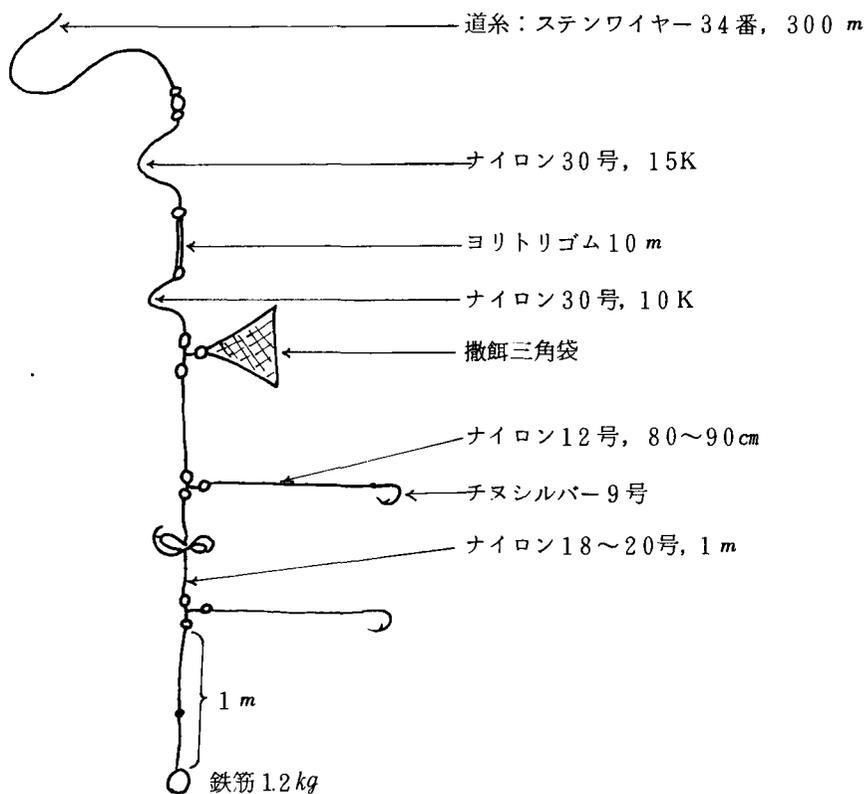
自動ストップ = 無

11. 集 魚 灯 ミニライト = 単1 (夜間だけ)

12. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	ステンワイヤー	34番	300 m	・
幹 糸	ナイロン	30号及び18~20号 1 m × 15~20本	15~20本	
枝 糸	ナイロン	12号 (1.5~20本) 0.8~0.9 m)	15~20本	枝間 1 m
釣 針	鋼	チヌシルバー9号	15~20本	
重 り	鉄 筋	8分 1.2 kg	1	

13. 漁 具 図 又 は 操 業 図



ヒラメ一本釣漁業

1. 資料提供 阿久根市漁業協同組合
2. 調査担当 北薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 3 t 40 Ps 1人
4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ，午前，午後，夕間ヅメ
- (2) 漁法 = 流し釣 = 風帆
- (3) 船と瀬の位置 = (瀬際の砂地)
- (4) その他(操業方法等)

トモ帆を張り船を風に立てて潮でながす。右舷のオモテとトモから1人2本の道見を出しオモテは竹竿に引っ掛けておく。魚探を入れキビナ、イワシの反応があるところを重点的に流し、アタリがなければ漁場を移動する。エサのイワシはこまめに活きの良いものとりかえる。

あたりは最初スーと重くなるのでこの時糸がたるまないよう、又負荷のかからない様糸をくれ大きな引込みがきてからあげる。

とりあげはタモですくいあげる。

5. 漁期 10月～3月

6. 漁場

- (1) 水深 = 20 m ~ 50 m
- (2) 底質 = 天然礁，人工礁，その他(瀬もしくは瀬際の砂)
- (3) 漁場の選定 = 山当
- (4) その他

7. 餌料

	掛餌
種類	イワシ,カタクチ,キス(活餌)
大きさ 量	12 ~ 15 cm

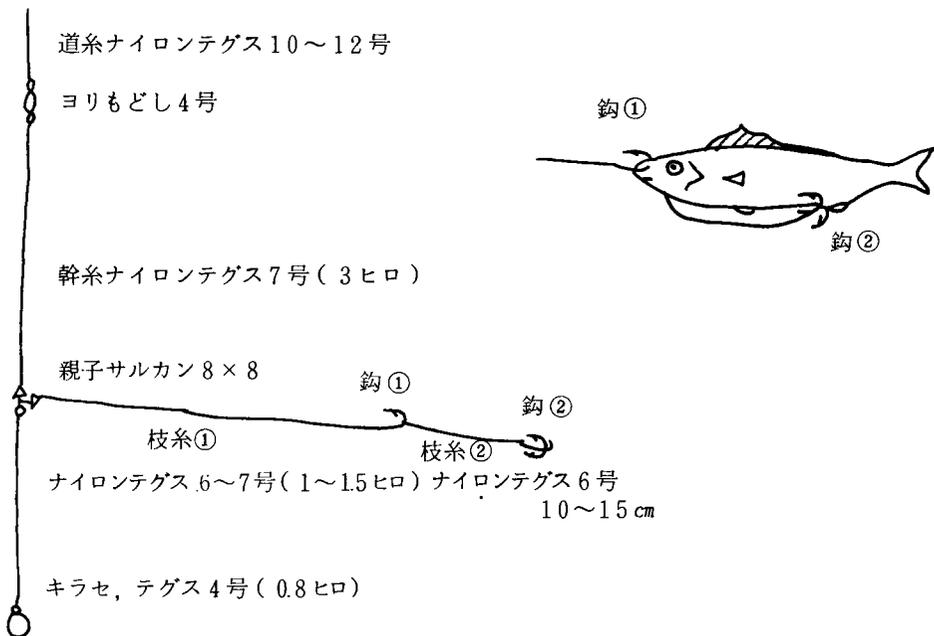
8. 主な漁獲物 ヒラメ，エソ

9. 漁獲物の処理 = 活漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	ナイロンテグス	10 号	50m	
幹 糸	”	7 号	45m	
枝 糸	① ” ② ”	6 ~ 7 号 6 号	15 ~ 2m 10 ~ 15cm	
釣 針	① 鋼 ② ”	丸 型 鉤 10 号 三 又 鉤 8 号	1 本 1 本	
重 り	鉛	20 ~ 30 号	1 個	

11. 漁 具 図 又 は 操 業 図



イカ一本釣漁業（夏イカ）

1. 資料提供 阿久根市漁業協同組合
2. 調査担当 北薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 2～3 t 50Ps 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 夜間（8時～3時）
- (2) 漁法 = 掛り釣＝錨掛り
- (3) その他（操業方法等）

操業時間は日没から夜明けまで、漁場に到着したら集魚灯をつけてイカの群を浮上させ漁具を入れ、手釣により釣獲する。

イカの当りは鈍いので、手の感覚により急に重みを感じたら一定の速さで引き揚げる。

5. 漁期 6月～8月（最盛期7月～8月）

6. 漁場

- (1) 水深 = 40 m～60 m
- (2) 底質 = 砂地
- (3) 漁場の選定 = 魚探，山当

7. 餌料

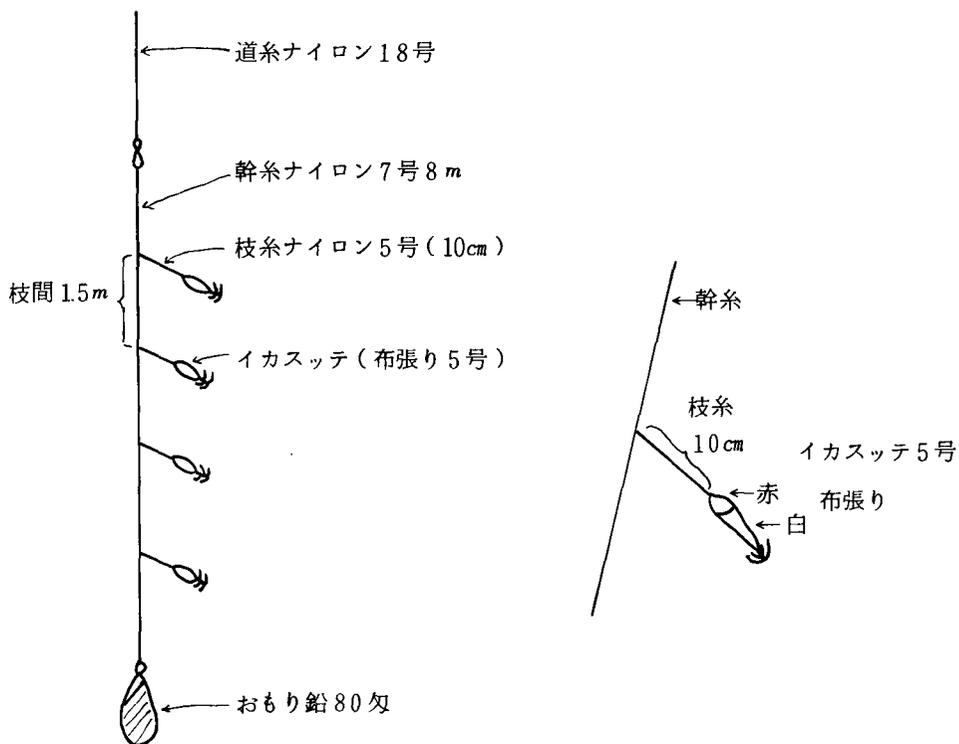
	擬似餌
種類	イカスツテ
大きさ 量	5号

8. 主な漁獲物 ケンサキイカ
9. 漁獲物の処理 = 活漁
10. 集魚灯 水上灯 = 1ケ×3KW

11. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 系	ナ イ ロ ン	18 号	1	
幹 系	ナ イ ロ ン	7 号 8 m	1	
枝 系	ナ イ ロ ン	5 号 10 cm	4	枝間 1.5 m
釣 針	イ カ ス ッ テ	布 張 り, 5 号	4	
重 り	鉛	80 匁	1	

12. 漁 具 図 又 は 操 業 図



タ コ 一 本 釣 漁 業

- 1. 資 料 提 供 東 町 漁 業 協 同 組 合
- 2. 調 査 担 当 北 薩 水 産 業 改 良 普 及 所
- 3. 漁 船 規 模 及 び 乗 組 員 1 t 2 0 P s 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午 前 , 午 後
- (2) 漁 法 = 流 し 釣 = 風 帆
- (3) 船 と 瀬 の 位 置 = 瀬 の 中
- (4) そ の 他 (操 業 方 法 等)

山当て等で位置を確認し瀬の上を船を流しながら反応を待つ。

漁具を入れ、底についたことを確かめて、餌がおどるようにリズムカルに振動を加えあたりを待つ。急に重くなったところで引き上げる。

- 5. 漁 期 6 月 ~ 8 月 (最 盛 期 8 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 5 0 m ~ 7 0 m
- (2) 底 質 天 然 礁
- (3) 漁 場 の 選 定 山 当
- (4) そ の 他

7. 餌 料

	掛 餌	
種 類	フ グ	カ ワ ハ ギ
大 小 重	4 枚 おろし	4 枚 おろし

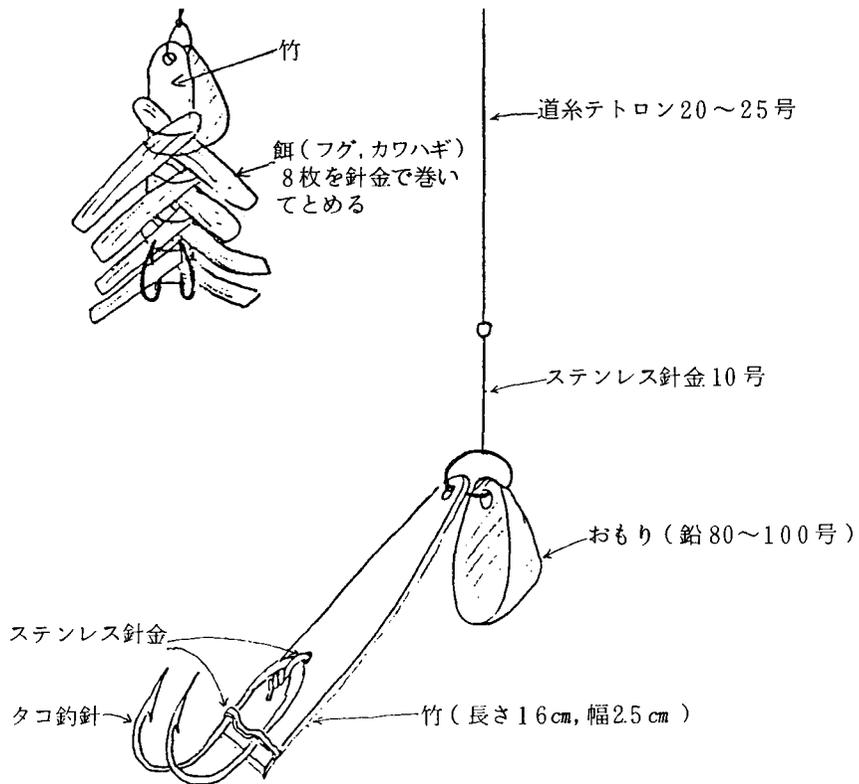
- 8. 主 な 漁 獲 物 タ コ

- 9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	テ ト ロ ン	20 ~ 25 号	1	
枝 糸	ス テ ン レ ス 針 金	10 号 20 cm	1	
釣 針	タ コ 釣 針			
重 り	鉛	80 ~ 100 号		

11. 漁 具 図 又 は 操 業 図

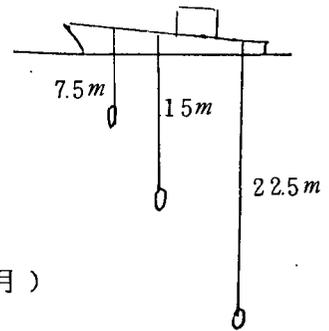


フグ引掛け釣漁業

1. 資料提供 かいえい漁業協同組合
 2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 1.16 t ⑧ 8 Ps 1人
 4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 昼も夜も行うが、夕間ヅメが多い。
 (2) 漁法 = 掛り釣=錨掛り
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬の近くが多いが、瀬とばかりは限らない。
 (4) その他(操業方法等)

人がやっている漁場(最初は手探り)へ行き、
 3通りの水深にまき餌を下げる。



5. 漁期 7月～10月(最盛期 7月～10月)
 6. 漁場
 (1) 水深 = 20 m ~ 40 m
 (2) 底質 = 底質に関係せず
 (3) 漁場の選定 = 人がやっている所

7. 餌料

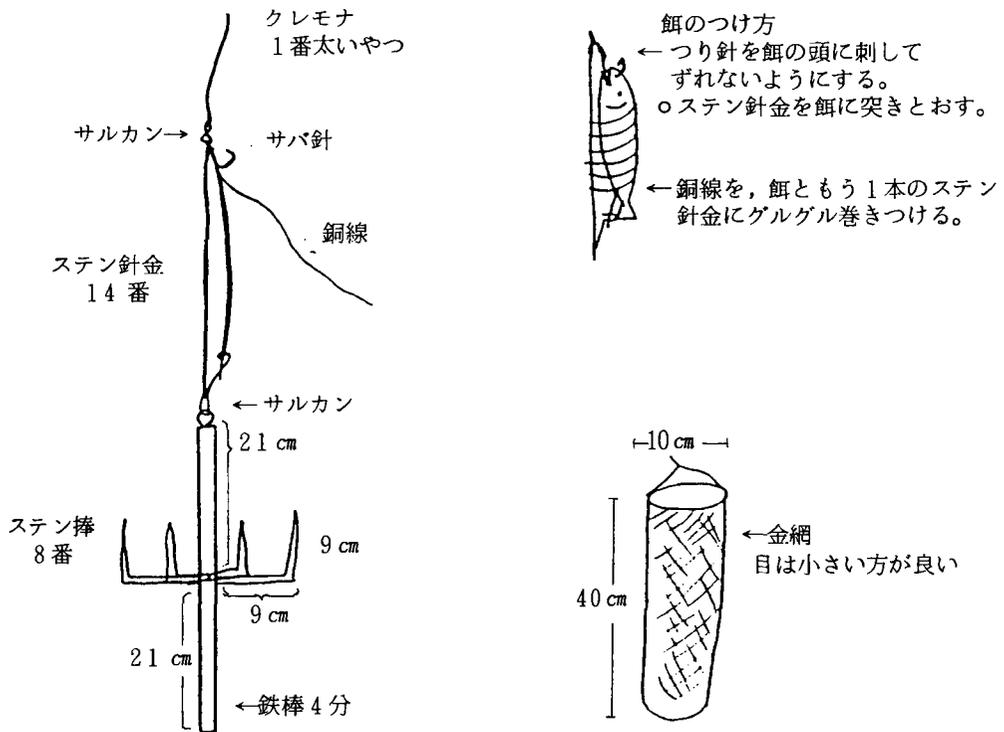
	掛 餌	
種 類	サバ	丸ソーダ
大 小 量	1尾かけ	1尾かけ

8. 主な漁獲物 サバフグ
 9. 漁獲物の処理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	ク レ モ ナ	一番太いもの 100 m	1 本	
幹 糸	ス テ ン 針 金	14 番 30~40 cm	1 本	

11. 漁 具 図 又 は 操 業 図



キ ダ イ 一 本 釣 漁 業

1. 資 料 提 供 上屋久町漁業協同組合
2. 調 査 担 当 鹿児島水産業改良普及所（上屋久駐在）
3. 漁船規模及び乗組員 4.26 t 40 P s 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午前, 午後
(2) 漁 法 = 流し釣 = 風帆
(3) その他（操業方法等）

魚探で反応を探し、道具を入れる。底に着いたら垂りが少し底を切る程度にして釣元は底をほう形にする。

5. 漁 期 1 月 ~ 1 2 月

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 150 m ~ 220 m
(2) 底 質 = 砂れき
(3) 漁場の選定 = 魚探

7. 餌 料

	掛 餌	撒 餌
種 類	サ ン マ	アミとパン粉
大 き さ 量	かたひら 15 枚程度	かご 1 杯

8. 主 な 漁 獲 物 = レンコ

9. 漁 獲 物 の 処 理 = 水 氷

10. 揚 繩 機 等

種 類 型 式

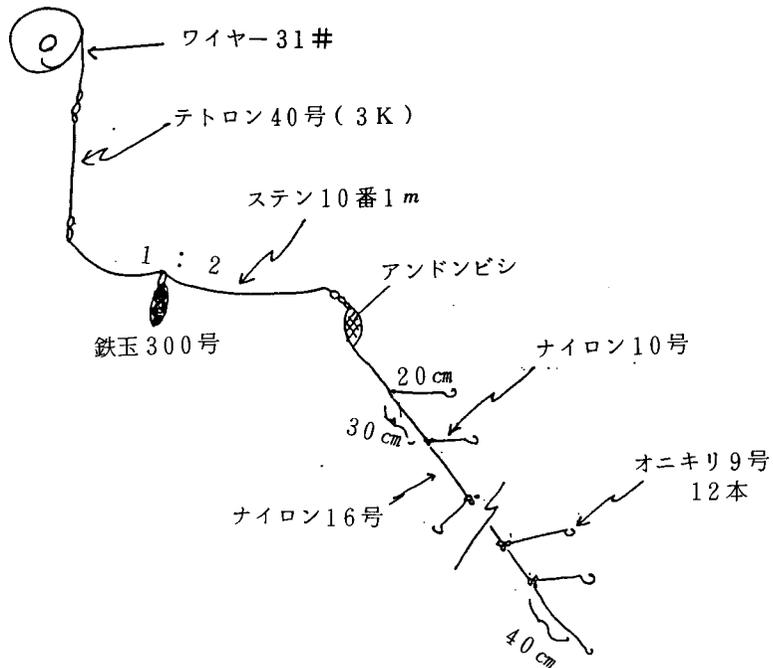
電 動 24 V

自動ストップ = 有

11. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 糸	ワイヤン テトロン	31番 7本燃 40号 3K	1 1	
幹 糸	ナイロン	16号	1	
枝 糸	ナイロン	10号 20 cm	12本	枝間 30 cm
釣 針	鋼	オニキリ9号	12本	
重 り	鉄 玉	300号	1	
天 秤	ス テ ン	10番 1 m	1	

12. 漁 具 図 又 は 操 業 図



サバ一本釣漁業

1. 資 料 提 供 上屋久町漁業協同組合
2. 調 査 担 当 鹿児島水産業改良普及所（上屋久駐在）
3. 漁船規模及び乗組員 7.9 t 120Ps 13人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 夜間（6時～6時）
- (2) 漁 法 = 流し釣＝風帆
- (3) 船と瀬の位置 = 瀬の中
- (4) その他（操業方法等）

魚探でサバの魚群を探し、道具を約20Kまでおろし、シャクってカブシを出して、あたりを待つ。

サバが灯について浮いた時は、ギジ鉤の付いた竿ではね釣をする。

5. 漁 期 1月～12月（最盛期 $\frac{4}{9}$ 月～ $\frac{6}{11}$ 月）

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 25m～40m
- (2) 底 質 = 天然礁
- (3) 漁場の選定 = 魚探

7. 餌 料

	掛 餌	撤 餌
種 類	タレクチ小	タレクチ
大 き さ 量	3枚おろし	ミンチ

8. 主 な 漁 獲 物 = ゴマサバ

9. 漁 獲 物 の 処 理 = 水氷

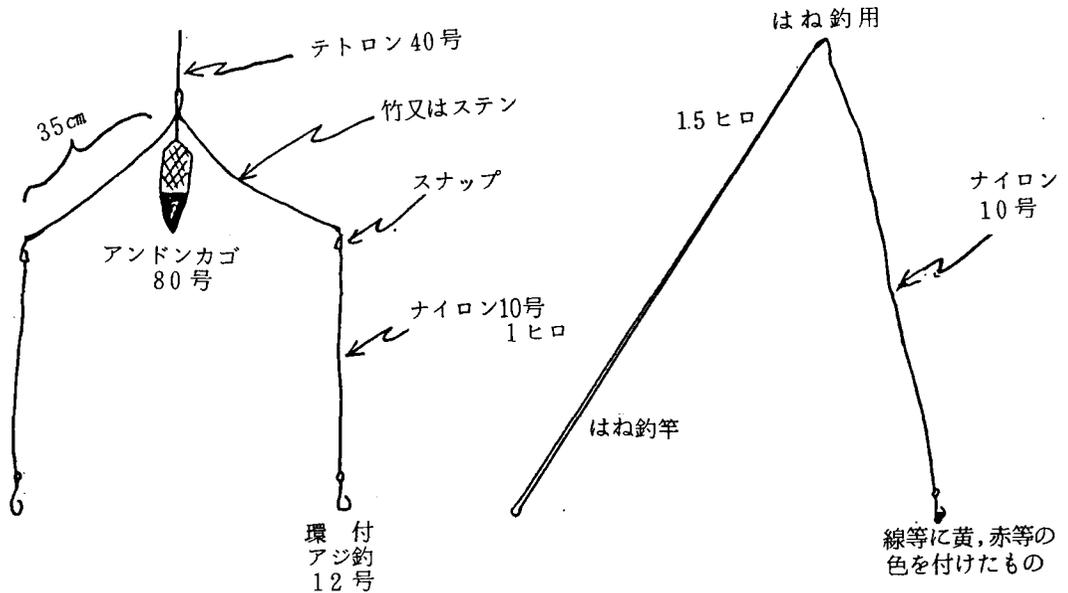
10. 集魚灯

水上灯 = 10ヶ×1000W

11. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
道糸	テトロン	40号	1	
技糸	ナイロン	10号 1ヒロ	2	技間
釣針	鋼	環付アジ針 12号	2	
重り	鉛	アンドンカゴ 80号	1	
テンビン	竹又スラン	L : 35 cm		

13. 漁具図又は操業図



立 繩

カジキビン玉流し漁業

1. 資料提供 笠沙町漁業協同組合
2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 6.98t 55Ps 1人
4. 漁法

(1) 操業時刻 = 午前, 午後

(2) その他(操業方法等)

1隻で10~13本位流す

曾根やカジキの回遊しそうなところに潮上の方から流す。カジキが喰いついたら道具を取りカジキの進行方向に船を操船しながら, モリかカジキの疲れを待って口ばしにタオル又は網切れを巻きつけて引揚げる。

5. 漁期 9月~11月

6. 漁場

(1) 水深 = 60m ~ 100m

7. 餌料

	掛 餌	
種類	活ムロアジ	活サバ
大きさ	10~30cm	10~30cm

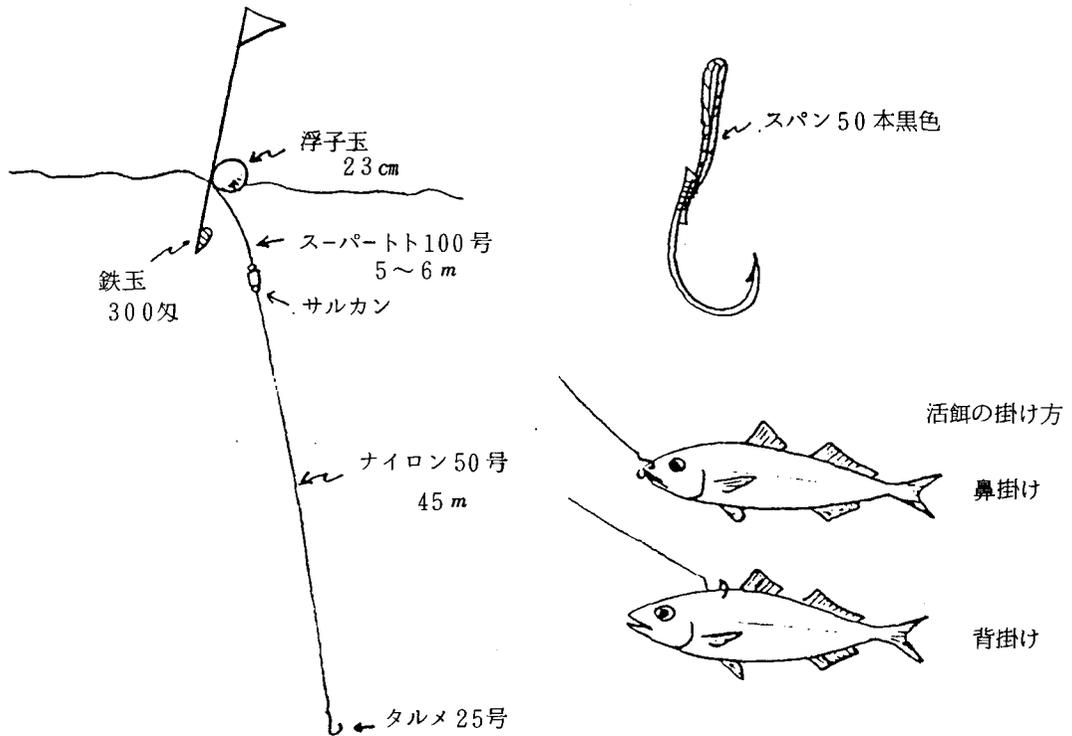
8. 主な漁獲物 バシヨウカジキ

9. 漁獲物の処理 氷漬

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 系	ス ー パ ー ト ト	100号 5~6 m	1	
技 系	ナ イ ロ ン	50号 45 m	1	
釣 針	鋼	タルメ 25号	1	
重 り	鉄	300匁	1	
浮 子 玉	ガラス、プラスチック	$\phi = 23\text{ cm}$	1	

11. 漁 具 図 又 は 操 業 図



ハガツオ立縄漁業

1. 資 料 供 供 佐多岬漁業協同組合
 2. 調 査 担 当 鹿児島水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 4.8 t 80 Ps 2人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 夜 間 (日没～日出)
 (2) 漁 法 = 流し釣
 (3) 船と瀬の位置 = 瀬 上
 (4) その他(操業方法等)

日が昇るまでに潮上より少しかたむけて技縄日が昇ってから揚縄

5. 漁 期 9月～11月(最盛期10月～ 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 80 m ～ 150 m
 (2) 底 質 = 天 然 礁
 (3) 漁場の選定 = 魚探, ロラン
 (3) そ の 他

7. 餌 料

	掛 餌	
種 類	イ ワ シ	サ ン マ
大 き さ 量	10 cm 1 本 ざし	三枚おろし

8. 主 な 漁 獲 物 ハガツオ, サバ, キンメ, タイ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 揚 縄 機 等

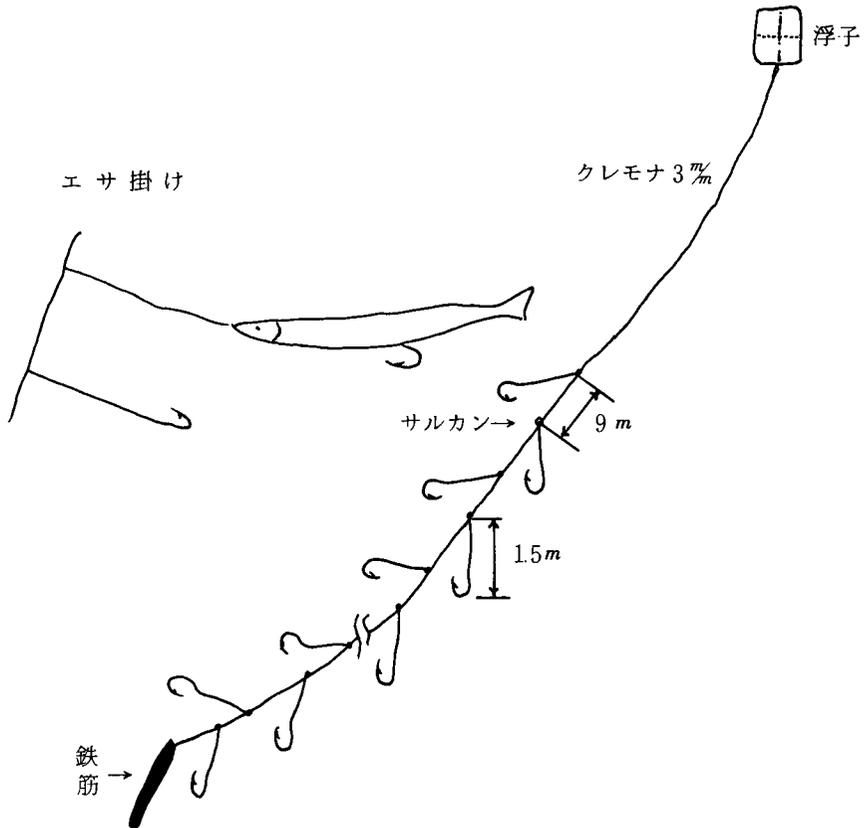
種 類	型 式	回 転 数
電 動	中央精機 500W	不 明

11. 集 灯 水 上 灯 = 4 ヶ × 1500W
 水 中 灯 = 1 ヶ × 2000W

12. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
道 系	ク レ モ ナ	3 m/m	90 m	
幹 系	ナ イ ロ ン	24 号 9 mm × 25	240 m	
枝 系	〃	20 号	1.5 m	枝間 9 m
釣 針	タ ル メ 針	寸 6	25 本	
重 り	鉄 , 鉛	150 匁	1 ヶ	
う き	発泡スチロール	25 × 25 × 30	1 ヶ	

13. 漁 具 図 又 は 操 業 図



延 繩 (立延繩)

マダイ延縄漁業

1. 資料提供 秋目漁業協同組合

2. 調査担当 南薩水産業改良普及所

3. 漁船規模及び乗組員 4.59 t 40 Ps 1人

4. 漁法

(1) 投縄時刻 = 午前(8時)

(2) 揚縄時刻 = 午前(10時)

(3) 投縄時間 = 1鉢15分(4)浸漬時間=2時間(5)揚縄時間=1鉢30分

(6) 船と瀬の位置 = 瀬上

(7) その他(操業方法等)

瀬の上で微速前進しながら船尾より流していく。

餌は軟骨を傷つけない様腹側外套前端にチョンがけする。

船尾には小コンテナをおき、ポンプで水を流水にしてイカを40~50尾活かすようにし、1人で操業できるようにしている。

荒瀬の上では1鉢、1鉢の間に浮子、縄を入れておく。

5. 漁期 11月~4月(最盛期3月~4月)

6. 漁場

(1) 水深 = 100 m ~ 120 m

(2) 底質 = 天然礁

(3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌料

	活餌
種類	小イカ
大きさ	外套長10 cm

朝, 定置網に入ったものを購入する。

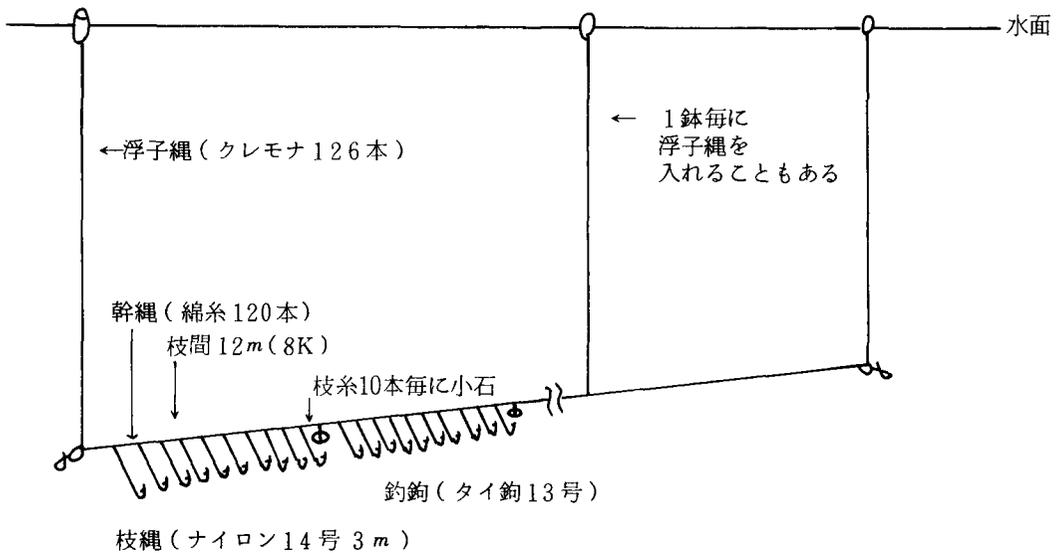
8. 主な漁獲物 = マダイ, ブリ, アラカブ

9. 漁獲物の処理 = 活魚

10. 漁具構成 (1鉢分)

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
浮子縄	クレモナ	126本 180m	2本	
幹縄	綿糸	120本 1,000m	1本	
枝縄	ナイロン	14号 3m	80本	枝間 12m
釣針	鋼	タイ針 13号	80本	
重り	石	1kgぐらい	2コ	縄重り, 小石 枝10本毎
使用鉢	プラスチック	60cm×40cm×15cm	3~4ヶ	
浮子	合成浮子	50cm×φ30cm	2~4ヶ	

11. 漁具図又は作業図



12. 揚縄機等

種類 型式
 電動 イズミベビーローラー

マダイ延縄漁業

1. 資料提供 佐多岬漁業協同組合
2. 調査担当 鹿児島水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.8 t 80 Ps 2人

4. 漁法

- (1) 投縄時刻 = 朝間ヅメ
(2) 揚縄時刻 = 朝間ヅメ
(3) 投縄時間 = 10分(4)浸漬時間= 40分(5)揚縄時間= 40分
(6) 船と瀬の位置 = 瀬の周囲
(7) その他(操業方法等)

瀬をさがし、潮の流れ具合を見て、瀬の潮上に第一の縄を投入、それから1鉢分順々に曾根の周囲に流していく。

5. 漁期 12月～4月(最盛期1月～2月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 80 m ~ 150 m
(2) 底質 = 天然礁
(3) 漁場の選定 = 魚探, ロラン, 山当

7. 餌料

	活餌	
種類	ヤリイカ	エビ
大きさ	5 ~ 6 cm	4 ~ 5 cm

8. 主な漁獲物 タイ, アラ, アラカブ

9. 漁獲物の処理 活魚

10. 揚 繩 機 等

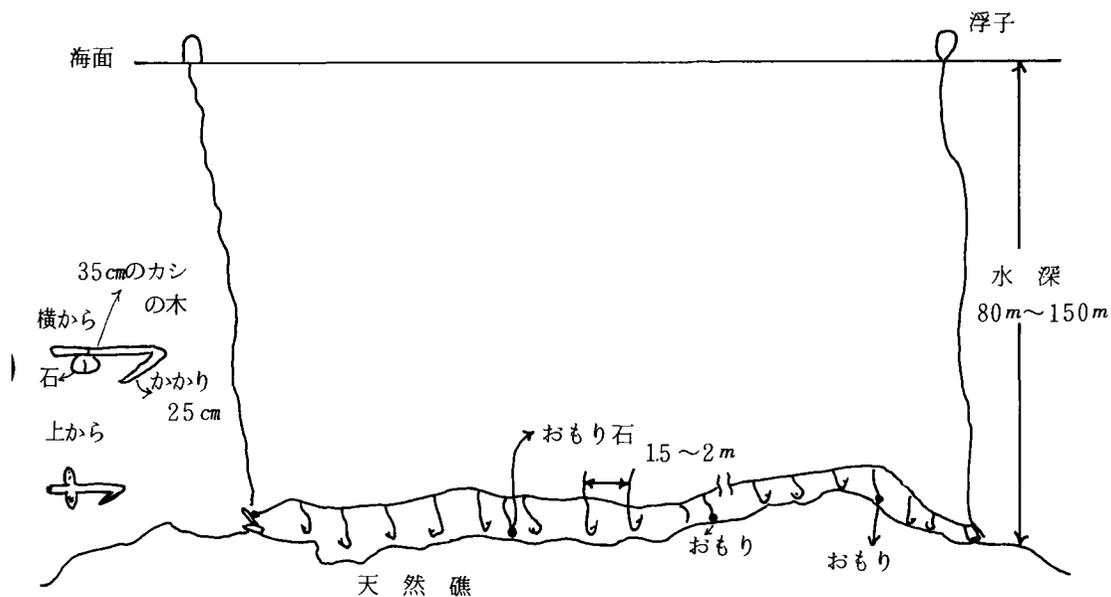
種 類 型 式

電 動 中央精機 500w

11. 漁 具 構 成 (1 鉢 分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	ク レ モ ナ	3 ~ 3.5 mm	1.80 m	
幹 縄	ナ イ ロ ン	60 ~ 90 号	2500 ~ 3000 m	
技 縄	〃	14 ~ 20 号 1.5 ~ 2 m	150 ~ 180	技間 6 ~ 12 m
釣 針	鋼	寸 1 ~ 寸 4	150 ~ 180	
重 り	石	500 g	30 コ	
使用 鉢	竹又はナイロン製	1 尺 5 寸	6 コ	
浮 子	スチロール	丸 (経, 25 cm)	1 コ	

12. 漁 具 図 又 は 操 業 図



マダイ延縄漁業

1. 資料提供 鹿児島市漁業協同組合
 2. 調査担当 鹿児島水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 1.8 t 17 Ps 2人

4. 漁法

- (1) 投縄時刻 = 朝間ツメ
 (2) 揚縄時刻 = 朝間ツメ
 (3) 投縄時間 = 40分 (4) 浸漬時間 = 0~30分 (5) 揚縄時間 = 2~3時間
 (6) 船と瀬の位置 = 瀬上
 (7) その他(操業方法等)

延べ縄は投入が終わるとすぐ入れはじめのところから上げる。又、30分位して入れ終わりのところからあげることもある。

1日 1~2回操業

5. 漁期 11月~5月

6. 漁場

- (1) 水深 = 40 m ~ 50 m
 (2) 底質 = 天然礁, 人工礁, その他(瀬のところは瀬上傾斜したところ)
 (3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌料

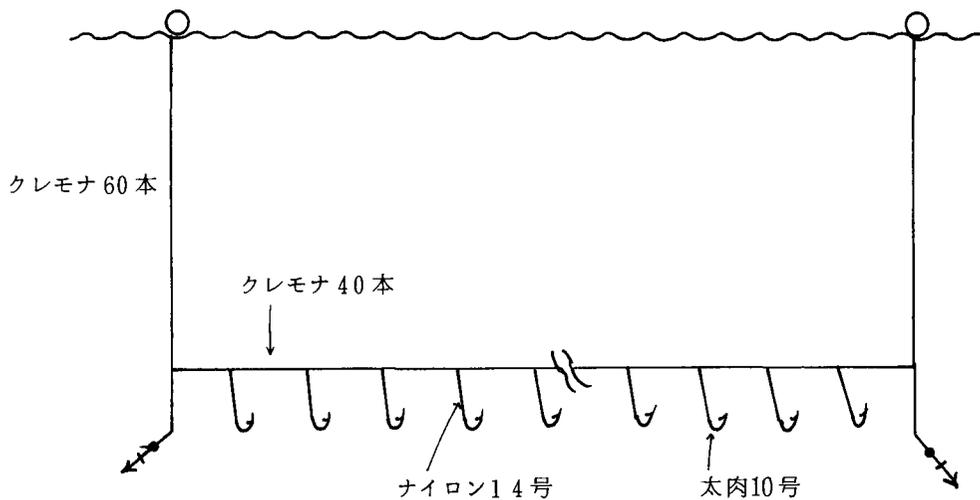
	活餌(冷凍可)
種類	エビ
大きさ	7 cm

8. 主な漁獲物 = マダイ
 9. 漁獲物の処理 = 活魚

11. 漁 具 構 成 (1 鉢分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	クレモナ撚糸	60本	50~80m	
幹 縄	クレモナ撚糸	40本 75m×9かせ	680m	
技 縄	ナイロンテグス	14号 3m	75本	技間 1人7.5~9.0m 2人12~15m
釣 針	鋼	太肉 10号	75本	
使用鉢			3~4鉢	

12. 漁具図又は作業図



マダイ延縄漁業

1. 資料提供 串木野市 島平 漁業協同組合
2. 調査担当 西薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 2.77 t 26 Ps 1人

4. 漁法

- (1) 投縄時刻 = 夜明
(2) 揚縄時刻 = 投縄開始後1時間
(3) 投縄時間 = 1時間(4)浸漬時間= 1時間(5)揚縄時間= 4時間
(6) 船と瀬の位置 = 瀬上, 瀬下, その他(瀬の周辺)
(7) その他(操業方法等)

◦山あてをしてスローでトモから投縄する。

◦揚縄はトモ舷側ブリッジに設置のラインホーラーによりゴーヘイスローで揚げる。

5. 漁期 9月～12月(9～12月以外は1～4月イトヨリ・アマダイ, 5～9月はハモ延縄漁のため操業していない)

6. 漁場

- (1) 水深 = 30 m ~ 60 m
(2) 底質 = 天然礁, 人工礁
(3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	その他
種類	焼ふ(油漬け)
大きさ	1 cm 角型台

8. 主な漁獲物 主体: マダイ, チコダイ
混り: クロダイ, コトヒキ
9. 漁獲物の処理 活魚, 水氷

10. 揚 繩 機 等

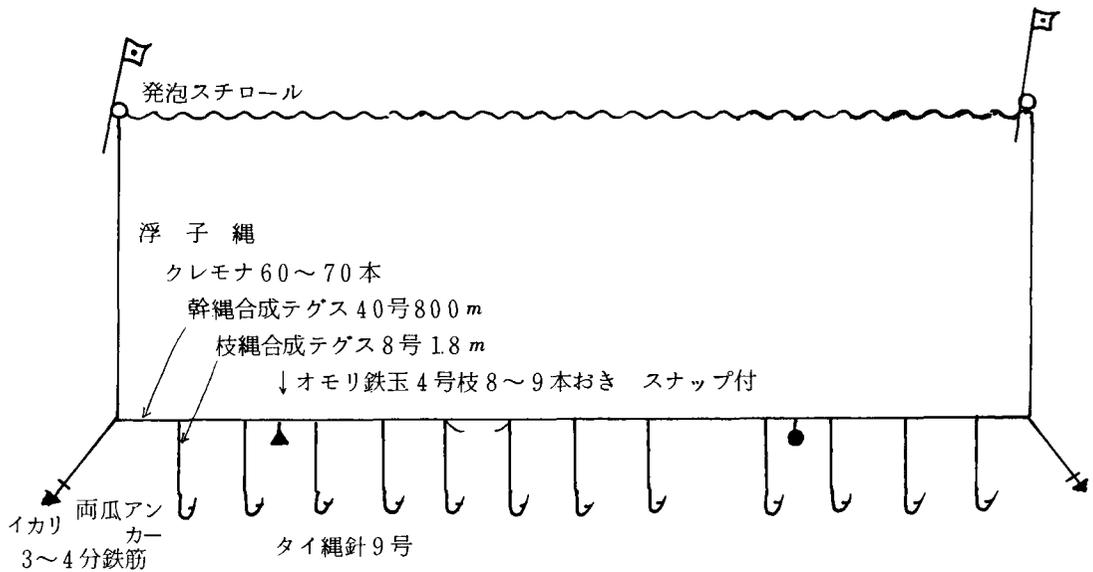
種 類 型 式 回 転 数

電 動 不 明 20回転/分

11. 漁 具 構 成 (1鉢分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	クレモナ	60~70本	70~90m	操業漁場により異なる
幹縄	合成テグス	40号	800m	
枝縄	〃	8号 1.8m	130本	枝間 6m
釣針	鋼	鯛縄針 9号	130本	
重り	鉄玉	4号	17個	枝間 8~9本に1個
使用鉢	プラスチック	トンボ55号φ55cm	6鉢	
浮子	発泡スチロール	旗付 経 30~40cm	2個	
イカリ	鉄筋	3~4分 筋両瓜	2個	

12. 漁具図又は操業図



キダイ 延縄漁業 アマダイ

1. 資 料 提 供 市 来 町 漁 業 協 同 組 合
 2. 調 査 担 当 西 薩 水 産 業 改 良 普 及 所
 3. 漁 船 規 模 及 び 乗 組 員 4 t 150 Ps 1 人

4. 漁 法

- (1) 投 縄 時 刻 = 朝 間 ツ メ , 午 前
 (2) 揚 縄 時 刻 = 朝 間 ツ メ , 午 前
 (3) 揚 縄 時 間 = 1 時 間 (4) 揚 縄 時 間 = 3 ~ 4 時 間
 (5) 船 と 瀬 の 位 置 = 瀬 上 , 瀬 の 中 , 瀬 下 (潮 流 で 異 なる)
 (6) その他 (操 業 方 法 等)

- 魚 探 , ロ ラ ン 及 び 山 当 で 位 置 確 認 し , 投 縄 す る 。 投 縄 は そ の 時 の 潮 流 で 異 なる が , 通 常 瀬 を ま く よ う な 形 で , ス ロ ー で ト モ か ら 行 う 。
- 揚 縄 は , オ モ テ あ る い は ト モ の 作 業 し や す い と こ ろ で 行 う 。
- 海 水 が 濁 っ た 時 は 2 番 縄 が よ い 。

5. 漁 期 1 月 ~ 12 月 (最 盛 期 10 月 ~ 5 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 50 m ~ 190 m
 (2) 底 質 = 天 然 礁
 (3) 漁 場 の 選 定 = 魚 探 , ロ ラ ン , 山 当 , レ ー ダ ー

7. 餌 料

	活 餌	生 餌
種 類	地 エ ビ	沖 ア ミ
大 き さ	4 cm	5 cm

8. 主 な 漁 獲 物 キダイ , アマダイ , イトヨリ , タイ

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 魚 , 水 氷

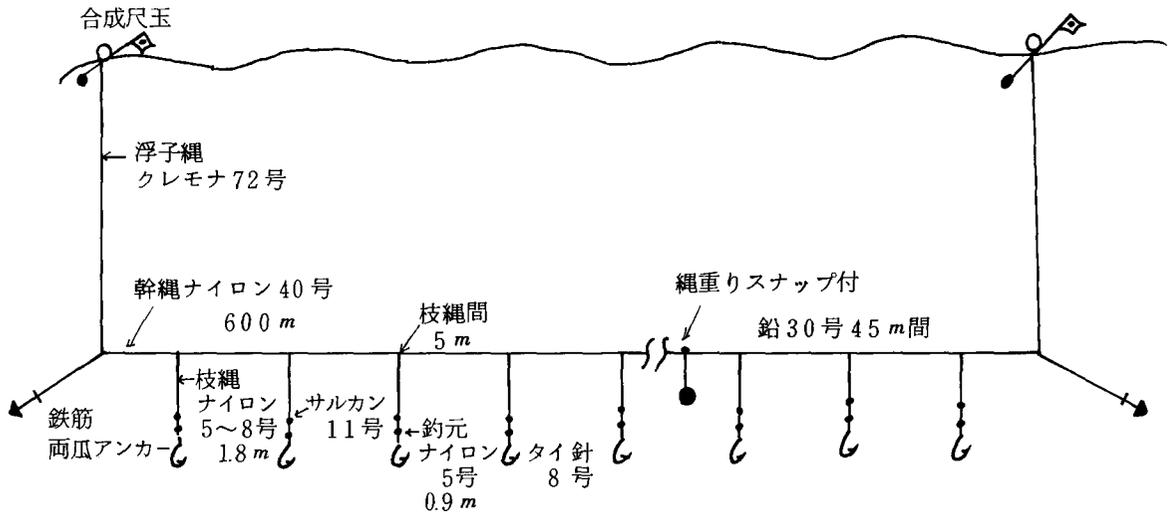
10. 揚 繩 機 等

種 類 型 式 備 考
 油 圧 不 明 700 mを15~20分

11. 漁 具 構 成 (1 鉢 分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子繩	ク レ モ ナ	72 本	70~200	
幹 繩	ナ イ ロ ン	40 号	600 m	
枝 繩	〃	8~5号 180 cm	120 本	枝間 5 m
釣元枝繩	〃	5 号 90 cm	120 本	
釣 針	鋼	タイ針 8 号	120 本	
重 り	鉛	30 号	13~14	
使用鉢	ポ リ 製	経 55 cm	10~11鉢	
浮 子	合 成 尺 玉	旗 付 (経 1 尺)	2	

12. 漁 具 図 又 は 操 業 図



キダ イ 延 縄 漁 業 アマダイ

1. 資 料 提 供 串木野市漁業協同組合
島 平
2. 調 査 担 当 西薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.7 t 55 Ps 1人

4. 漁 法

- (1) 投 縄 時 刻 = 午前(6時)
- (2) 揚 縄 時 刻 = 午前(投縄直後)
- (3) 投 縄 時 間 = 1時間 (4) 揚縄時間 = 6時間
- (5) 船と瀬の位置 = 瀬附近
- (6) その他(操業方法等)

- ロランで位置確認し、山あてをして位置を決め投縄する。投縄は通常瀬をまくような形で、スローでトモから行う。
- 揚縄はゴーヘイスローでハモより少し早い回転であげる。
- 揚縄はオモテあるいはトモの作業しやすい所で行う。

5. 漁 期 9月～3月(最盛期9月～12月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 30 m ~ 200 m
- (2) 底 質 = 泥, 貝殻まじり砂
- (3) 漁場の選定 = ロラン, 山当

7. 餌 料

	生 餌		
種 類	イ カ	ア ミ	沖エビ
大 き さ	1 × 2 cm	1尾掛	1尾掛
	尾から掛ける。		

8. 主 な 漁 獲 物 アマダイ, キダイ, イトヨリ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

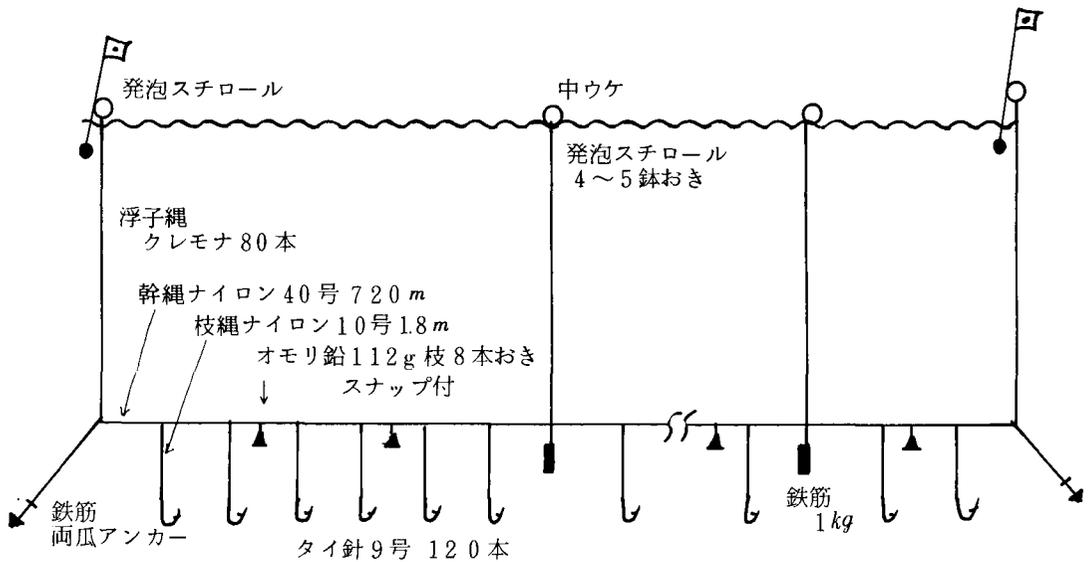
10. 揚 繩 機 等

種 類 型 式 回 転 数
油 圧 不 明 不 明

11. 漁 具 構 成 (1 鉢 分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	ク レ モ ナ	80本	40~250m	
幹 縄	ナ イ ロ ン	40号	720m	
枝 縄	〃	10号	1.8m	枝間 6m
釣 針	鋼	タイ針9号	120本	
重 り	鉛	112g, スナップ付	15個	枝8本に1個
使用鉢	ポ リ 製	経 55cm	10~11鉢	
浮 子	発泡スチロール	旗付 経 30~40cm	2個	
中ウケ	〃	経 20cm	2個	4~5鉢おきに1個
イカリ	鉄 筋	3~4分筋, 両瓜	2個	
中ウケ重り	鉄 筋	1kg	2個	

12. 漁 具 図 又 は 操 業 図



アラカブ延縄漁業

1. 資 料 供 供 黒ノ浜漁業協同組合
2. 調 査 担 当 北薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 1.7 t 1.7 Ps 2人
4. 漁 法

- (1) 投 縄 時 刻 = 朝間ヅメ
(2) 揚 縄 時 刻 = 午 前
(3) 投 縄 時 間 = 1時間(4)浸漬時間= 0時間(5)揚縄時間= 2.5時間
(6) 船と瀬の位置 = 瀬の中
(7) その他(操業方法等)

道具は前日縄くりし、エサをかけておく。夜明けごろオケ(浮標)にたぐりこんである。浮標縄、イカリと道具を連結し、潮上より投入する縄は潮下にやや斜に延える。漁場により連結する鉢数は異なるが5鉢連結して2連で操業することが多い。はえ終ったらすぐに潮上から手引きにて上げ始める。浅いところでは潮下から上げると良いようである。10時ごろ帰港、帰宅後翌日の準備のため縄くり、餌かけを行う1鉢/1人=45分 2人で午後3時ごろ終了。

5. 漁 期 1月～12月(最盛期1月～3月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 1 m ~ 100 m
(2) 底 質 = 天 然 礁
(3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌 料

	生 餌
種 類	サバ(塩づけ)
大 き さ	1 cm × 4 cm × 0.5 cm (たんざく切り)

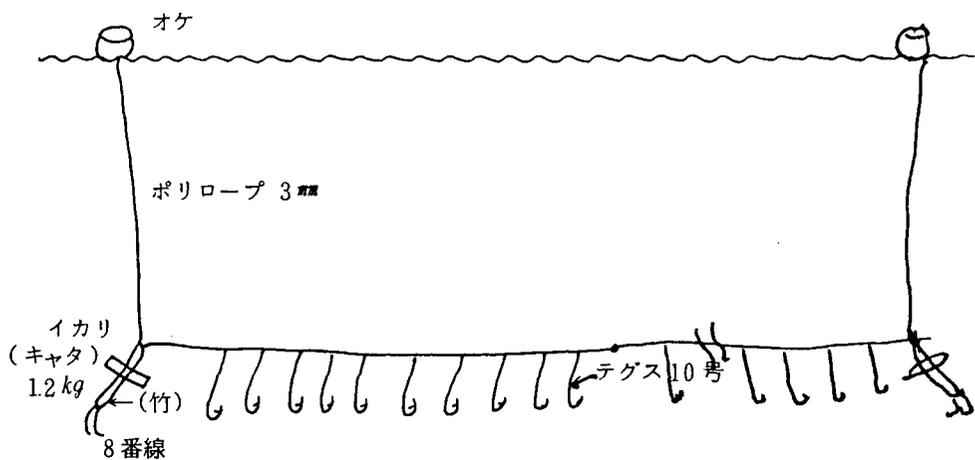
8. 主な漁獲物 アラカブ

9. 漁獲物の処理 活魚

10. 漁具構成 (1鉢分)

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
浮子縄	ポリロープ	3 mm	100 m	水深により調節
幹縄	クレモナ	120 本	160 m	
枝縄	ナイロンテグス	10 号	80 m 160 本	枝間・1 m
釣針	鋼	タイ延縄 10 号	160 本	
重り	鉛	8 号×4 個=32 匁	8 個	
使用鉢	木	45×60×15 cm	10 鉢	
浮子	木	オケ	2 個	1 連に 2 個

11. 漁具図又は操業図



ブリ延縄漁業

1. 資料提供 野間池漁業協同組合
2. 調査担当 南薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.75 t 70Ps 3人

4. 漁法

- (1) 投縄時刻 = 午前, 午後
- (2) 揚縄時刻 = 午前, 午後
- (3) 投縄時間 = 15分(4)浸漬時間 = 30分(5)揚縄時間 = 25分/1鉢
- (6) 船と瀬の位置 = 瀬上
- (7) その他(操業方法等)

微速前進しながら船尾より流していく。その際エサはあらかじめ活間より活餌用ハチに移しておき、これから餌を用いる。

縄重りは潮のはい時には数をふやす。餌のアジは背鰭根元にかけるハナや口元にかける人もいる。

タイをねらう時は水深100~120m, 漁期は10~4月, エサはコイカを用いる。その他はブリと同様

朝定置から餌を仕入れ, 5時の入札まで3~5回操業する。

5. 漁期 10月~12月(最盛期10月~11月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 30 m ~ 40 m
- (2) 底質 = 天然礁
- (3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	活餌
種類	アジ
大きさ	10 cm

8. 主な漁獲物 ブリ, マダイ, ヒラス

9. 漁獲物の処理 活魚

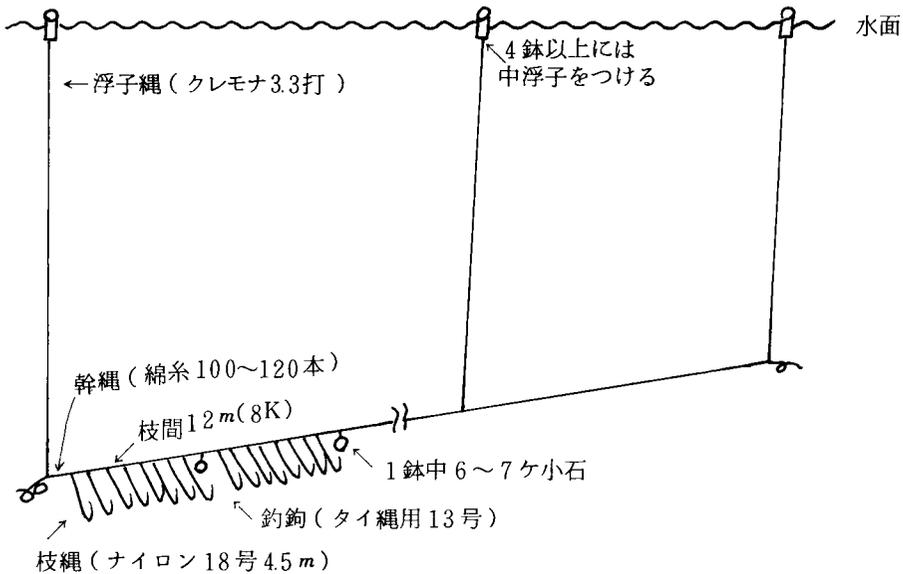
10. 揚縄機等

種類 型式
電動 不明

11. 漁具構成 (1鉢分)

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
浮子縄	クレモナ	3.3打 40~60 m	2	
幹縄	綿糸	100~120本, 600 m	1	
枝縄	ナイロン	18号 4.5 m	50	枝間 12 m
釣針	鋼	タイ縄用 13号	50	
重り	石	4~5 kg	2	縄重り, こぶし大小石6~7ヶ
使用鉢	プラスチック	40×50×15 cm		
浮子	合成浮子		2	

12. 漁具図又は操業図



ハモ延縄漁業

1. 資料提供 東町漁業協同組合

2. 調査担当 北薩水産業改良普及所

3. 漁船規模及び乗組員 3.0 t 50Ps 2人

4. 漁法

(1) 投縄時刻 = 夜間(7時)

(2) 揚縄時刻 = 夜間(8時)

(3) 投縄時間 = 40分 (4) 浸漬時間 = 1時間 (5) 揚縄時間 = 5時間

(6) その他(操業方法等)

夕方3時頃出漁し、日没から投縄し始める。底質は泥地で約40分で投縄を終え、1時間位たってから揚縄する。

7~10鉢を連絡して使用し、揚縄に約5時間を要す。

5. 漁期 5月~8月(最盛期6月~7月)

6. 漁場

(1) 水深 = 30 m ~ 50 m

(2) 底質 = 泥地

(3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	活餌	生餌
種類	アジ仔	イカ
大きさ	5~10 cm	輪切り

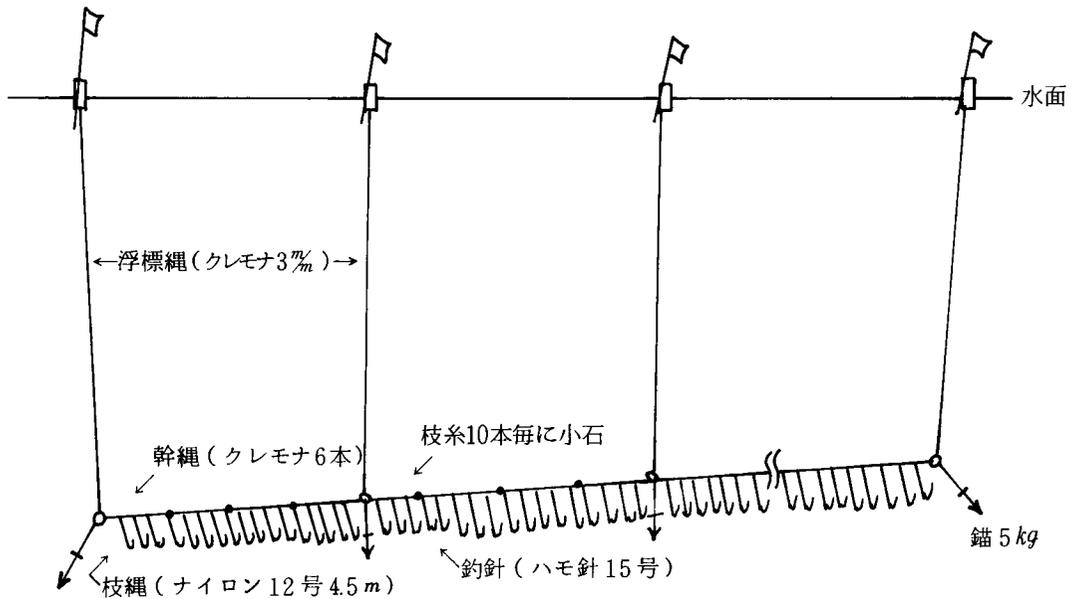
8. 主な漁獲物 ハモ, グチ, アカエイ, タチウオ

9. 漁獲物の処理 = 活魚

10. 漁 具 構 成 (1 鉢分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	クレモナ	3 mm	4 本	
幹 縄	クレモナ	36本 1,050 m	1 本	
枝 縄	ナイロン	12号 4.5 m	100 本	枝間 10 m
釣 針	鋼	ハモ釣15号	100 本	
重 り	鉄	錨 5 kg	4 ケ	縄重り, 小石 枝10本毎
使用鉢	木	60 cm × 60 cm × 15 cm	7~10ケ	
浮 子	合成浮子	径 30 cm	4 ケ	

11. 漁具図又は操業図



ハ モ 延 縄 漁 業

1. 資 料 提 供 串木野市^平漁業協同組合
島
2. 調 査 担 当 西薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.7 t 55 Ps 1人

4. 漁 法

- (1) 投 縄 時 刻 = 夜間 (2 時)
- (2) 揚 縄 時 刻 = 夜間 (3 時)
- (3) 投 縄 時 間 = 0.5 時間 (4) 浸漬時間 = 0.5 時間 (5) 揚縄時間 = 5 時間
- (6) 船と瀬の位置 = その他 (瀬付近)
- (7) その他 (操業方法等)

- 船数が多いため合図により同方向に直線状に投縄する。
- トモからスローで投縄する。
- 投縄してから30分程後投縄終了した方から揚縄する。
- 揚縄はゴーヘイ、スローで、揚縄作業はオモチ、トモの作業しやすい方で行う。
- 7～8鉢使用する。

5. 漁 期 5 月 ～ 9 月 (最盛期 6 月 ～ 7 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 10 m ～ 60 m
- (2) 底 質 = 泥
- (3) 漁場の選定 = ロラン

7. 餌 料

種 類	生 餌		
	イ カ	ア ジ	ム ロ
大 き さ	輪 切 り 2 cm	ブツ切り 2 cm	ブツ切り 2 cm

8. 主 な 漁 獲 物 ハモが主, タイ, イトヨリ, アラ, チヌ, エソ

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 魚

10. 揚 繩 機 等

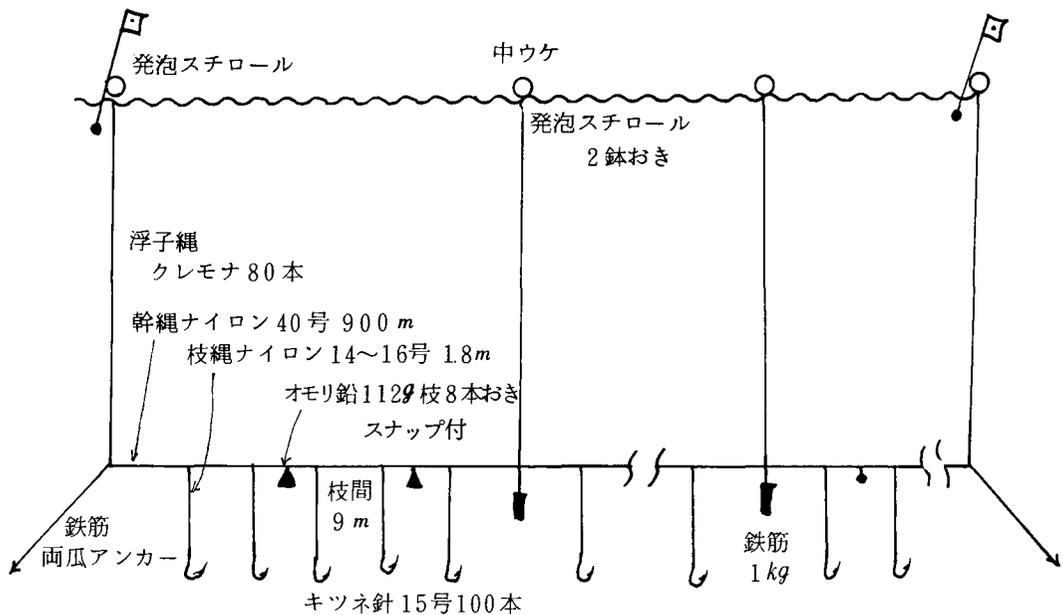
種 類 型 式

油 圧 不 明

11. 漁 具 構 成 (1 鉢分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	クレモナ	80本	10~80m 2本	
幹縄	ナイロン	40号	900m	
枝縄	〃	14~16号 1.8m	100本	枝間 9m
釣針	鋼	キツネ針 15号	100本	
重り	鉛	スナップ付 112g	12個	枝8本に1個
使用鉢	ポリ製	経 80~90cm	7~8鉢	
浮子	発泡スチロール	旗付 経 30~40cm	2個	
中ウケ	発泡スチロール	経 20cm	3個	2鉢に1個
錨	鉄筋	両爪 3~4分節	2個	
中ウケ重り	〃	1kg程度	3個	

12. 漁具図又は操業図



トラフグ浮延縄漁業

1. 資料提供 阿久根市漁業協同組合
2. 調査担当 北薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 9.9 t 75 Ps 5人

4. 漁法

- (1) 投縄時刻 = 朝間ヅメ
(2) 揚縄時刻 = 午前
(3) 投縄時間 = 2時間(4)浸漬時間 = 1時間(5)揚縄時間 = 4時間
(6) その他(操業方法等)

操業船間で話し合った縄の間隔，方向のとおりスローで延えていく。
投縄は艀から餌，中間浮子を付けながら行う。投縄は夜が明ける前に終了する。揚縄はおもての舷側から手びきで行う。漁獲されたフグは歯切りし，活間で活す。

5. 漁期 1月～3月(最盛期2月～3月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 20 m ~ 100 m
(2) 漁場の選定 = レーダー

7. 餌料

	生 餌
種 類	イワシ(冷凍)
大 き さ	一尾を頭尾をおとし2.3切に丸切

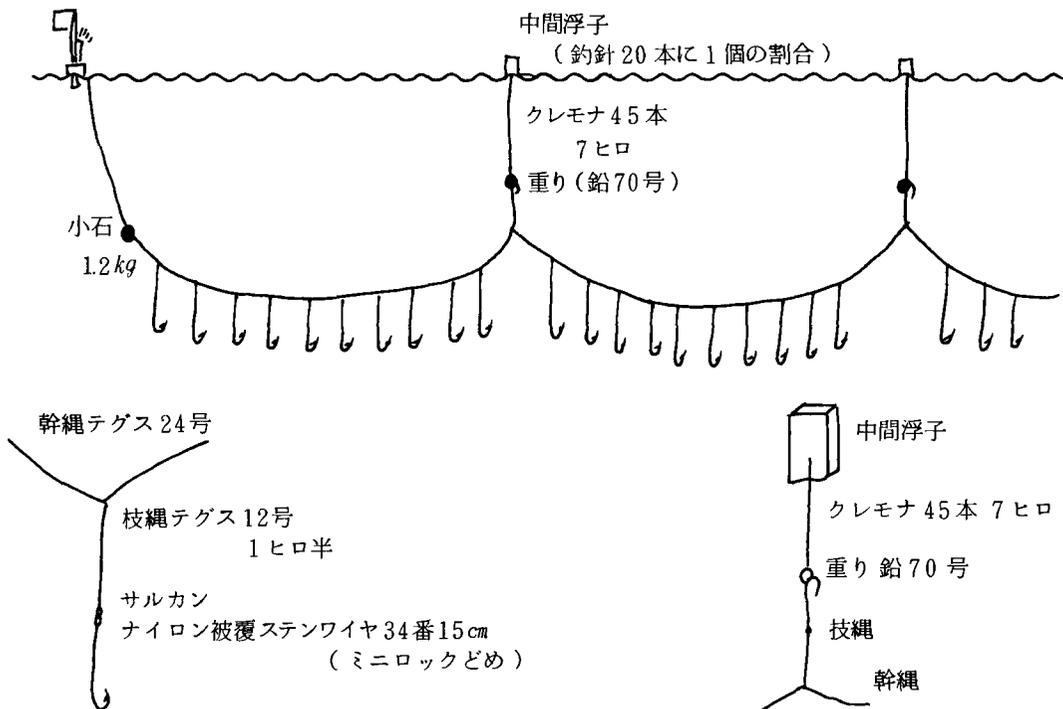
8. 主な漁獲物 トラフグ

9. 漁獲物の処理 活魚

10. 漁 具 構 成 (1 鉢分)

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	ポリロープ	3 mm 10.5 m	7本	(中間浮子)
幹 縄	ナイロンテグス	24号	1,000 m	
枝 縄	〃	12号	2.25 m	枝間 7.5 m
釣元枝縄	ビニール被覆 ステンワイヤ	34番	15 cm	
釣 針	鋼	フグ針(中) 14号	133本	
重 り	鉛	70号	7個	
使用鉢	プラスチック		10鉢	(連結する)
浮 子	発泡スチロール	5 cm × 10 cm × 30 cm	7個	(中間浮子)
旗	スチロール, 竹	1.5 m	5本	2鉢に1本 両端は点滅灯付

11. 漁 具 図 又 は 操 業 図



トラフグ延縄漁業

1. 資 料 提 供 志布志漁業協同組合
2. 漁 査 担 当 大隅水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.87 t 20Ps 1人
4. 漁 法

- (1) 投 縄 時 刻 = 朝間ヅメ
- (2) 揚 縄 時 刻 = 午前, 午後
- (3) 投 縄 時 間 = 10~15分(4)浸漬時間= 40~60分(5)揚縄時間=1.5時間
- (6) 船と瀬の位置 = その他(瀬とは関係なく投縄)
- (7) その他(操業方法等)

6 鉢分を一流れとして投入し, その投縄に要する時間は10~15分, ふらせる時間は40~60分, 揚縄に要する時間は1時間半ぐらい。

5. 漁 期 9月~2月(最盛期10月~1月)
6. 漁 場

- (1) 水 深 = 30 m ~ 90 m
- (2) 底 質 = その他(砂・貝殻まじり泥質)
- (3) 漁場の選定 = 山 当

7. 餌 料

	生 餌		
種 類	さ ば	め ち か	い わ し
大 き さ	ブツ切	ブツ切	1匹ガケ

8. 主 な 漁 獲 物 トラフグ
9. 漁 獲 物 の 処 理 = 活 魚

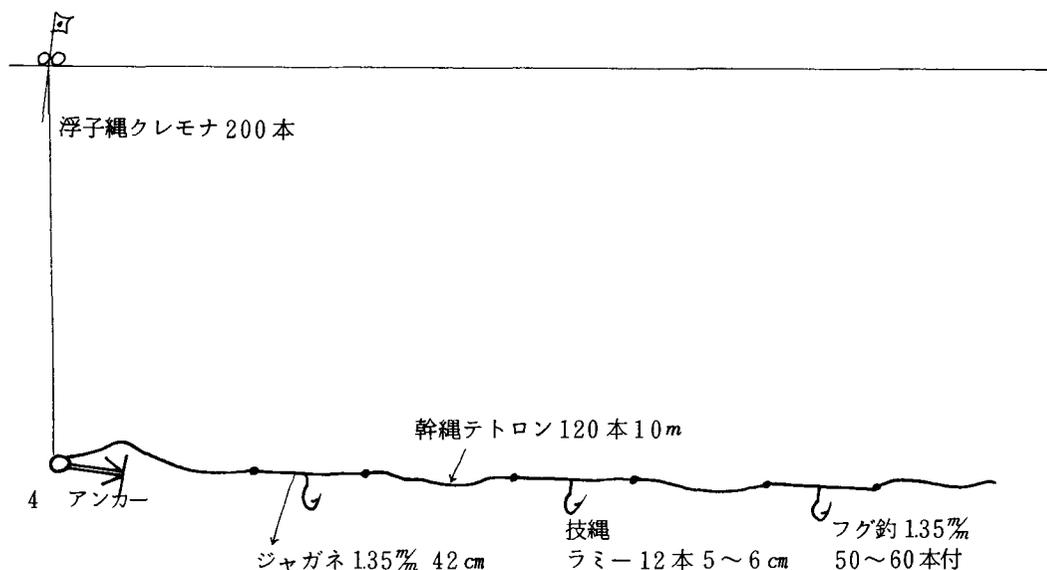
10. 揚 繩 機 等

自家製，購入品，電動，油圧何れでも使われている。

11. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	ク レ モ ナ	200本	200m	.
幹 縄	テ ト ロ ン	120本	530 ~600m	
技 縄	ラ ミ ー	12本	5~6cm	技間 10m
釣 針	鋼	1.35m/m	50~60本	
重 り	ア ン カ ー	φ16~20m/m丸鋼	1	6鉢当 1個
使用鉢	プラスチック		6	
浮 子	プラスチック	尺 玉	2個	6鉢当 2個
ジャガネ	鋼	1.35m/m 42cm	50~60ヶ	

12. 漁具図又は操業図



深 海 立 延 縄 漁 業

1. 資 料 提 供 瀬戸内漁業協同組合
2. 調 査 担 当 奄美水産改良普及所 (瀬戸内駐在)
3. 漁船規模及び乗組員 4.43 t 35 Ps 2人

4. 漁 法

- (1) 投 縄 時 刻 = 午前 (5 時)
(2) 揚 縄 時 刻 = 午前, 午後 (8 時)
(3) 投 縄 時 間 = 1 時間(4)浸漬時間 = 2 時間(5)揚縄時間 = 6 時間
(6) 船と瀬の位置 = 瀬 上
(7) その他 (操業方法等)

既知の漁場はロランにより, 新規は魚探により, 漁場を決定する。まず, 瀬上の瀬端ぎりぎりに錨が落ちるように投縄を始める。

潮流に斜めに潮上に投縄を続け, 最後の錨を投入するが, この錨が着底時には, 瀬端に落ちるように入れるのがコツである。2 時間程浸け込んだ後揚縄を開始する。

5. 漁 期 1 月 ~ 12 月 (最盛期 9 月 ~ 11 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 450 m ~ 600 m
(2) 底 質 = 天 然 礁
(3) 漁場の選定 = 魚探, ロラン
(4) その他大島近海

7. 餌 料

	生 餌
種 類	イ ワ シ
大 き さ	6 ~ 8 m

8. 主 な 漁 獲 物 ムツ, キンメ (東京, 丸)
9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

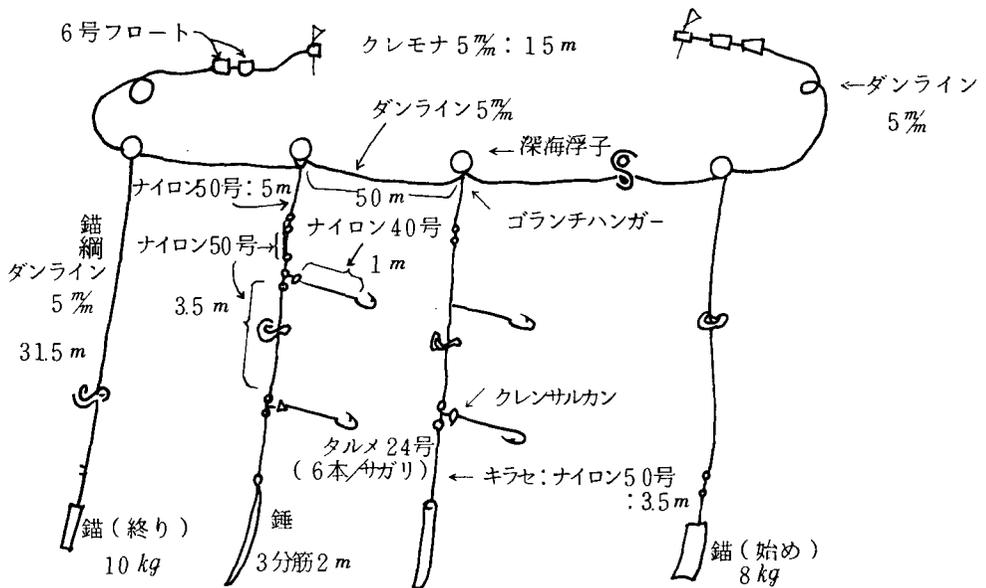
10. 揚 繩 機 等

種 類	型 式	回 転 数	備 考
電 動	不 明	不 明	枝クリ, 本糸クリ

12. 漁 具 構 成 (1 鉢分) : 10 鉢 = 100 枚

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
浮子縄	ダンライン	5 m/m	800 ~ 1000 m	
幹 縄	ダンライン	5 m/m	500 m	
技 縄	ナイロン	50 号	30 m × 10 本	技間・3.5 m
釣元技縄	ナイロン	40 号 1 m	1 m × 60 本	
サガリ			31.5 m × 10 本	サガリ間隔50m
釣 針	鋼	タルメ 24号	6本 × 10	
重 り	鉄	3分筋 2m	10本	
使用鉢	プラスチック		10鉢	
浮子	合成浮子	6号フロート	6個 / 10鉢	
深海浮子	合成浮子	VINY 4A-8	1個 × 10本 × 10本	
錨	鉄	10kg × 1個 + 8kg × 1個	2	
フック	ブランチハンガー	2.6 × 100	1個 × 10本 × 10鉢	

12. 漁具図又は操業図



曳 繩

ブリ・ヒラスゴム曳縄漁業

1. 資 料 提 供 西之表市漁業協同組合
2. 調 査 担 当 熊 毛 支 庁
3. 漁船規模及び乗組員 4.19 t 80 疋 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 大潮時……潮だるみ 小潮……潮の働く時
- (2) 曳 航 水 深 戸 = 上戸曳
- (3) 曳 航 速 度 = 5 ノ ッ ト (ジ ャ ン ボ 曳 より 早 め) 1,400 ~ 1,500 回 転
- (4) 曳 縄 本 数 = 3 本
- (5) その他 (操業方法等)

サンマ, イワシの回遊時に操業

ゴムの付根を立てることでゴムの振りを変え, あたりをとる。

5. 漁 期 1 1 月 ~ 4 月 (最 盛 期 4 月)

6. 漁 場

- (1) 底 質 = 天然礁
- (2) 漁場の選定 = 山当, 水温

7. 餌 料

	餌 等	
	カ グ ラ 等	ホ ロ 等
種 類	赤牛角 等	ゴ ム
大 き さ	3 ~ 5 cm	20 cm 前後

8. 主 な 漁 獲 物 ブリ, ヒラマサ, ハガツオ

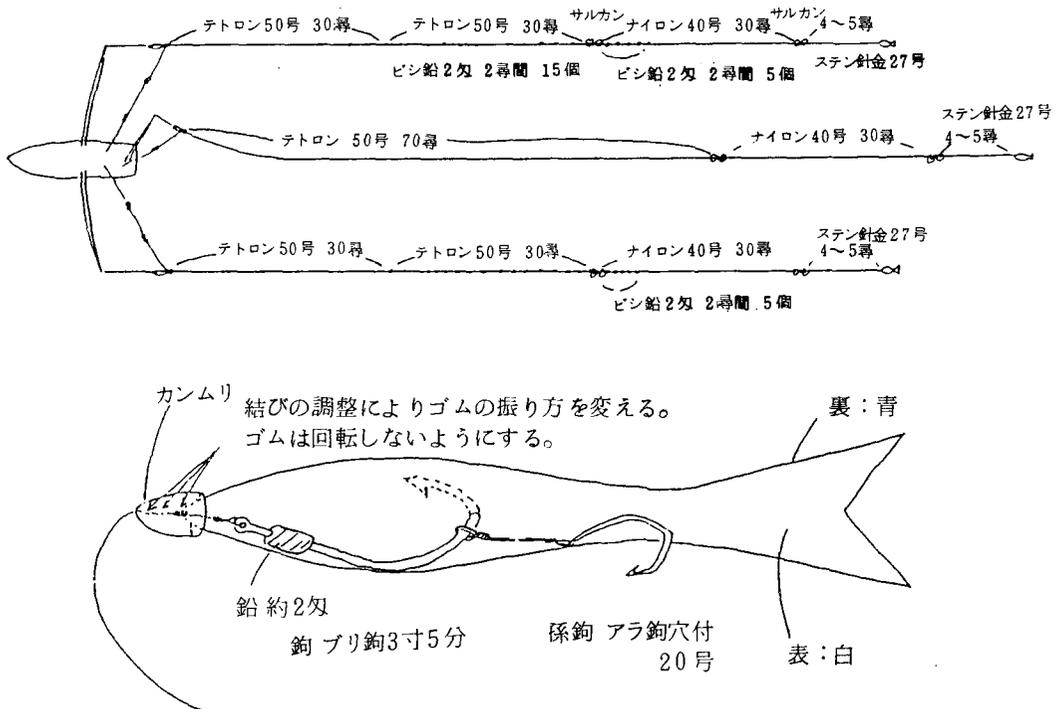
9. 漁 獲 物 の 処 理 活漁, 水氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	テトロン	左右 50号 30ヒロ 中 50号 70ヒロ	3	
中 索	テトロン	左右 50号 30ヒロ	2	ビシ打ち
幹 縄	ナイロン	40号 30ヒロ	3	
釣 元	ステンレス	27号 4～5ヒロ	3	
餌料(擬似餌)	ゴ ム	20 ～ 25 cm	1	
釣 針	綱	ブリ釣 3寸5分 アラ釣 20号	3 3	
張 出 棒	F R P		3	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)

ヒラスゴム曳釣



ヒラスサンマ餌曳縄漁業

1. 資 料 提 供 里 村 漁 業 協 同 組 合
2. 調 査 担 当 西 薩 水 産 業 改 良 普 及 所 (上 甕 村 駐 在)
3. 漁 船 規 模 及 び 乗 組 員 3 t 20 ps 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 昼 間
- (2) 曳 航 水 深 戸 = 底 戸 曳
- (3) 曳 航 速 度 = 2 ノ ッ ト
- (4) 曳 縄 本 数 = サ ン マ 曳 2 ケ
- (5) その他 (操 業 方 法 等)

漁場は水色が緑色位に濁った時がよく、澄んだときはよくない。

漁場に到着したら2ノット位の曳航速力で2本の道具で曳く。

5. 漁 期 1 月 中 旬 (最 盛 期 12 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 30 m ~ 50 m
- (2) 底 質 = 瀬のまわり
- (3) 漁場の選定 = 山 当

7. 餌 料

	生 餌
種 類	冷凍サンマ
大 き さ	1 尾 掛 け

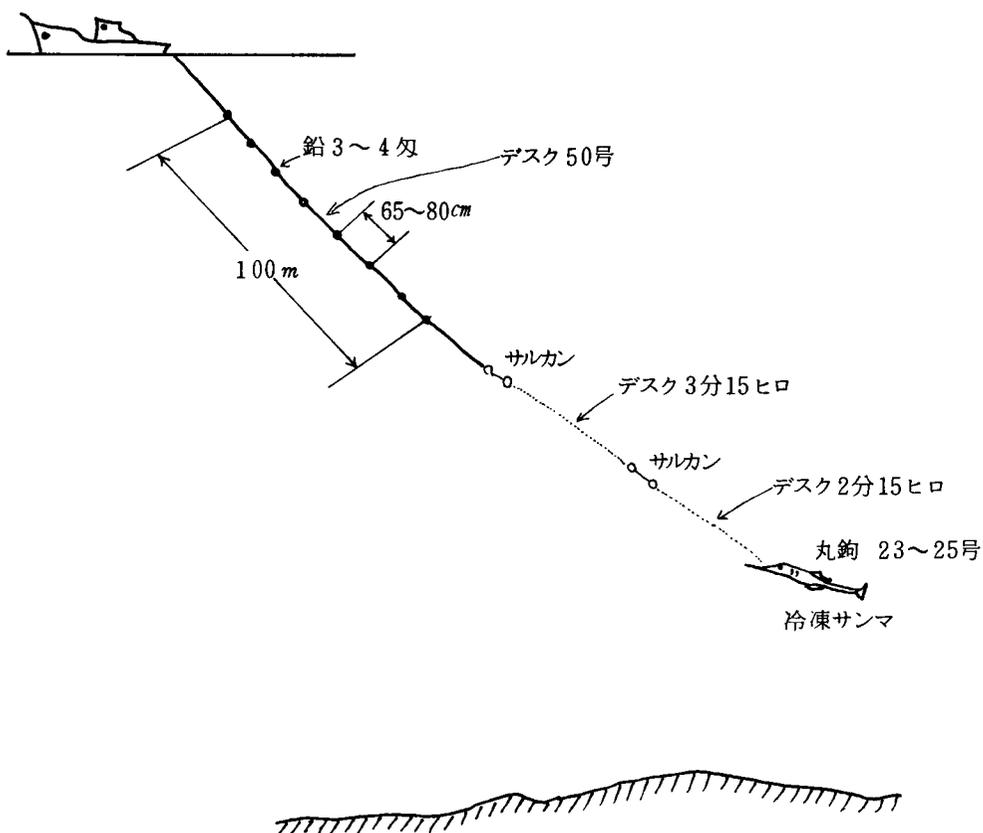
8. 主 な 漁 獲 物 ブリ, ヒラス

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	ナイロン	50号 100 m	1本	鉛打ち
中 索	ナイロン	3分 15ヒロ	1本	
幹 縄	ナイロン	2分 15ヒロ	1本	
餌料(擬似餌)	サンマ	1尾掛 け	1	
釣 針	綱	丸釣 23 ~ 25号		
撚 取 り	サルカン		2ヶ	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



ブリ・ヒラス餌曳縄漁業

1. 資 料 提 供 西之表市漁業協同組合
2. 調 査 担 当 熊 毛 支 庁
3. 漁船規模及び乗組員 4.27 t 70 名 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午前, 午後
(2) 曳航水深戸 = 中戸曳, 底戸曳
(3) 曳航速度 = 4ノット
(4) 曳縄本数 = 2本
(5) その他(操業方法等)

潮上に向けて, 底すれずれを曳く, 普通浅曳, 深曳の2組の道具を曳き, どちらかが釣れたら, 2本とも同じものを曳く。

カンパチ, アラ等をねらう場合は, イカ, スポタを使用, より底すれすれを曳く(この感覚は, 実践しかない)

曳航水深は, 曳航速度及び曳縄の長さで調整

5. 漁 期 11月~4月(最盛期) (イワシ, サンマの回遊時)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 10 m ~ 60 m
(2) 底 質 = 天然礁
(3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌 料

	生 餌
種 類	サ ン マ
大 き さ	20 ~ 30 cm
そ の 他	イカ, スポタ

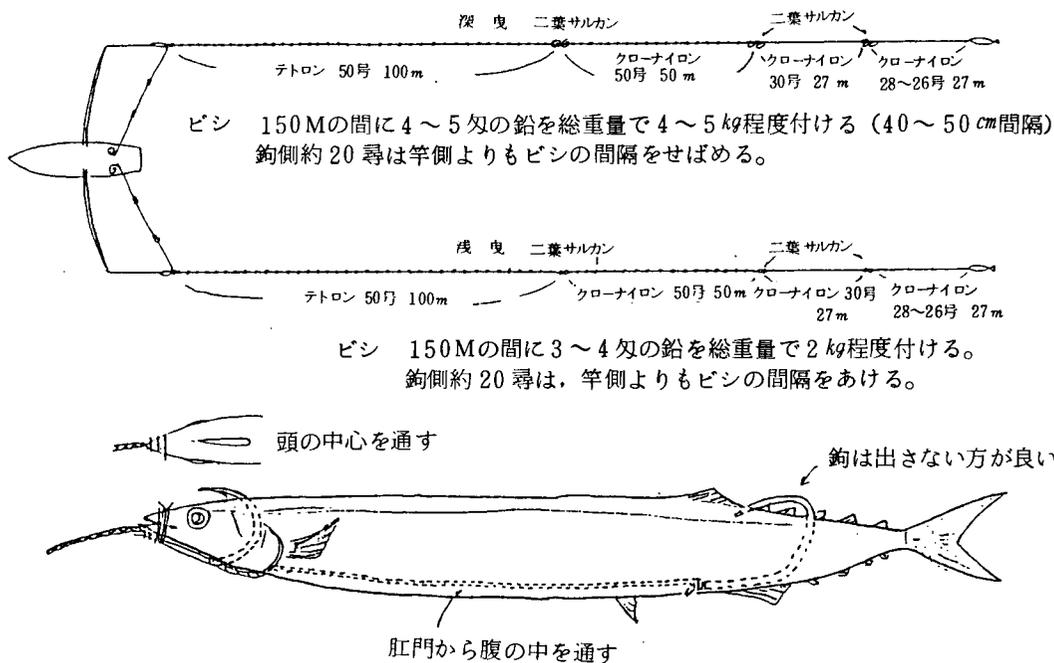
8. 主 な 漁 獲 物 ヒラマサ, ブリ

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	テ ト ロ ン	50号 100 m	2	
中 索	ナイロン(クロー)	50号 50 m	2	
幹 縄	〃 (〃)	30号 27 m	2	
釣 元	〃 (〃)	26~28号 27 m	2	
餌 料 (擬 似 餌)	サ ン マ	1 尾 掛 け	2	
釣 針	網	親 鈎 20号 孫 鈎 18~25号	2	
張 出 棒	F R P		2	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



ブリテンテン曳縄漁業

1. 資料提供 里村漁業協同組合
2. 調査担当 西薩水産業改良普及所（上甌村駐在）
3. 漁船規模及び乗組員 3 t 20 p_s 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 夕間ヅメ
- (2) 曳航水深戸 = 上戸曳
- (3) 曳航速度 = 2ノット
- (4) 曳縄本数 = 1本
- (5) その他（操業方法等）

潮をみて漁場を決め、タコボロは曳航のとき水面をはねるようにする。
ブリの浮上群に大廻りして擬餌が魚群の中に行くようにする。魚探でエサザコを見て漁場を探す場合もある。

タコボロには小鉛を入れる。

春は沖を秋は瀬側を曳く。

5. 漁期 3月～5月 10月～12月

6. 漁場

- (1) 底質 = 魚はエサザコに寄っているところ。
- (2) 漁場の選定 = 魚探，山当

7. 餌料

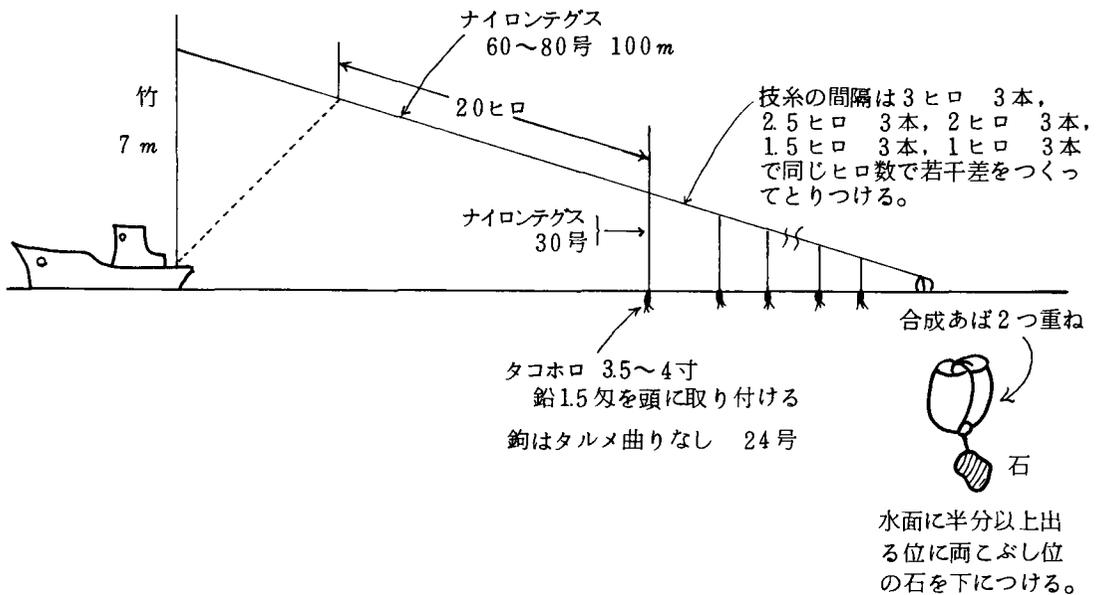
	餌 等	
	カグラ等	ホロ等
種類	赤牛角パール等	タコホロ
大きさ	鉛 1.5 匁入	3.5 ～ 4 寸

8. 主な漁獲物 ブリ，ヒラス，ハガツオ，カツオ，ネリゴ
9. 漁獲物の処理 活漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	ナイロン	60～80号 100 m	1 本	
枝 縄 縄	ナイロン	30号 1～6 m	15 本	
餌 料 (擬似餌)	タコホロ	3.5～4寸	15 ケ	鉛1.5匁を入れる
釣 針	綱	タルメ24号	15 ケ	
張 出 棒	竹	7 m	1 本	
抵 抗 板	合成あば	2つ重ね	1 ケ	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



サワラ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 江口漁業協同組合
2. 調 査 担 当 西薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 1～4 隻 30～60 疋 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝間ヅメ, 夕間ヅメ
- (2) 曳航水深戸 = 上戸曳, 中戸曳, 底戸曳
- (3) 曳航速度 = 6～9ノット
- (4) 曳縄本数 = 4～6本
- (5) その他(操業方法等)

沖サワラは、本サワラと異なり速力が増す程くいが良い。一般に 30 疋位の船で 1,300～1,500回転であり、朝は暗いうちからくいがある。漁場は情報などにより、その海域の魚礁をくまなく索曳する。濁または澄によって、タコの種類を使い分ける。

沖サワラ釣は、根性のいる漁で、根気よく挑戦しなければならない。

5. 漁 期 8月～10月(最盛期 9月～10月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 30 m～70 m
- (2) 底 質 = 砂地
- (3) 漁場の選定 = 山当, 水温

7. 餌 料

	餌 等	
	カ グ ラ 等	ホ ロ 等
種 類	赤牛角, パール等	タ コ ボ ロ

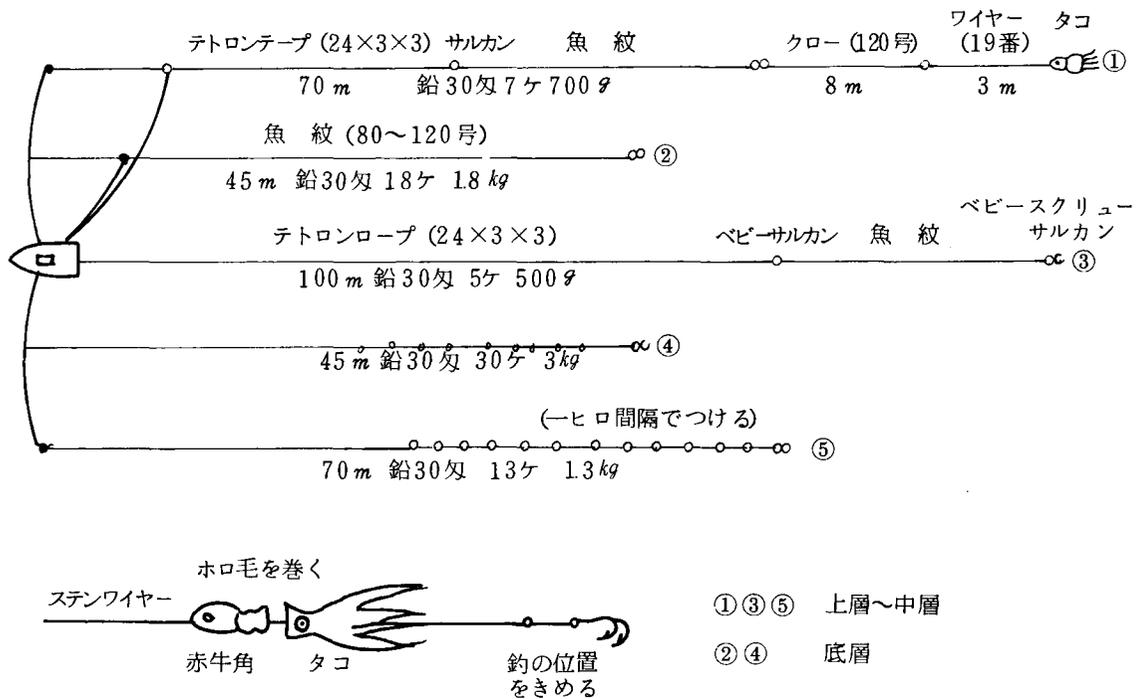
8. 主 な 漁 獲 物 サワラ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格・寸 法	数 量	備 考
曳 索	テトロンテープ	24 × 3 × 3	3	①③⑤ 使用
中 索	魚 紋	80号 ~ 120号	5	①②③④⑤
幹 縄	ク ロ -	120号	5	〃
釣 元	ワイヤー ステン	29番 ~ 32番	5	〃
餌 料 (擬似餌)	赤牛角, ガラス プラスチック	赤牛角, ニューパール ホロ毛, タコ	1	擬似にホロ毛を巻 きタコをかぶせる。
釣 針	鉄, ステン	サワラー本釣, 二双釣	1	
張 出 棒	FRP, 竹	6 ~ 9 m	3	両側 FRP 中央 竹
燃 取 り	真 鍮, ステン	ヘビーサルカン, ベビ ースクリュースルカン		接部は全部

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



サワラ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 喜界島漁業協同組合
2. 調 査 担 当 奄美水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 5.0 t 50 疋 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = AM 3 時より操業開始
朝間ヅメ, 午前, 午後, 夕間ヅメ
- (2) 曳航水深戸 = 上戸曳
- (3) 曳航速度 = 4 ~ 5 ノット
- (4) 曳縄本数 = 3 又は 4 本
- (5) その他 (操業方等)

漁場に到着すると 5 ~ 6 ノットで曳航し, 釣れたら船速はそのままで取り込む, 予備の釣元を装備して再び曳航する。

漁期の前半は擬似餌を使用し, 中盤 ~ 後半は生かしておいたムロアジを装着して釣る。

5. 漁 期 5 月 ~ 10 月 (最盛期 5 月, 7 ~ 8 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 50 m ~ 100 m
- (2) 底 質 = 天然礁, その他 (岩)
- (3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌 料

	活 餌	生 餌	餌 等	
			カ グ ラ 等	ホ ロ 等
種 類	むろあじ		牛の角,	鳥の羽, ビニール, ナイロン製
大 き さ	25 cm			
そ の 他	晩秋時は生かして装着する。		漁期の初めに利用	

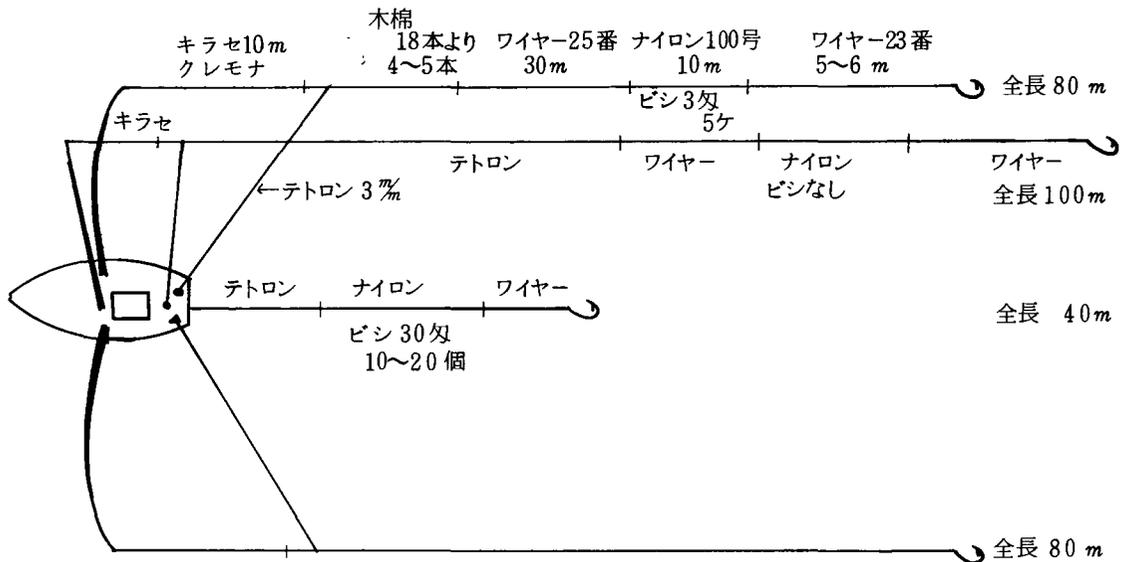
8. 主 な 漁 獲 物 サワラ (8 kg 前後)

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	テトロン	3 m/m 400 m	4	
中 索	ワイヤー	25 番 30 m	3	
幹 縄	ナイロン	100号 10 m (ピシ 30 匁 × 5 ケ)	4	
釣 元	ワイヤー(単)	23 番 5 ~ 6 m	4	
釣 針	曳 縄 針	中 又 は 小	4	
ト ッ タ リ	木 棉	18 本より 4 ~ 5 本 10 cm	3	
張 出 棒	F R P	5 ~ 7 m	3	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



生餌の装置法



肛門から後の中層を抜く

サゴシ曳縄漁業

1. 資料料 提供 笠沙町漁業協同組合
2. 調査 担当 南薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 6.98 t 55 p₃ 1人

4. 漁 法

- (1) 操業時刻 = 午前, 午後
- (2) 曳航水深戸 = 上戸曳, 中戸曳, 底戸曳
- (3) 曳航速度 = 4~5ノット
- (4) 曳縄本数 = その他(5~7本)
- (5) その他(操業方法等)

漁法は他の曳縄と同様であるが、曳航速度はテンテンの回転に関係があるので各船によって異なるが普通 35 p₃ で 1,000 ~ 1,050 回転である。本サワラは天候、水深、潮の速さにより上戸から底戸まで広く分布し、水温 17 ~ 20 °C 位までは、表戸から中戸までの漁獲が多く、水温 17 °C 以下では殆んど底に移る。従って、漁具のピン打ちも上戸から底戸まで曳航できるようにバランスをとる必要あり。

5. 漁 期 12月~4月(最盛期 1月~3月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 15 m ~ 40 m
- (2) 底 質 = 砂 地
- (3) 漁場の選定 = 水温

7. 餌 料

	餌 等
	カグラ等
種 類	黒丁テンテン
大 き さ	10 ~ 12 cm
そ の 他	赤・桃・青・白・黒色等

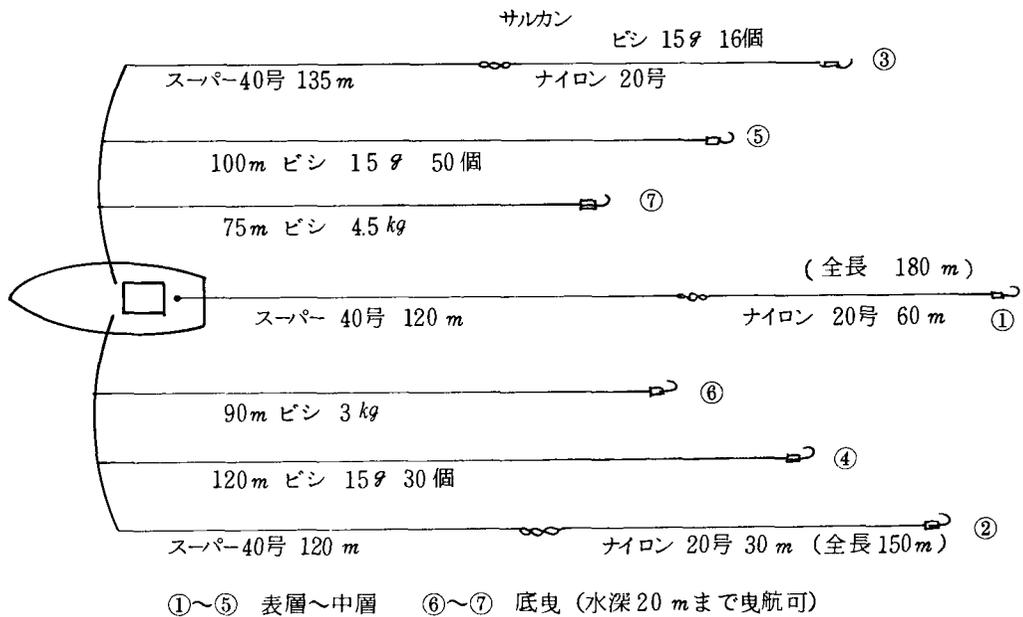
8. 主 な 漁 獲 物 サゴシ

9. 漁獲物の処理 水氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	スーパートト	40号 120 ~ 135 m	3	両サイドと中央に使用
中 索			5 ~ 7	両サイドと中央の曳索のともと両サイドに1~2本ずつ使用
幹 縄	ナイロン	20号 (ビシ15号~4.5kg)		
釣 元				
餌 料 (擬似餌)	プラスチック	黒丁テンテン	5 ~ 7	.
張 出 棒	F R P	8 m m	3	中央 1 両サイド 2
燃 取 り	真 鍮	ボックスサルカン 5/c	3	両サイド使用
抵 抗 板				

11. 漁具図又は操業図 (曳航図)



サゴシ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 志布志漁業協同組合
2. 調 査 担 当 大隅水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 3.62 t 20 疋 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午前, 午後(6時30分~15時)
(2) 曳航水深戸 = 上戸曳, 中戸曳, 底戸曳
(3) 曳航速度 = スローよりやや速め
(4) 曳縄本数 = 4本
(5) その他(操業方法等)

小魚が付いていそうな場所を曳いて漁場をさがす。

一匹でも釣れると, その近辺を, 何度も行ったり, 来たりして操業する。日の出前と, 10時ごろが釣れる。

5. 漁 期 11月~3月

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 20 m ~ 60 m
(2) 底 質 = 天然礁, 人工礁, 砂地

7. 餌 料

	餌 等
	カグラ等
種 類	ギリギリ
大 き さ	12 cm
そ の 他	挑色系統が多い

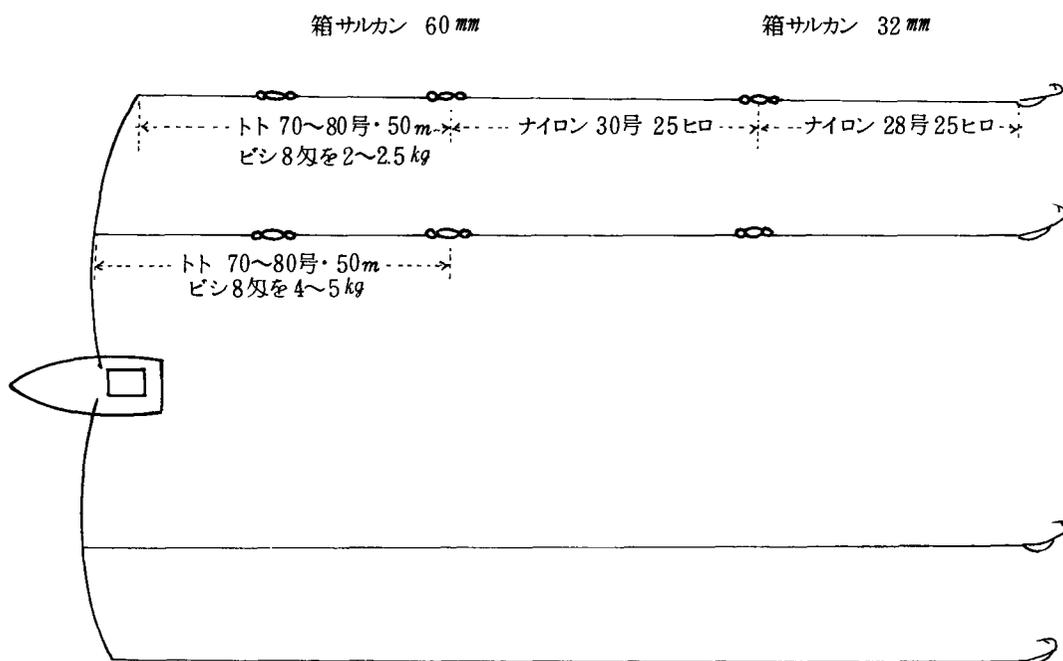
8. 主 な 漁 獲 物 サワラ, サゴシ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 漬

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	スーパートト	70 ~ 80 号 50 m	4 本	
中 索	ナイロン	30 号 25 ヒロ	4	
幹 縄	〃	28 号 25 ヒロ	4	
餌 (擬似餌)	プラスチック	ギ リ ギ リ	4	
張 出 棒	もうそう竹	6 ~ 6.5 ヒロ	2	
撚 取 り	しんちゅう	箱サルカン 60 mm 32 mm	2 × 4 4	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



ヨコワ 曳縄漁業

1. 資 料 提 供 笠沙町漁業協同組合
2. 調 査 担 当 南薩水産業改良普及所
3. 漁 船規模及び乗組員 6.98 t 55 疋 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午前, 午後
- (2) 曳 航 水 深 戸 = 上戸曳, 中戸曳
- (3) 曳 航 速 度 = 5 ~ 6 ノット
- (4) 曳 縄 本 数 = 潜航板 4 ケ, バクダン 2 ケ
- (5) その他 (操業方法等)

ヨコワ 一 板の振りを大きくし, 水深をやや深くする。

カツオ 一 板の振りを小さめにし, 速く振るようにする。

バクダンは同じ間隔で早く飛び上るようにする。

シャクリが悪ければピン縄の長短で調整する。

水分を持ってくると飛び上りが悪くなるので取りかえる。

5. 漁 期 12 月 ~ 3 月

6. 漁 場 漁場の選定 = 水 温

7. 餌 料

	餌 等	
	カ グ ラ 等	ホ ロ 等
種 類	シャクリ	タコ
大 き さ	8 cm	10 cm
そ の 他		挑色系統

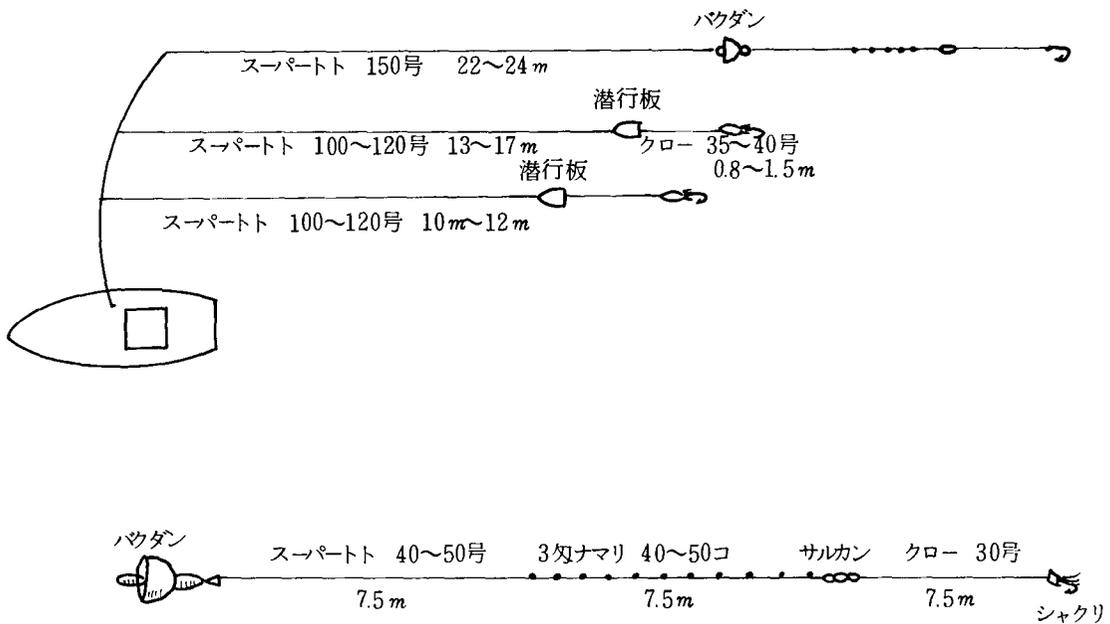
8. 主 な 漁 獲 物 ヨコワ, カツオ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	ス ー パ ー ト ト	150号 22~24 m	2	両 サ イ ド
		100~120号, 10~17 m	4	中 央
幹 縄	ナイロン(クロー)	30号 7.5 m	2	両 サ イ ド
		35~40号, 0.8~1.5 m	4	中 央
餌 料 (擬似餌)	ゴ ム	タ コ ボ ロ	6	
釣 針	鋼	20 号	6	
張 出 棒	竹, FRP	9 ~ 10 m	2	
抵 抗 板	バクダン(合成)	30 cm	2	両 サ イ ド
	潜 行 板(木)	25 cm	4	中 央

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



シビ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 名瀬漁業協同組合
 2. 調 査 担 当 奄美水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 3.5 t 50 疋 1人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 朝間ヅメ, 夕間ヅメ
 (2) 曳航水深戸 中戸曳
 (3) 曳航速度 6ノット
 (4) 曳縄本数 飛行機2ヶ, その他(4本曳の内2本はビシ付)
 (5) その他(操業方法等)

鳥, 浮魚礁を目あてに出漁し, はねている魚群(この場合小型魚(2~4kg/匹))を礁確認したら周辺を曳航する。

張出棒は両サイドに各一本出し, 先端をヒコーキにする表層曳き, 内側をビシ付きで中層曳きとする。

中層曳きは大型魚が対象となる。

曇天, 雨天が漁がある。

7~8年前高知県から導入された。漁獲効率が良い。

5. 漁 期 4月~6月(最盛期6月)
 6. 漁 場 漁場の選定 = (鳥, 浮魚礁)
 7. 餌 料

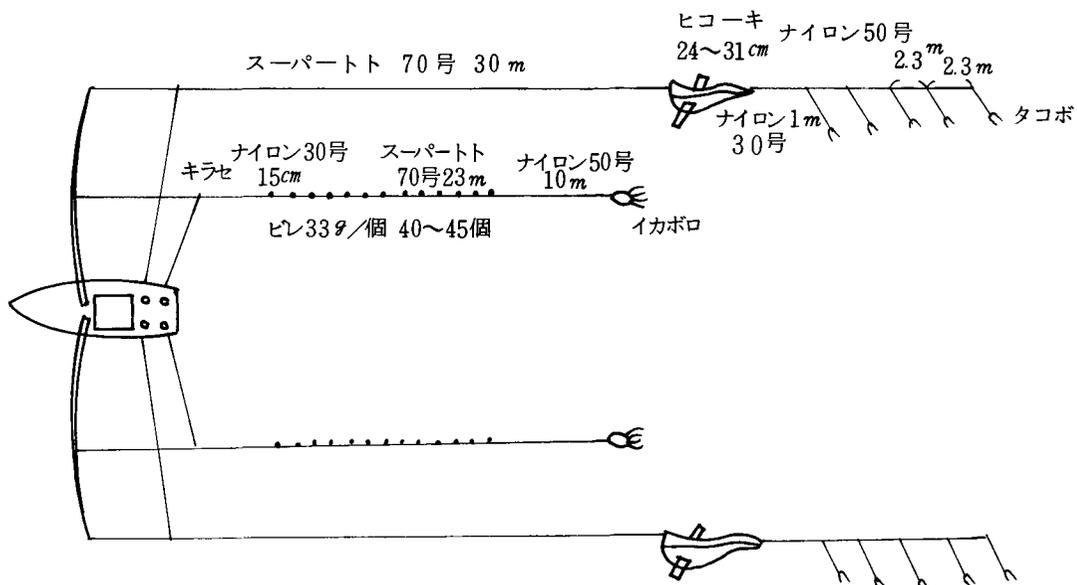
	餌 等	
	カグラ等	ホロ等
種 類		タコボロ3号(表層) イカボロ(中層)

8. 主 な 漁 獲 物 キハダマグロ(3~4kg/匹), カツオ
 9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	スーパートト	70 号	800 m	200 m × 4 本
幹 縄	ナイロン	50 号	40 m	10 m × 4 本
釣 元	ナイロン	30 号	10 m	1 m × 5 個 × 2 本
餌 料 (擬 似 餌)	ビニール "	タコボロ 3号 (10cm) イカボロ	10本 2本	5本 × 2
ト ッ タリ	ナイロン	30 号	30 cm	中層曳のみ使用 15 cm × 2 本
張 出 棒	F R P	8 号	2 本	
抵 抗 板	木 製	ヒコーキ 8~10号 (24~31 cm)	2 個	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



ジャンボ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 西之表市漁業協同組合
 2. 調 査 担 当 熊 毛 支 庁
 3. 漁船規模及び乗組員 4.29 t 70 人 1人
 4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 午前, 午後
 (2) 曳航水深 上戸曳
 (3) 曳航速度 3~4ノット(110~1,200回転)
 (4) 曳縄本数 ジャンボ 1ケ
 (5) その他(操業方法等)

天然礁周辺及びビザコのわいている所を操業, 小魚(トビウオ等)が飛ぶ場合は, その速度にあわせて曳航, キハダねらいの時は, 擬似餌が水面上をはねる程度の速度で, また, ヒラマサねらいの時は, 擬似餌が水面上をすべるような速度で曳く。ヒラマサねらいの時は漁具も細め(技50号)にする。

浮子のジャンボは荒天時使用

5. 漁 期 1月~2月(最盛期 キハダ 6月, ヒラマサ 4月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 20 m~100 m
 (2) 底 質 = 天然礁
 (3) 漁場の選定 = 山当, 水温

7. 餌 料

	餌 等
	ホ ロ 等
種 類	ソフトイカ ビニールイカ
大 き さ	5~6寸 4.5寸~5寸

8. 主 な 漁 獲 物 キハダ, ヒラマサ, カツオ

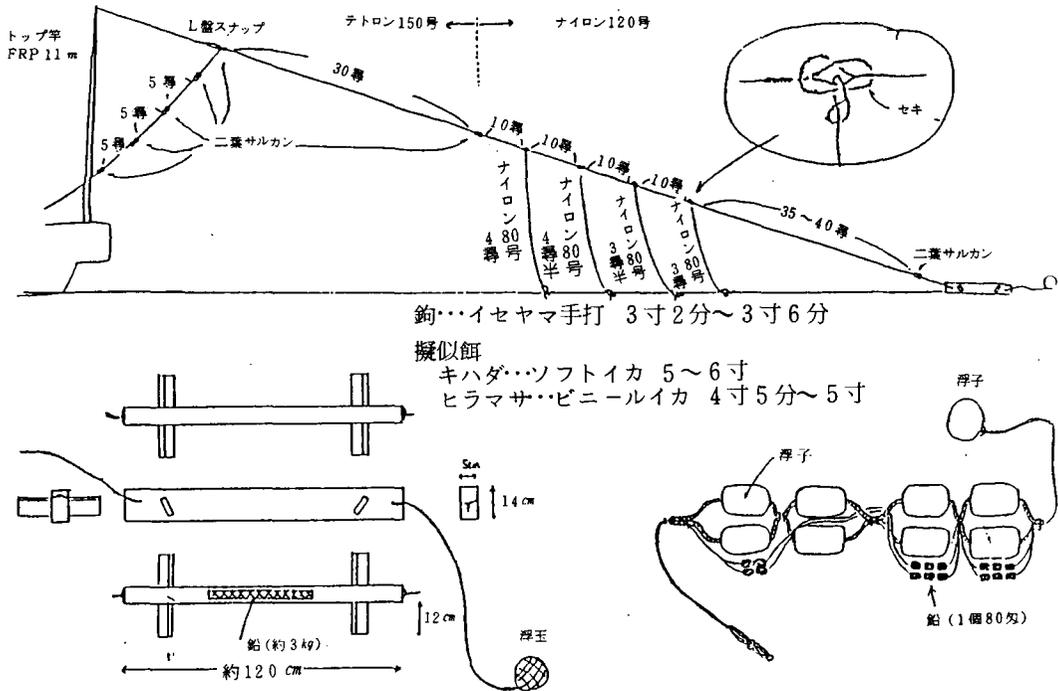
9. 漁 獲 物 の 処 理 活 魚(ヒラマサ), 乾 氷(キハダ)

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	テトロン	150号 40尋	1	
幹 縄	ナイロン	120号 80尋	1	
技 縄	ナイロン	80号	1	技間 10尋
餌 料 (擬似餌)	ビニール	4.5寸 ~ 6寸		キハダ 6~6寸 ヒラマサ 4.5~5寸
釣 針	鋼	イセヤマ手打 3寸2分~3寸6分	4	.
張 出 棒	F R P	11 m	1	
撚 取 り	二葉サルカン	中		
抵 抗 板	木	長さ 120 cm	1	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)

ジャンボ曳縄



ジャンボ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 名瀬漁業協同組合
2. 調 査 担 当 奄美水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 3.5 t 50 名 1 人
4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝間ヅメ, 夕間ヅメ
- (2) 曳 航 水 深 尺 = 上尺曳
- (3) 曳 航 速 度 = 6 ノット
- (4) 曳 縄 本 数 = ジャンボ 1 ケ
- (5) その他 (操業方法等)

浮魚礁や鳥を目当てに出漁し、はねている魚群を確認したら周辺を曳航する。FRP棒1本から5本の釣を曳く。

イカボロが水中から空中へとびはねる様おどらせるのがコツである。

魚は空中で食う時がある。最後部に釣れたら順次釣れる。前部に釣れたらイカボロがとばなくなるため後部は食わないので、すぐ取り込み、やり直す。

小雨の日 (特に梅雨時期) が好漁で、又、長時間釣れる。

5. 漁 期 4 月 ~ 6 月 (最盛期 6 月)
6. 漁 場

- (1) 水 深 = 180 m ~ 800 m
- (2) 底 質 = 浮魚礁等
- (3) 漁場の選定 = 魚礁, 鳥

7. 餌 料

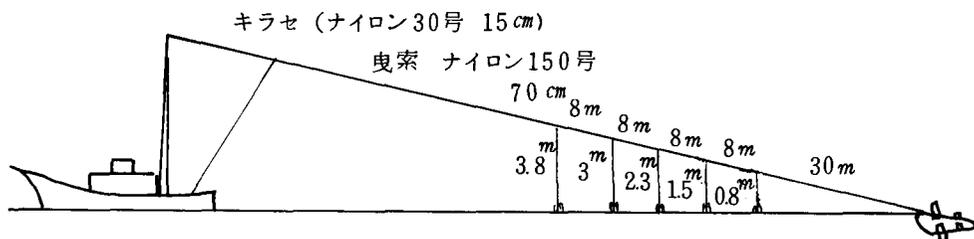
	餌 等
	ホ 口 等
種 類	イカボロ
大 小	15 cm
そ の 他	オレンジ系で透明感 のあるものが良い。

8. 主 な 漁 獲 物 キハダマグロ (20 ~ 30 kg の大型) が主体
カツオ, サワラ, イソマグロ
9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	ナイロン	150 号	150~ 160 m	
釣 元	ナイロン	120 号	0.8~3.8m	0.5ヒロづつ 長くする。
餌 (擬似餌)	ビニール	ヤリイカ 8号 (24 cm)	5 個	技間 8 m
ト ッ タ リ	ナイロン	30 号	15 cm	オレンジ系
張 出 棒	F R P	10 m	1 本	
抵 抗 板	木 製	長 巾 ジャンボゲタ(100 cm×10 cm) (羽根 30 cm)	1 個	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



ジャンボ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 瀬戸内漁業協同組合
 2. 調 査 担 当 奄美水産業改良普及所 (瀬戸内駐在)
 3. 漁船規模及び乗組員 3.6 t 45 p_s 1人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝間ヅメ, 夕間ヅメ
 (2) 曳航水深戸 = 上戸曳
 (3) 曳航速度 = タコが海面より30cm程上るスピード(4~5ノット)
 (4) 曳縄本数 = ジャンボ 1本のみ
 (5) その他(操業方法等)

浮魚礁と天然礁で操業, 主にマヅメ時の操業となるが, 潮によりシビが浮いている時は, これにより操業, 日が上り, シビが沈むと活餌による流し釣にかえる。

5. 漁 期 3月~7月(最盛期 4月~5月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 300 m ~ 800 m
 (2) 底 質 = 天然礁 浮魚礁
 (3) 漁場の選定 = ロラン

7. 餌 料

	餌 等
	ホ ロ 等
種 類	タコホロ
大 き さ	4 ~ 6 寸

8. 主 な 漁 獲 物 キハダ

9. 漁 獲 物 の 処 理 水 氷

カジキ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 喜界島 漁業協同組合
2. 調 査 担 当 奄美水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 3～5 隻 25～40 名 1 人
4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 朝間ヅメ, 午前, 午後 (日没まで)
- (2) 曳 航 水 深 尺 = 表尺曳
- (3) 曳 航 速 度 = 7～8 ノット
- (4) 曳 縄 本 数 = 飛行機 2 ヶ
- (5) その他 (操業方法等)

AM 4:00～出船, 港から出るとすぐに漁具を投入水深 200～400 m を中心に潮上を曳く, 擬似餌はジグザグ動くものが良い。但し, 回転するものはダメ。カジキがかかれば船を止め, 手でやりとりをしながら取り込む。取り込み時は, 船端に魚を寄せモリで止めをさしウインチで船上にあげる。

かじきは, 群をなして遊泳し, 遊泳層の水温は 24～25℃であり, 表面水温が 24～25℃になる 6～7 月が盛漁期となる。

5. 漁 期 5 月～7 月 (最盛期 6 月～7 月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 200 m～400 m
- (2) 底 質 = その他 (岩盤)
- (3) 漁場の選定 = 魚探, 山当

7. 餌 料

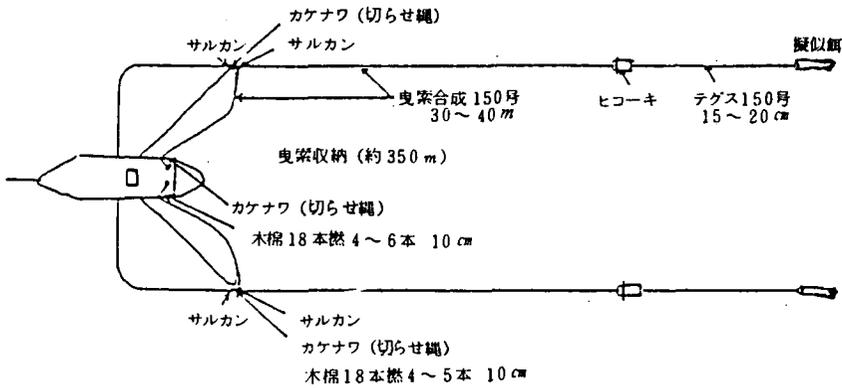
	餌 等	
	カグラ等	ホロ等
種 類	頭部は牛角	イカ擬似餌
大 き さ		8～9 寸
そ の 他		

8. 主 な 漁 獲 物 クロカジキ (80～250 kg), 90 %
バショウカジキ (30～40 kg)・マカジキ (50～60 kg) 10 %
9. 漁 獲 物 の 処 理 氷 漬

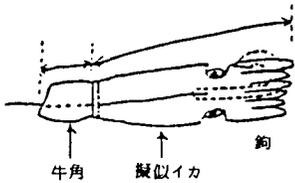
10. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
曳索	テトロン(道糸)	3mm 400m	2	
釣元	ナイロン	150号 15~20m	2	
餌 (擬似餌料)	イカ, 牛角	8~9寸	2	
釣針	曳縄鈎	大又は中	2	
張出棒	竹又はFRP	5~7m	2	
撚取り	真鍮		4	
飛行機	木製(鉛入り)	45cm ~ 60cm	2	

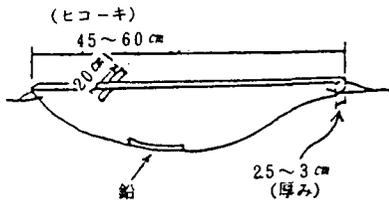
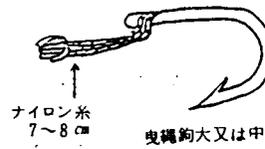
11. 漁具図又は操業図(曳航図)



(擬似餌)



(釣)



ヒラメ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 市来町 漁業協同組合
2. 調 査 担 当 西薩水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 12 t 14 人₅ 1 人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午前, 午後
- (2) 曳航水深戸 = 底戸曳
- (3) 曳航速度 = 2~3ノット
- (4) 曳縄本数 = 潜航板 1ヶ
- (5) その他(操業方法等)
- 漁具は1本を使用し, 曳索の端を手を持ちたり, 船に引掛けたりして2~3ノットの速度で曳航する。
 - 潜航板は海底から1m以内にあるように曳航する。
 - 曳航方向は曳きやすい方向に曳き, 深浅に合わせて曳索を調節する。
 - 魚がかかれば重くなり, 潜航板は少し上にあがる。そこで, 曳索を少し伸ばす。ある程度魚がかかってから取り上げる。

5. 漁 期 1月~12月(最盛期 12月~3月)

6. 漁 場

- (1) 水 深 = 5 m ~ 30 m
- (2) 底 質 = 天然礁, 人工礁, その他(砂質で瀬のそばがよい)
- (3) 漁場の選定 = ロラン, 山当

7. 餌 料

	餌 等
	ホ ロ 等
種 類	タ コ
大 き さ	10 cm

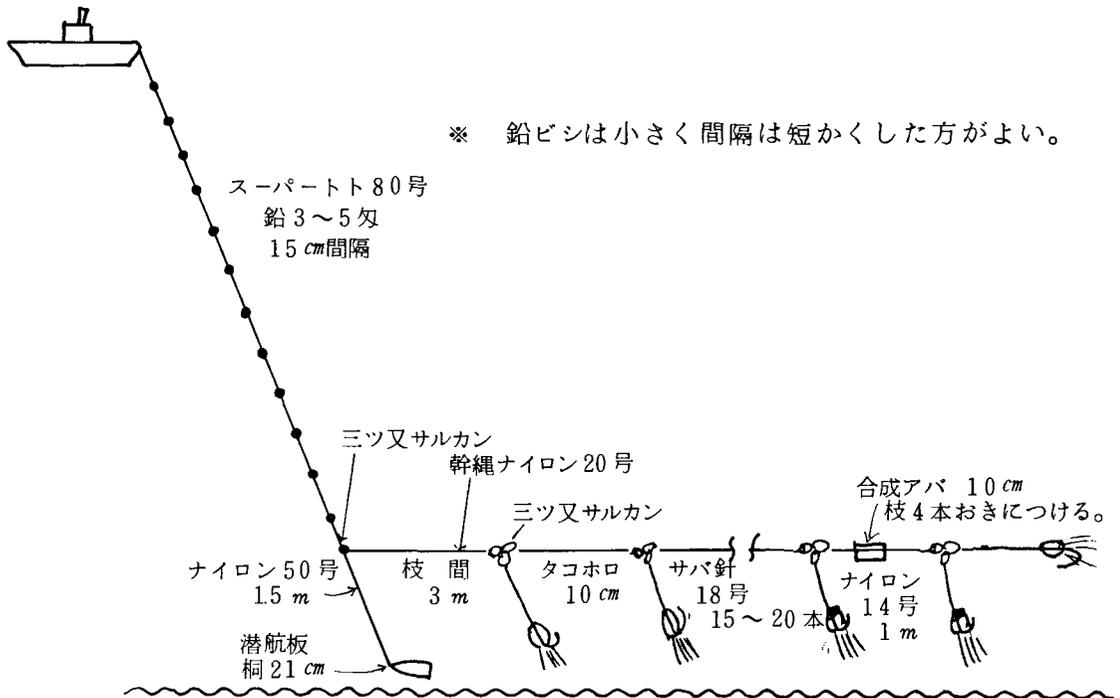
8. 主 な 漁 獲 物 ヒラメ, エソ

9. 漁 獲 物 の 処 理 活 漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	ス ー パ ー ト ト	80 号 鉛 ビ シ 付	45 m	
中 索	ナ イ ロ ン	50 号	15 m	
幹 縄	〃	20 号	42 ~ 57 m	
枝 縄	〃	14 号	1 m	枝間 3 m
餌 料 (擬似餌)	タ コ ・ ホ ロ	10 cm	15 ~ 20	
釣 針	鋼	サバ針 (サワラ針) 18号 23号 サバ針の間に5~6本入れることもある。	15 ~ 20	
抵 抗 板	桐 , 杉	18 ~ 24 cm	1 個	潜 航 板
浮 子	合 成	10 cm	4 ~ 6	

11. 漁具図又は操業図 (曳航図)



タチウオ曳縄漁業

1. 資料提供 錦江漁業協同組合
2. 調査担当者 鹿児島水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 1～2 t 5～10 Ps 1人

4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ, 夕間ヅメ
(2) 曳航水深層 = 底層曳
(3) 曳航速度 = 2ノット前後
(4) 曳縄本数 = 1本
(5) その他(操業方法等)

- 船をスローで前進しながら船尾から釣を一本ずつ左右に投げわけていき, 最後に道糸に結んで交りを一たん底までおろし, 4 m～5 m ひきあげて手にもったまま曳航する。
- タチウオの喰いはわかるので自然と延してやる。1回の操業は 15～20 分, 揚縄は自動巻揚機でやる。

5. 漁期 1月～12月(最盛期 4月～10月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 80 m～150 m
(2) 底質 = 天然礁(天然礁周辺)
(3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	生 餌
種 類	カタクチイワシ
大 き さ	10 cm 前後

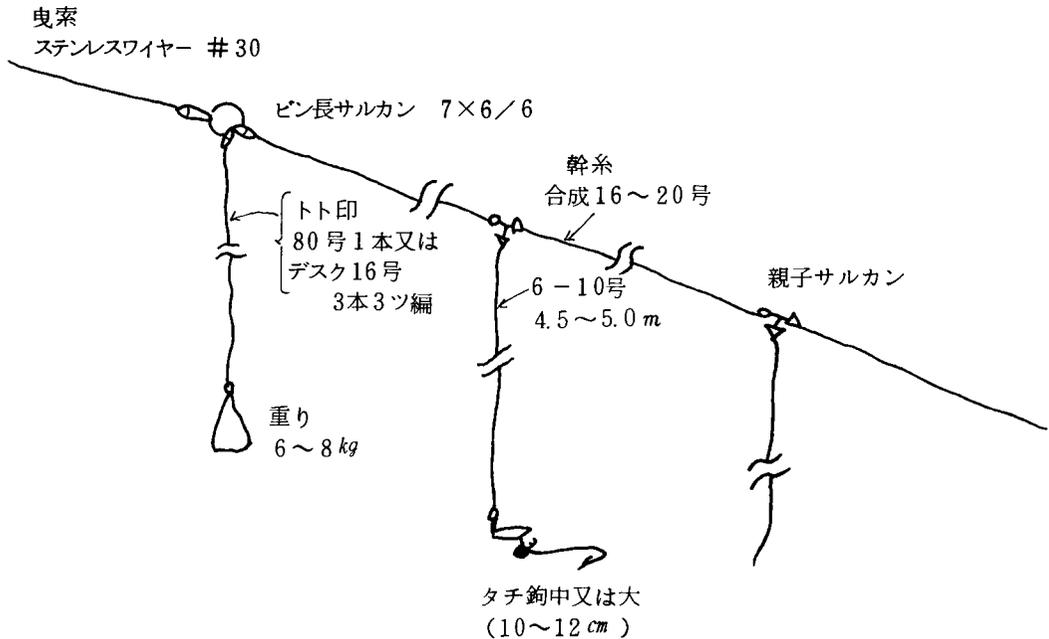
8. 主な漁獲物 タチ魚

9. 漁獲物の処理 水氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
曳 索	ステンレスワイヤー	#30 150 m	1 本	
幹 糸	合 成	18~20号 (6×7 m) × 20本	20本	
技 縄	〃	6~10号 4.5~5.0 m	20 本	技間 6~7 m
釣 針	鋼	タチ鉤(11~12 cm)	20 本	
重 り	鉛	6 ~ 8 kg	1 ケ	
サルカン	シンチュウ	ピン長 サルカン		

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



タチウオ曳縄漁業

1. 資料提供 串木野市島平漁業協同組合
 2. 調査担当者 西薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 3.55 t 45 Ps 1人
 4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ, 夕間ヅメ, 夜間(6時~8時)
 (2) 曳航水深層 = 底層曳
 (3) 曳航速度 = 曳索角度が45度になるようなスロー航走
 (4) 曳縄本数 = その他(1本曳)
 (5) その他(操業方法等)

操業は一日中行き, 漁具は4~5組準備する。エンジンを低速にし, 船足をごくスローにし投縄を行う。鉛が底についてから水深に対しワイヤーロープは下から釣機のタイコで5~8回巻く。曳縄はワイヤーロープの角度が45度になるようにして船足をスローにして走る。漁具はまっすぐになるようにし, 浮子の調整を行う。釣針の位置は底より約1~2m位上になるように調整する。タチがかかったらワイヤーロープを巻きゴムスプリングの所から揚げる。揚がったら替えの漁具を投縄する。揚縄時間は10分位かかる。集団で操業する時は全船同一方向に航走する。魚群探索上集団で操業するのが効果的である。

5. 漁期 11月~4月(最盛期 1月~2月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 20m~30m
 (2) 底質 = その他(底質は特に限られていない)
 (3) 漁場の選定 = ロラン, 山当

7. 餌料

種類	生 餌 (塩 漬)				活 餌
	キビナゴ	サンマ	コノシロ	タレクチ	
大きさ	1尾掛	骨付切身	三枚卸し	1尾掛	1尾掛
その他	大きいものがよい	使用釣針の長さより1~1.5cm長く切る	同 左		

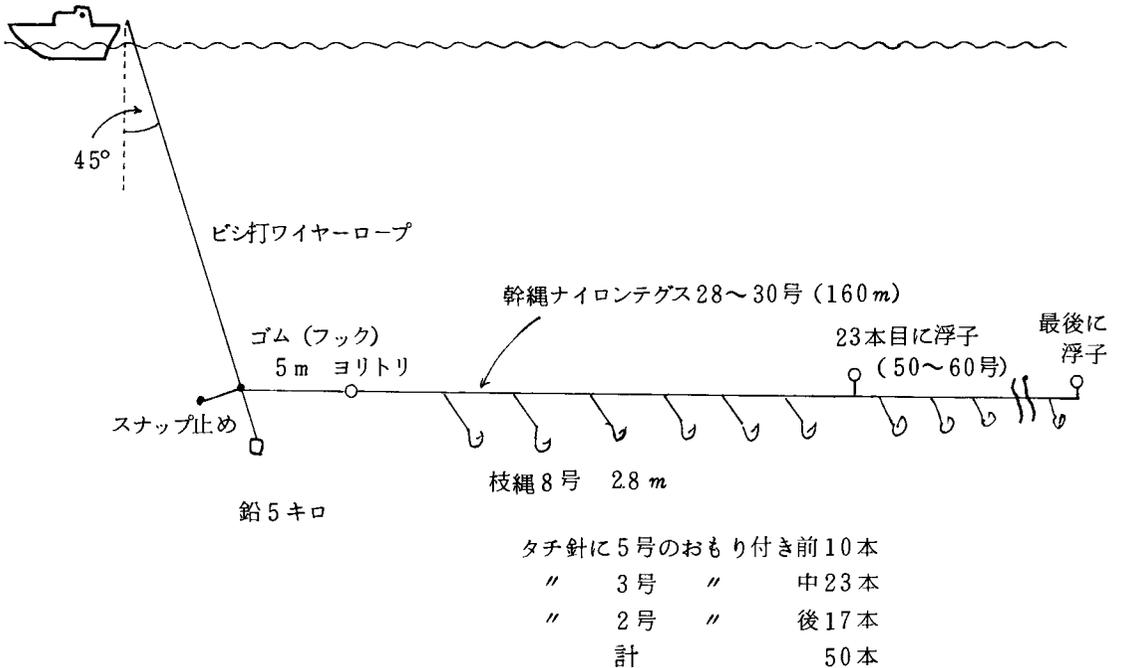
8. 主な漁獲物 タチ

9. 漁獲物の処理 水氷

10. 漁具構成

名称	材質	規格・寸法	数量	備考
曳索	ピン打ワイヤー	30号	20~50	
幹縄	ナイロンテグス	28~30号	160m	
枝縄	ナイロンテグス	8号	2.8m	枝間 枝縄長さより30cm増し
釣針	鉛打込みタチ針	大, 中, 小, 小々	50本	.
重り	鉛	5kg	1個	
ゴムヨリトリ			5m	

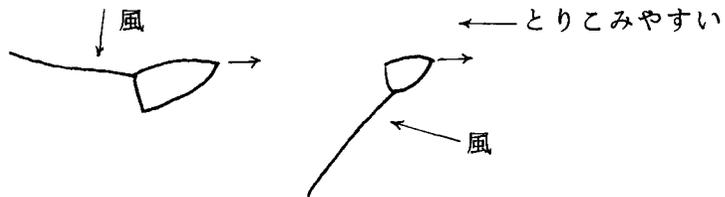
11. 漁具図又は操業図(曳航図)



コウイカ曳縄漁業

1. 資料提供 野間池漁業協同組合
 2. 調査担当者 南薩水産業改良普及所
 3. 漁船規模及び乗組員 3.54 t 35 Ps 1人
 4. 漁法

- (1) 操業時刻 = 朝間ヅメ, 午前, 午後
 (2) 曳航水深層 = 底層曳
 (3) 曳航速度 = 極スロー (クラッチ操作でゴーハイ, ストップ)
 (4) 曳縄本数 = 一本曳
 (5) その他 (操業方法等)
 ○ ゴーハイ ストップをかけながらしゃくる。
 ○ 重くなったら, 長くしゃくってひっかける。



5. 漁期 12月～4月 (最盛期 3月～4月)

6. 漁場

- (1) 水深 = 30 m ~ 40 m
 (2) 底質 = 瀬の近くの砂地
 (3) 漁場の選定 = 山当

7. 餌料

	餌 等
	カグラ等
種類	イカガナ
大きさ	16 cm

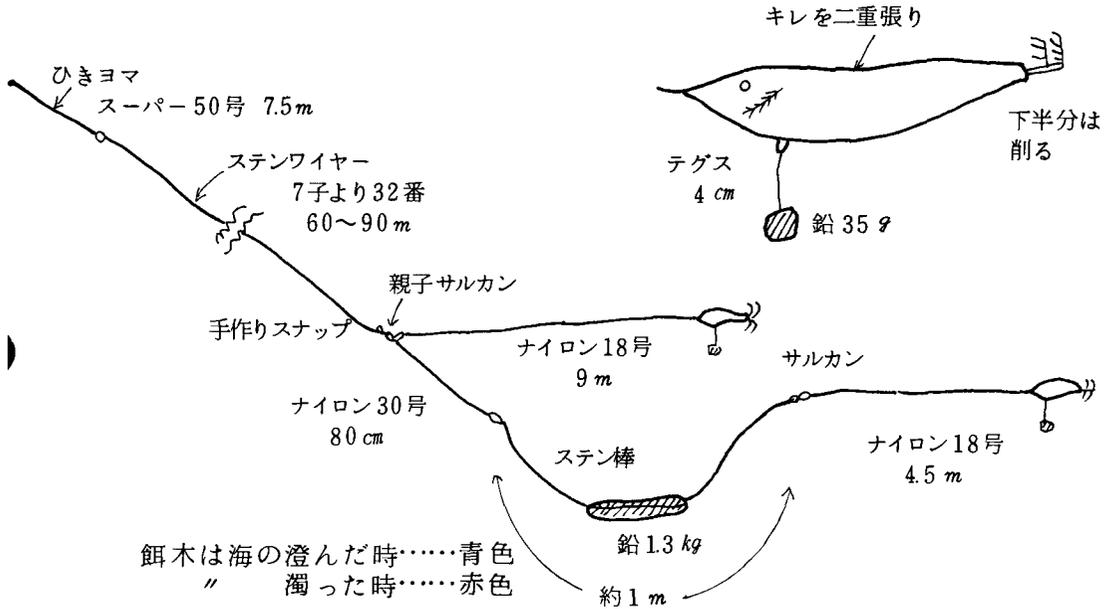
8. 主な漁獲物 コウイカ

9. 漁獲物の処理 活漁

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格・寸 法	数 量	備 考
曳 索	ステンワイヤー	7子より 32番	60~90 m	60. 75. 90 m 3 通りを常備
幹 縄	ナイロン	30号	80 cm	
釣 元	ナイロン	18号	4.5 m	
枝 縄	ナイロン	18号	9 m 4.5 m	
餌 料 (擬似餌)	桐	手づくり長さ16 cm	2	
ひきヨマ	スーパー	50号 7.5 m	1	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)



メチカ曳縄漁業

1. 資 料 提 供 上屋久町漁業協同組合
2. 調 査 担 当 鹿児島水産業改良普及所
3. 漁船規模及び乗組員 4.55 t 50 p_s 2人

4. 漁 法

- (1) 操 業 時 刻 = 午前, 午後
- (2) 曳航水深戸 = 上戸曳
- (3) 曳航速度 = 3~4ノット
- (4) 曳縄本数 = 潜航板 5ヶ
- (5) その他(操業方法等)

水温, 潮目を基準に漁場を探し, 探索用の道具(20m)を1本出して
おき, 喰いついたら, 準備してあるシラサ(チリメン)とソーメンをま
ぜたおけに散水機で水を少量ずつ入れてカブシが自然と出るようにし,
竿を出し, 施回する。施回の半径は30~50m。

5. 漁 期 1月~4月(最盛期 2月~3月)

6. 漁 場

- (1) 漁場の選定 = 水温

7. 餌 料

	餌 等		撤 餌
	カグラ等	ホロ等	
種 類	メチカカブラ (2本鉤)	鳥毛等	シラサ・ソーメン

8. 主 な 漁 獲 物 メチカ

9. 漁獲物の処理 水氷

10. 漁 具 構 成

名 称	材 質	規 格 ・ 寸 法	数 量	備 考
幹 縄	ナイロン	18 ~ 20号 1ヒロ	1	
釣 元	〃	10号 70 cm	1	
餌料(擬似餌)	鋼	メチカカブラ 2本鉤	1	撒 餌 シラサキ ソーメン
抵 抗 板	水	潜 行 板	1	
釣 竿	竹又は樹脂竿	2 m	5~6本	

11. 漁具図又は操業図(曳航図)

